令和7年度　文部科学省委託事業

「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」
（人口減少地域の職業人材を確保するための
専修学校振興プログラム）
[人口減少地域の職業人材を確保するための
専修学校の教育モデル開発]

事業全体成果報告書

本報告書は、文部科学省の教育政策推進事業委託費による委託事業として、≪学校法人イデア熊本アジア学園イデア IT カレッジ阿蘇≫が実施した令和 7 年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」の成果をとりまとめたものです。

学校法人イデア熊本アジア学園
イデア IT カレッジ阿蘇

内容

（1）事業の趣旨・目的等について 2
（2）当該教育カリキュラム・プログラム／調査研究が必要な背景について 3
（3）開発した教育カリキュラム・プログラム／調査研究の概要 8
ⅰ）名称 8
ⅱ）内容 8
（4）具体的な取組 9
ⅰ）計画の全体像 9
ⅱ）今年度の具体的活動 13
〇事業を推進する上で設置した会議 16
〇事業を推進する上で実施した調査 26
①「地方創生 × IT・AI 活用」教育・企業ニーズ調査 26
②「地方創生 × IT・AI 活用」先行事例調査 35
③18 歳以上・社会人の学びニーズ調査 38
④企業ヒアリング調査 40
⑤リカレント受講生の受講動機調査 42
〇開発に際して実施した実証講座の概要 44
ⅲ）開発した教育カリキュラム・プログラム／調査研究結果の検証 50
（5）事業実施に伴うアウトプット（成果物） 51
（6）事業実施によって達成する成果及び測定指標 105
（7）本事業終了後※の成果の活用方針・手法 107

（1）事業の趣旨・目的等について

〇熊本県においては、人口減少の加速、インバウンド需要の加速する中で、地方創生の中核を担う業界が、観光産業である。
一方、観光産業は慢性的な人材不足に陥っており、その課題は低い労働生産性と現場の IT スキル人材不足に挙げられる。
既に国内の労働力の供給では限界があり、IT スキルのアップデートされた実務人材育成及び専門知識を有する外国人材の確保がその課題解決となりえる。
特に、昨今では、「観光業界の地域課題や業務内容に精通しつつ、IT・AI やテクノロジーを活用して、地方創生をリードする人材が求められている。
〇専門学校イデア IT カレッジ阿蘇(IICA)は、2022 年に人口 1 万人の南阿蘇村に IT と観光サービスの人材を育成するために開校した。
超高齢化少子化の村で、熊本地震からのソフト復興のモデルとして開校し、国際学生7か国からの受入れや 18 歳以外（既卒者）の積極的受入れを行い、企業との連携を強化して、就職率 94%（国際学生 100%）、県内就職 60%を誇っている。
◎本事業では「地方創生の課題解決 ×IT・AI 活用人材養成プログラム」を開発し・導入して、地域資源を IT・AI の力で可視化・発信・改善・収益化する専門人材を育成し、地域企業に輩出していく。
◎また、地方創生に必要な起業・創業のスタートアップ企業と連携して、アントレプレナーシップの人材育成を行う。
◎加えて、AI 等を活用した学校の教育の質や業務効率化の向上を図るツールを開発して、同様の課題を抱える専門学校に横展開をおこなっていく。

（2）当該教育カリキュラム・プログラム／調査研究が必要な背景について

① 観光業界で、今後どのような変化が起こるか
⇒熊本県内の観光産業の深刻な人材不足

・熊本県内の宿泊者数は、コロナ禍以前（2019 年）の水準を上回り、2024 年に延べ 840 万人と過去最高を記録した。しかし、観光業界で働く人の数はコロナ禍で落ち込んだままの状況が続いている。

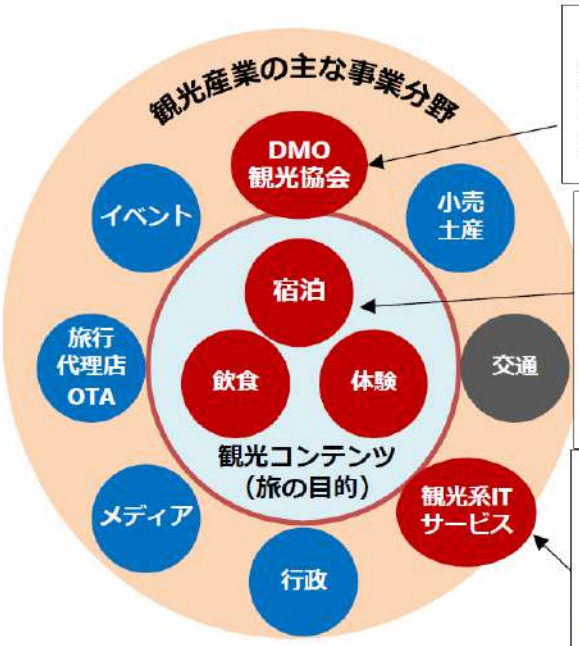
・特に宿泊業の正社員・非正社員の人手不足率は、51 業種中 2 番目に高い水準となっていて、喫緊の課題である。

観光産業の低い労働生産性と現場のデジタルスキル人材不足が喫緊の課題





② 変化を踏まえるとどのような人材が必要となるのか
⇒観光産業の中でも、特に着目すべき IT 人材ニーズ3つの分野



【エリアマネジメント（DMO等）分野】
観光事業者の支援や利害関係者調整をしながら、エリア全体の観光地域経営の実務を担う。DMO等の新しい組織体でありIT人材不足。

【観光コンテンツ（宿泊・飲食・体験）分野】
旅の目的であり、観光産業の事業者。労働集約型サービス提供でテクノロジーの導入が遅れており、労働生産性が圧倒的に低い。既存のITツールの利活用でも生産性向上・高付加価値化への伸びしろが大きい。また、宿に関しては外国人材の活用が積極的である。

【協業先：ITサービス分野】
IT推進の際に観光事業者の協業先となるITベンダー。ITに弱くて必要な仕様を洗い出せない観光コンテンツ事業者も多いため、観光ビジネスに深い理解を持つITエンジニアの存在が、業界全体のIT化を加速させるカギとなる。

(1) 人材不足だが労働生産性が著しく低い、宿泊・飲食・体験業を中心とする
観光コンテンツ分野【宿泊・飲食・体験施設】

(2) 専門性が高度化してIT利活用人材需要に供給が追い付いていない
エリアマネジメント分野【DMO、観光振興団体】

(3)観光事業に精通し、外からITアイディアとテクノロジーを持ち込む
情報サービス分野【IT企業】

観光業界の地域課題や業務内容に精通しつつ、IT・AIやテクノロジーを活用して、地方創生をリードするITマーケティング人材とIT・AIエンジニア人材が喫緊に求められる。

変化を踏まえるとどのような人材が必要となるのか⇒観光産業3つの分野にみるアンケート結果から推測される IT 人材ニーズ

◎R5年度 DX 人材養成プログラム事業（当校受託）の企業人材ニーズ調査より、専門学校卒の IT 利活用人材の活用や採用を聞いたところ、

・①観光コンテンツ分野【宿泊施設】では 49%、②エリアマネジメント分野【DMO】では 35%、③情報サービス分野【観光業を支援する IT 企業】では 75%が採用したい意向があると回答があった。

・また、個別の IT 知識・スキルと合わせて、パーソナルスキル（課題解決力、ロジカルシンキング等）を重要視することがわかった。

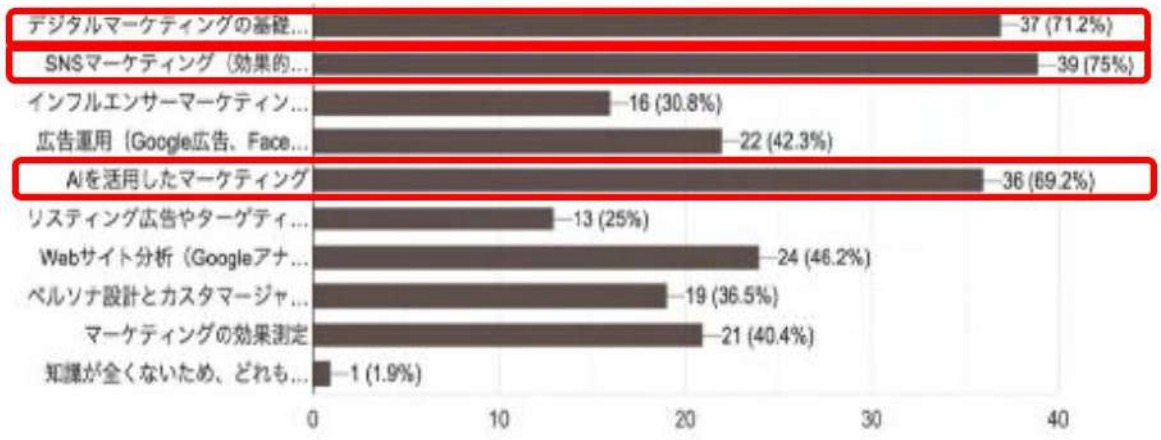
◎R6 年度専修学校リカレント教育推進事業（当校受託）の「IT 活用×地域観光実践プログラム」受講者アンケート調査より、

・受講者の属性は、観光関係事業者が 50%、観光関連以外の事業者が 50%を占め、人材、ICT、経営コンサルタントなど多様な分野からの
参加が見られた。⇒観光業界、地域活性領域には他産業からの人材ニーズが高いことが伺えた。

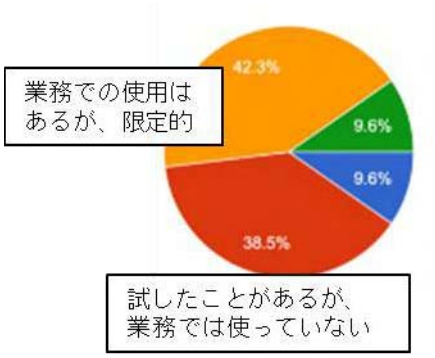
・講座内容としては、成功事例、IT 知識・スキルの講座に加えて、AI 活用・デジタル・SNS マーケティングの要望が高いこと、特に AI を活

用して業務に取り入れたいこと、また質疑応答、ディスカッションの双方向性を強化することで、より学習効果を上げることが伺えた。

○IT利活用で学びたい内容

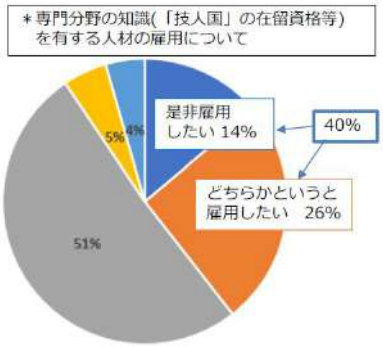


○.ChatGPTなどの生成AIツールの利用頻度と解決したい課題について



【具体的な課題・やりたいこと】

・SEO対策したツアーの宣伝など以外・自社HPでのブログ作成及びSNS投稿等・翻訳・業務効率化・資料作成などの効率化・仕事（職場環境）の効率化・仕事の効率化、広い情報収集・営業補助、総務、経理、労務業務の省力化



◎R6 年度国際化推進事業（熊本県専修学校各種学校連合会受託）「企業の外国人材ニーズ調査」より

・熊本県内の事業者（IT 分野、宿泊分野、介護分野）で現在外国人を雇用している企業は41%、過去
雇用を含めると、48%社と、雇用状況は高い。

・専門学校卒業生（専門分野の知識を有する外国人材「技人国」）の採用についても、意向があるが
40%と回答があり、積極的な外国人材活用が伺える。

・一方で、日本語能力 N2 以上やコミュニケーションについての不安があると回答されている。

③人材の育成をどのように専修学校が担っていくのか

■専門学校イデア IT カレッジ阿蘇（IICA）の概要と人材育成

・IICA は 2021 年に人口 1 万人の南阿蘇村に、IT と観光サービスの人材を育成するために開校した。

教育理念	阿蘇をキャンパスを捉え、グローバルとローカルの視野と主体性を持って、ITを駆使して、地域社会の未来を創る人材を育成する。

	柱	6つのディプロマポリシー要素
教育3つの力	①人間力	主体性 創造性
	②専門力	実践スキル デジタルスキルとITリテラシー
	③国際性	グローバルとローカル ダイバーシティ&インクルージョン

	課程・学科名	科目/時数
2つの学科	文化・教養/地域観光デザイン学科（TD科）	39科目
	IT利活用とマーケティングで地域観光を担う人材を育成する	1728時数
	工業/ITソリューション学科　（ITS科）	43科目
	ITの力で地域の課題を解決するITエンジニアを育成する。	1728時数

④選ばれる専修学校となるためにどのような取組が必要なのか

〇【学生から選ばれる学校】

・開校時から、18 歳人口が減少することを見込み、多様な学生を受入れ、学生から選ばれる学校を目指している。

・国際と日本学生の比率 51%:49%

・国際学生が、延べ 11 カ国、現在 7 カ国が在学中。

・18 歳以外の学生が、在校、卒業生の中で 15%程度いる。

＊18 歳以外の社会人経験の学生は、卒業後に起業したり、地域のスタートアップ企業に就職する等、その関心が高い。

〇【企業から必要とされる学校】

・企業が求める人材のニーズに応じて、授業・学習カリキュラムを展開し、最終的には学生の就職に繋げていくこととを「法人サポーター（R7 年 4 月 65 社）」として提携している。

〇【地域から必要とされる学校】

・キャンパスを阿蘇地域全体と捉えて、地域住民、事業者、行政、中高校と密接に関わっている。阿蘇地域に唯一存する高等教育機関専門学校の役割を担っている。

・阿蘇地域での小中高生との授業連携・交流 20 回(R5,6 年度)

・南阿蘇村居住者数 28 人、アルバイト従事者 23 人

▼既存の教育プログラムでは観光業界の企業や地域のニーズに対応できない理由・課題

・観光業界の地域課題に精通して現場観があり、かつ生成 AI に関する講師やカリキュラム作成を有する講師が、阿蘇地域にはいない。

・地方創生の出口の 1 つである起業・スタートアップに関しては、フィールドや企業との実践的な場や講師が求められる。
・企業からは、パーソナルスキル（課題解決力、ロジカルシンキング等）、質疑応答やディスカッションの双方向性等のアクティブ
ラーニングの教育プログラムがより重要視されている。
＊国際学生が企業で即戦力になるは、日本語能力で N1、N2 が求められ、専門的な言語を含めた日本語能力の向上が求められる。

（3）開発した教育カリキュラム・プログラム／調査研究の概要

ⅰ）名称

地方創生の課題解決 × IT・AI 活用人材養成プログラム事業

ⅱ）内容

〇開発する教育カリキュラム・プログラム／実施する調査研究の全体像

◎開発する教育カリキュラム・プログラムの開発と実証講座の導入

①IT マーケティング科目群～IT とマーケティングで地域課題解決を実践的に習得できる科目群 6 科目（新設 4 科目、改訂 2 科目）

②IT・AI エンジニア科目群～生成 AI の活用からマーケティングを実践的に習得ができる科目群 6 科目（新設 4 科目、改訂 2 科目）

③IT 国際科目群～IT の基礎知識を学びながら日本語能力の向上を目指す科目群 4 科目（新設 4 科目）

R8 年 4 月より文化・教養課程「IT 国際学科」をスタートさせる留学生特別 1 年コース。

・既存の地域観光デザイン学科に、①IT マーケティング科目群、既存の IT ソリューション学科に②IT・AI エンジニア科目群

・新設（R8 年 4 月開設）の「IT 国際学科」に③IT 国際科目群を導入していく予定。留学生特別 1 年コースの設置。

今回開発する教育カリキュラム・プログラムの新規性

◎起業・創業のスタートアップの場（企業・地域）と連携していく実証講座を導入

・「地方創生の課題解決」人材は、会社に就職するという出口だけでなく、起業・創業のアントレプレナーシップの素養も求められる。この人材育成は、学校の授業のみならず、実際に阿蘇地域で起業・創業して地域課題解決に取り組む企業や地域と繋がり、フィールドを活用していくことが重要であり、今回実証講座で導入して、そのひな型をつくる。

◎AI 等を活用した学校の教育の質や業務効率化の向上を図るツール開発と横展開

・人口 1 万人の村で持続可能な専門学校の在り方として、開発する教育カリキュラム・プログラムを推進するには、マンパワー不足は大きな課題である。AI や遠隔授業、留学生の学生管理システム等を活用し、ローカルでの専門学校の教育の質や業務効率化の向上を図るツールを開発し、これを他の学校に横展開していく。

（4）具体的な取組

ｉ）計画の全体像

（タイトル）「地方創生の課題解決 x IT・AI活用」の教育カリキュラム・プログラム
（目指す人材像）観光業界の地域課題や業務内容に精通しつつ、IT・AIやテクノロジーを活用して、地方創生をリードする人材

◎開発する教育カリキュラム・プログラムの開発の概要
①IT マーケティング科目群～IT とマーケティングで地域課題解決を実践的に習得できる科目群　6 科目（新設 4 科目、改訂 2 科目）
②IT・AI エンジニア科目群～生成 AI の活用からマーケティングを実践的に習得ができる科目群　6 科目（新設 4 科目、改訂 2 科目）
③ IT 国際科目群～IT の基礎知識を学びながら日本語能力の向上を目指す科目群　4 科目（新設 4 科目）

科目コース		科目名	新規/改訂	科目概要	時間数
①ITマーケティング科目群 地域観光デザイン学科に導入	1	地域課題実践プロジェクト	改訂	地域課題解決に向けた商品開発	32
	2	観光ビジネスDX⇒地域商品開発	改訂	観光分野におけるIT活用、DX事例を学習	32
	3	地域資源活用プロジェクト	新規	地域資源を活かした企画開発、運営	32
	4	地方創生入門	新規	地域の産業構造や現場の理解	32
	5	AIとWebデザイン	新規	AIを活用したWebサイト制作	32
	6	WebライティングとSEO	新規	SEOを意識したWebでの発信スキル	32
②IT・AIエンジニア科目群 ITソリューション学科に導入	1	地域課題×IT・AI	改訂	デザインシンキング、ITソリューション	32
	2	IoTとデータ活用	改訂	IoT基礎知識、データ分析スキル	32
	3	情報可視化とフレーム	新規	情報分析、情報可視化フレーム習得	32
	4	業務効率化とソリューション	新規	業務分析スキル、効率化ソリューション	32
	5	生成AI利活用スキル	新規	AIを活用したソリューションスキル	32
	6	生成AI開発	新規	AI開発に必要な設定、出力形式を実践	32
③IT国際科目群 IT国際学科に導入予定（R8年4月開設）	1	プレゼンテーション実習	新規	日本語の運用スキルの習得	32
	2	ITと観光業界の基礎	新規	業界の理解や専門用語の習得	32
	3	ビジネスコミュニケーション	新規	インターンシップや就労を見据えたコミュニケーション	32
	4	インターネットと情報リテラシー	新規	ITを学ぶ上での基礎となる知識の獲得	32
	16	科目	新規12科目/改訂4科目		512

令和 7 年度

【1】地方創生×IT 人材養成委員会の開催
本事業の進捗及び調査内容や本教育のカリキュラム、シラバス開発に関する助言の会議を開催する。2 回

【2】地方創生×IT・AI 活用企業ニーズ調査
ターゲット3分野の事業者の本教育への理解度、学生の採用に対して、企業ニーズの実態を把握する。外国人材の採用意向も把握する。60 件

【3】地方創生×IT・AI 活用先行事例調査
既に同様のカリキュラムを実施している教育機関、行政機関、民間企業等について事例研究を行い 7 件

【4】18 歳以外・社会人の学びニーズ調査
18 歳以外・社会人で、観光業界に関心が高い、専門学校で学び直ししたい方々に調査を行い、その実態を把握する。100 件

【5】教育プログラムのシラバスの開発
一部、教材と実証授業の開催
本教育の具体的なカリキュラム、シラバスを開発する。また、実証授業の開催をする。
・シラバス開発 16 科目、512 時数
・実証授業の開催 4 科目、128 時数、

【6】スタートアップ企業との試験的な連携授業
試験的に IT マーケティング科目の授業と連携して、スタートアップ企業と地域観光商品づくり事業を行う。授業連携 2 科目、64 時数

【7】AI 等を活用した教育の質や業務効率化
試験的に生成 AI を活用した業務効率化を作成・導入してみる。
・業務効率化・生産性向上 2 ツール導入

令和 8 年度

【1】地方創生×IT 人材養成委員会の開催
本事業の進捗及び本教育のカリキュラム、シラバス開発、及び講座実施に関する助言の会議を開催する。3 回

【2】本教育プログラムの教材開発
前年度開発した 3 科目群の教材を開発する。
① IT マーケティング科目群
② IT・AI エンジニア科目群
③ IT 国際科目群 12 科目、384 時数、

【3】本教育プログラム実証講座の実施
・開発した 3 科目群の教材をもとに、本科生に実証授業を実施する。
3科目群 16 科目、512 時数、
受講学生 計 50 人
・講座運営用マニュアルの作成
他学校への横展開用に授業デザイン、マニュアルを作成する。

【4】スタートアップ企業との試験的な連携授業
IT・AI エンジニア科目の授業と連携してスタートアップ企業と地域課題×AI 活用事業を行う。授業連携 2 科目、64 時数

【5】AI 等を活用した教育の質や業務効率化
生成 AI を活用した業務効率化を作成・導入していく。業務効率化・生産性向上 4 ツール（既存 2 ツール、新規 2 ツール導入）

【6】継続的連携組織と他学校への展開
専門学校と業界団体、企業等で、本事業の成果物が他の専門学校への展開したり、3 分野の企業や団体に人材を輩出していくための協議会を設置する。また、教育機関、企業・団体等に対して積極的に広報、情報発信していく。
WEB、パンフレット作成、他学校展開 2 校

令和 9 年度

【1】地方創生×IT 人材養成委員会の開催
本事業の進捗及び本教育のカリキュラム、シラバス開発、及び講座実施に関する助言の会議を開催する。3 回

【2】本教育プログラムの教材修正と新規開発
前年度の教材修正と新規 4 科目開発を行う。
①IT マーケティング科目群
②IT・AI エンジニア科目群
③IT 国際科目群 20 科目、640 時数

【3】本教育プログラム実証講座の実施
○開発した 3 科目群の教材をもとに、本科生に実証授業を実施する。
3科目群 20 科目、640 時数
受講学生 計 70 人
・講座運営用マニュアルの作成
他学校への横展開用に授業デザイン、マニュアルを作成する。

【4】スタートアップ企業との試験的な連携授業
IT・AI エンジニア科目の授業と連携してスタートアップ企業と地域課題×AI 活用事業を行う。授業連携 2 科目、64 時数

【5】AI 等を活用した教育の質や業務効率化
生成 AI を活用した業務効率化を作成・導入していく。業務効率化・生産性向上 6 ツール（既存 4 ツール、新規 2 ツール）導入

【6】継続的連携組織と他学校への展開
専門学校と業界団体、企業等で、本事業の成果物が他の専門学校への展開や、3 分野の企業や団体に人材を輩出していくための協議会を運営していく。また、教育機関、企業・団体等に対して積極的に広報、情報発信していく。
広報用 WEB 作成、他の学校展開 4 校

ⅱ）今年度の具体的活動

〇実施事項
令和 7 年度
【1】地方創生×IT 人材養成委員会の開催
目標 2 回⇒結果 3 回
委員を招集し、各実施事業に関して意見交換や助言をいただいた。10 月・12 月・2 月の 3 回実施※詳細は後述

【2】地方創生×IT・AI 活用企業ニーズ調査
目標 60 件⇒結果 53 件＋R4 年度との比較調査、企業ヒアリング 5 社を追加で実施。
①IT 事業者、②DMO・観光振興団体事業者、及び③宿泊事業者の本教育への理解度、学生の採用に対して、企業ニーズの実態に関する理解度や認識度の実態を把握するためにアンケート調査を実施した。外国人材の採用意向も把握するとともに、件数はやや未達ではあったものの R4 年度実施の企業ニーズ調査との比較も行い、経年での変化まで深く分析を行った。R4 年度時点ではあまり実装フェーズではなかった AI の浸透が見て取れ、IT 業界だけではなく、観光振興団体や宿泊事業者においても必須スキル・求められるスキルになってきている。※詳細は後述。

【3】地方創生×IT・AI 活用先行事例調査
目標 7 件⇒結果 7 件
既に同様のカリキュラムを実施している教育機関、行政機関、民間企業等について事例研究を行った。企業連携や、阿蘇エリアでのノウハウ展開の可能性も検討した。※詳細は後述。

【4】18 歳以外・社会人の学びニーズ調査
目標 100 件⇒83 件、リカレント講座参加者コメント 54 件の受講動機分析を追加で実施。
18 歳以外・社会人・またすでに学び直しをしている学生を対象として、観光業界に関心の高さや、学び直しニーズのある分野、また学び直しにおける障壁などを洗い出した。件数はやや目標を下回ったものの、リカレント講座をすでに受けている層にアンケートを取ることができ、リアルなニーズとして、AI やデジタルツールの活用が高く出た。また、障壁として時間や資金の捻出、また「社会から取り残されるのでは」という心理的ハードルが学び直しの大きな壁となっていることも見えた。※詳細は後述。

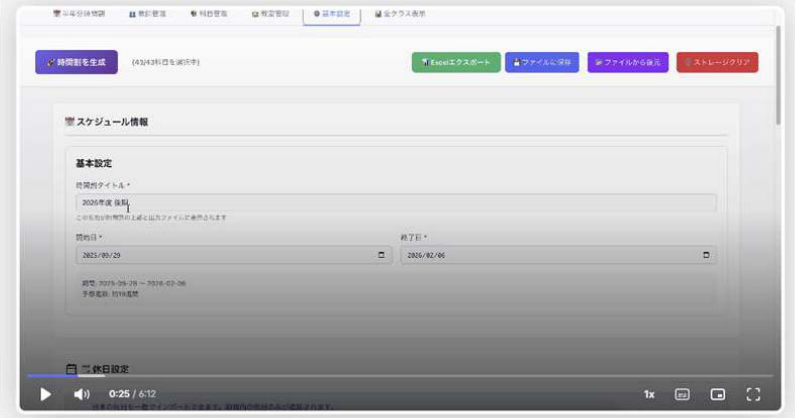
【5】教育プログラムのシラバスの開発
・シラバス開発 16 科目、512 時数⇒結果 17 科目　406 コマ
・実証授業の開催 4 科目、128 時数⇒結果 5 科目 80 コマ（160 時数）
※単位制移行のため一部“時数”から“コマ”換算へ変更
・実証事業の参加者数のべ 30 人→66 人
IT マーケティング科目群 6 科目、IT・AI エンジニア科目群 7 科目、IT 国際科目群 4 科目のシラバスを作成。
実証授業は、IT マーケティング科目群から 2 科目、IT・AI エンジニア科目群から 3 科目の計 5 科目を実施。
教材も実証授業に関して開発。※詳細は後述。

【6】スタートアップ企業との試験的な連携授業
目標 授業連携 2 科目、64 時数⇒結果 2 科目　32 コマ（64 時数）

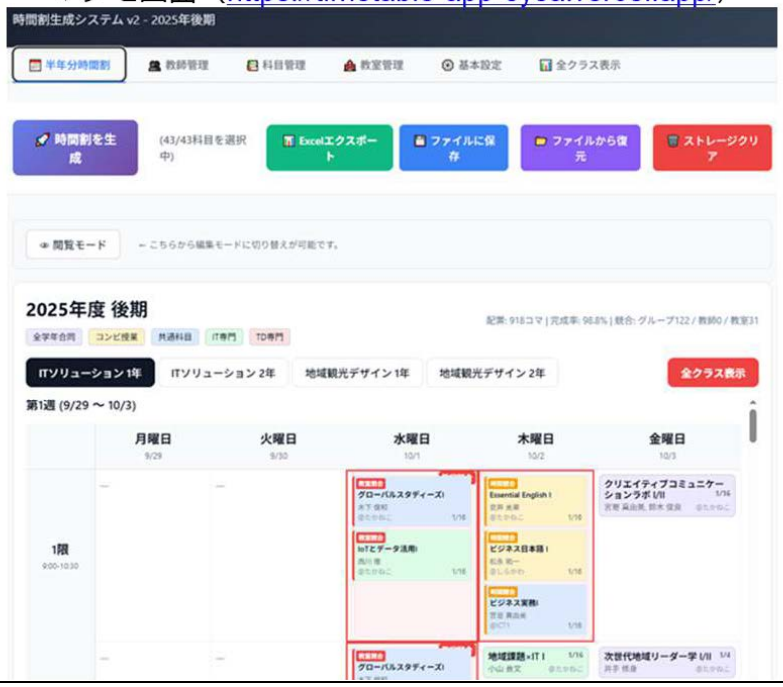
※単位制移行のため“時数”から“コマ”換算へ変更
IT マーケティング科目群の 2 科目にてスタートアップ企業アクウィー、また道の駅阿蘇、地元飲食店 Italiasso（イタリアッソ）3 社を巻き込んだ連携授業を実施。
地域課題実践プロジェクト：アクウィーと協働し、学生主催の「阿蘇の朝飯会（ちょうはんかい）」企画を実施。
地域商品開発：アクウィー・道の駅阿蘇を含む複数事業者での商品開発を実施。実際に道の駅阿蘇にて商品販売も始まった。※詳細は後述。

【7】AI 等を活用した教育の質や業務効率化
目標 2 ツール⇒結果 2 ツール
ツール①時間割生成 AI システム
【課題】IICA は講義の 90%以上を非常勤講師が担っており、各講師都合を調整しながら時間割化する作業に数か月要している。
【解決】生成 AI にカリキュラム、講師都合、教室容量等を入力し、最適な時間割を作成するシステムをつくる。
・動画マニュアル：https://share.cleanshot.com/7jTqxKkm
上記動画マニュアルも作成し、新しいスタッフでも迷うことなく使用できるように整備。

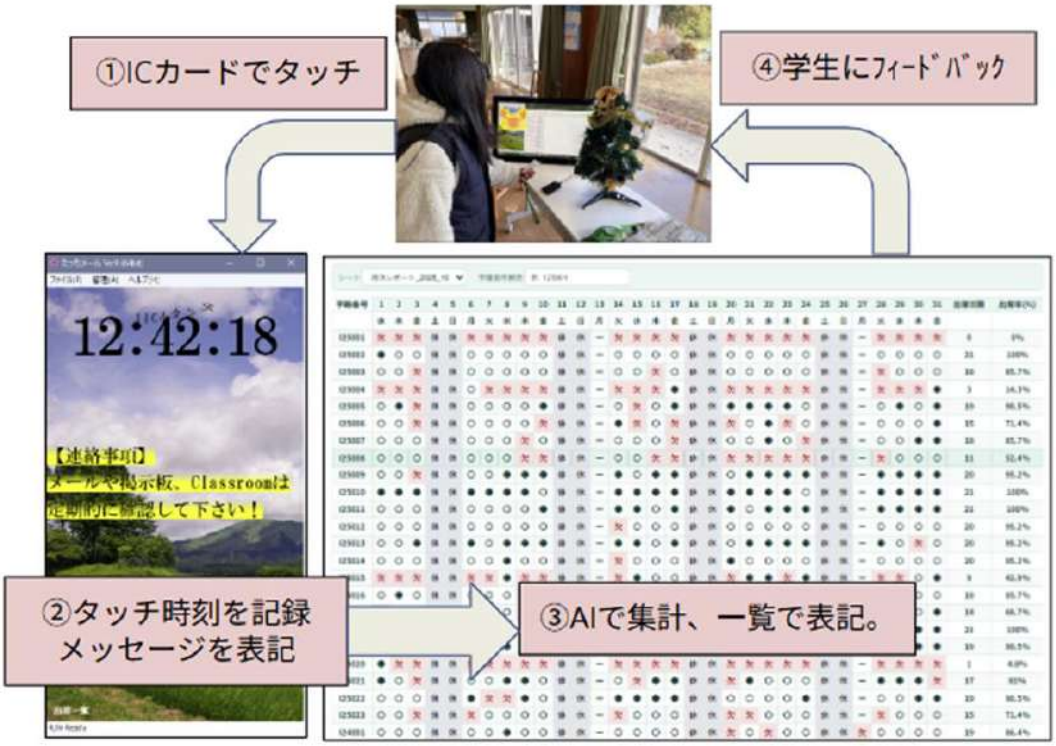
▼動画マニュアル画面



▼デモ画面（https://timetable-app-oyea.vercel.app/）



ツール②入退出（出席）管理システム
【課題】出欠/遅刻等の学生フィードバックは、四半期に 1 回程度の集計・面談となっており、記録も講師任せのみの運営。
【解決】登下校時のデータを元に出欠情報を記録・表示する事で、昨日までの状況と出席率を学生自ら確認出来るようになり、意識が向上。



○事業を推進する上で設置した会議

会議名 ①	地方創生×IT・AI 活用部会⇒地域産業中核的人材養成事業部会		
目的・ 役割	学校、企業関係者で既に設置している「カリキュラム編成委員会」において、本事業のカリキュラム、シラバス、教材の開発を行っていく。 そこで開発されたものを「地方創生×IT 人材養成部会」を新たに設置して、学校、企業、団体、行政のメンバーで構成して、カリキュラム、シラバス、講座実施に関する進捗と助言、評価、検証を行っていく。		
会議の 具体的 内容	・調査、カリキュラム、シラバス、講座実施に関する進捗と助言、評価、検証を行っていく。 ・企業ニーズ調査、先行事例調査、社会人の学びニーズ調査における業界団体等への案内、調査結果の検証 ・教育プログラムのシラバスの開発、一部、教材開発へのアドバイス ・実証授業へのアドバイス ・スタートアップ企業との試験的な連携授業 ・AI 等を活用した教育の質や業務効率化の学校への展開		
委員数	11 人	開催頻度	年間 3 回

地域産業中核的人材養成事業部会の構成員（委員）

	氏名	所属・職名	役割等	都道府県名	旅費
1	井手 修身	学校法人イデア熊本アジア学園	事業主体者	熊本県	
2	永田 祐介	熊本県旅館生活衛生同業組合	観光業界ニーズ調査、普及啓発	熊本県	○
3	久保 尭之	みなみあそ観光局	シラバス教材開発支援	熊本県	○
4	村上 大輔	株式会社ぱるぷんて	シラバス教材開発支援	熊本県	○
5	岩木 健	南阿蘇 IT バレー協議会	IT 業界ニーズ調査、普及啓発	熊本県	○
6	田中 旬一	学校法人せとうち日本 IT ﾋﾞｼﾞﾈｽｶﾚｯｼﾞ	教育視点、学校への展開	熊本県	○
7	富山 孝治	熊本県情報サービス産業協会	IT 業界ニーズ調査、普及啓発	熊本県	○
8	赤山 聖子	学校法人赤山学園	教育視点、学校への展開	熊本県	○
9	前田 和則	熊本国際日本語学校	教育視点、学校への展開	熊本県	○
10	磯田 淳	株式会社くまもと DMC	観光業界ニーズ調査、普及啓発	熊本県	○
11	廣岡 俊治	熊本県 デジタル戦略推進課	行政からの広報	熊本県	

会議名	第1回　地域産業人材部会		
日時	令和7年10月16日(木)　13時00分～	場所	南阿蘇村 ICT 交流センター
出席者	リアル出席：井手 修身(イデアITカレッジ阿蘇)/◎前田 和則(熊本国際日本語学校)/◎久保 尭之(一般社団法人みなみあそ観光局)/◎村上 大輔(株式会社ばるぶんて)/○岩木 健(南阿蘇ITバレー協議会)/◎磯田 淳(株式会社くまもとDMC)(◎謝金、交通費対象者、○謝金対象者) オンライン出席：○富山 孝治(熊本県情報サービス産業協会)/○永田 祐介(熊本県旅館生活衛生合同組合)/廣岡 俊治(熊本県 デジタル戦略推進課) 欠席：/田中 旬一(学校法人せとうち日本ITビジネスカレッジ)/赤山 聖子(学校法人赤山学園) 事務局 ：鈴木 俊良/菅 彰彦/廣瀬 実華/元主 彰/井上洋子/原口由衣		
議題	①事業の概要説明 ②意見交換(IT・AI活用人材育成プログラムについて) ③人材育成に関するアンケート調査		
議事内容	【①事業の概要説明】 事業の目的とプログラム概要: 本事業は「地方創生の課題解決×IT・AI活用人材育成プログラム」と称し、イデアITカレッジ阿蘇において、地域課題を解決するためのIT/AI活用プログラムを開発・検証し、人材を企業に排出することを大きな目的としている。 目指す人材像: 観光業界の地域課題や業務内容に精通しつつ、IT/AIやテクノロジーを活用し、地方創生をリードする人材像を設定。 科目群の開発: ITマーケティング科目群：観光業界（DMOや宿泊業者）におけるITとマーケティングを組み合わせた地域課題解決を目指す。 IT・AIエンジニア科目群：情報サービス産業（IT企業）において、システム開発からマーケティングまでを実践できる科目群。 IT国際学科：来年度（令和8年度）に開設予定。日本語能力を高めつつ、ITの基礎知識を学ぶ留学生向けの科目群。 科目群別 担当講師コメント一覧 ITマーケティング科目群 ●担当者/科目名（または分野)/コメント・具体的な実施内容 ●久保 尭之/地域課題実践/ 留学性が多いため、インターナショナルイベントの企画から段取り、設計までを実際に体験する。地域に関わる仕事において、業種に関わらずイベントの段取りは不可欠な経験である。活動拠点として、氏の所属する株式会社青が持つ宿泊交流拠点を活用する予定。 ●久保 尭之/地域商品開発/ 道の駅阿蘇にて最終的に出品・販売する商品の開発を行う、非常に実践的な科目。過去の提案（B弁当など）を参考に、国際的な学生も多いため、学生と一緒に新商品を試作・開発し、売り方やPR戦略も考えてもらう。11月に販売実施を予定しており、学園祭での試食提供も検討。 ●久保 尭之/地域創生入門/ 日本人学生も海外の学生も対象に、日本における地方創生の概要や、阿蘇ならではの地域特性（震災復興、防災、人口減少など）を学んでもらう。ITを中心に学ぶ学生に対し、そのスキルが何に役立つのかを意識させるため、フィールドワークを中心に行う。 ●鈴木 俊良/地域資源活用プロジェクト/ 現在「クリエイティブコミュニケーションラボ」という授業名で実施しているが、今後は地域との関わりや地域資源を活用した商品開発や企画立案といったグループプロジェクトの要素を強化していく。 ●廣瀬 実華/AIとウェブデザイン / ウェブライティングとSEO/ 既存のウェブデザイン（ノーコード）とウェブライティングの授業をブラッシュアップしたもの。AIを導入する手前の基本的な考え方（UI/UXとは何か、ウェブライティングと紙媒体の違いなど）を基礎として教え、その上にITやAIの活用（競合調査、ライティング補助など）を乗せる構成を検討している。観光事業者において不足している「広報担当」として実務ができる人材育成を念頭に置く。 IT・AIエンジニア科目群 ●岩木 健/地域課題×ITの実践（卒業制作連携）/ 南阿蘇ITバレー協議会として、地域の農家やIT企業へのフィールドワークを通じて、卒業政策に結びつく地域課題解決のテーマを学生に設定させる活動を行っている。 ●岩木 健/地域課題×ITの実践（阿蘇×農業チーム事例）/ 新規収納者が複雑な情報（農地状況、栽培方法、認証、高値販売方法）を入手しにくい課題に対し、チャットボット等を活用して知識を整理・活用する企画を作成中。 ●岩木 健/IoTとデータ/ カリキュラムを再編し、1年後期では理論、2年前期ではオープンデータ分析、2年後期ではセンサー（土壌・環境）を用いたデータ収集・活用を体験。最終的に「地域農業×データサイエンス」へ発展させる。 ●村上 大輔/AIレッスン/ AIの実践活用を中心とした授業。本事業のテーマに沿い、単なる人手不足解消ではなく、AIをスキルとして持った人材育成を目的とし、地方の人材不足解消に寄与する。		

会議名	第1回　地域産業人材部会		
日時	令和7年10月16日(木)　13時00分～	場所	南阿蘇村 ICT 交流センター
出席者	リアル出席：井手 修身(イデアITカレッジ阿蘇)/◎前田 和則(熊本国際日本語学校)/◎久保 堯之(一般社団法人みなみあそ観光局)/◎村上 大輔(株式会社ぱるぶんて)/〇岩木 健(南阿蘇ITバレー協議会)/◎磯田 淳(株式会社くまもとDMC)(◎謝金、交通費対象者、〇謝金対象者) オンライン出席：〇富山 孝治(熊本県情報サービス産業協会)/〇永田 祐介(熊本県旅館生活衛生合同組合)/廣岡 俊治(熊本県 デジタル戦略推進課) 欠席：/田中 旬一(学校法人せとうち日本ITビジネスカレッジ)/赤山 聖子(学校法人赤山学園) 事務局 ：鈴木 俊良/菅 彰彦/廣瀬 実華/元主 彰/井上洋子/原口由衣		
議題	①事業の概要説明 ②意見交換(IT・AI活用人材育成プログラムについて) ③人材育成に関するアンケート調査		
議事内容	IT国際学科 ●鈴木 俊良/IT国際学科/ 既存学科の留学生は日本語スキルやPC経験が乏しく、入学後につまずく傾向がある。1年間の課程で日本語能力と基礎ITスキル(タイピング、ドキュメント作成など)を身につけ、次年度の各学科へ進学できるよう設計。 ●前田 和則/IT国際学科/ 鈴木の提案に賛同し、カリキュラム内容の方向性に同意。 スケジュール: 今年度(令和7年度)は主に企業ニーズや先行事例、社会人の学び直しニーズの調査を行い、シラバス・教材を開発。令和8年度以降は、開発したプログラムの実証講座の実施、スタートアップ企業との試験的な連携、AIを活用した業務効率化ツールの開発、他校への横展開を進める予定。 【意見交換(IT・AI活用の状況と人材ニーズ)】 IT・AI エンジニア科目群(IT企業関連)のニーズ 富山)採用時に求められるのは、ITスキルだけでなく、コミュニケーション力、課題発見力、チームワークといったビジネス素養が引き続き重要である。AI活用は今後当たり前になるため、AIを使って具体的にどのような成果を出したかという実践力が重視される。大手企業では仕様書作成を新人に任せることが多く、プログラミング基礎知識も重要である。 村上)AIが使えるだけでは採用評価につながらない。カリキュラム内で特定ジャンルに絞り、AIで具体的に何ができるかを明示すべき。 岩木)地域課題をITでどう解決するかの視点が重要。ローコード／ノーコードの理解やAIとの協業力が求められる。 ITマーケティング科目群(観光業界関連)のニーズ 磯田)DMOでは、業務効率化、データ分析、デザイン／提案の3側面でAI/IT活用スキルが求められる。観光経験よりITスキル人材の方が魅力的。 久保)ITやAIを抵抗なく使える素養を学生に身につけさせることが重要。 永田)現場は特定技能・技能実習生が多く、技人国ビザ業務との乖離がある。AIスキル人材の即戦力採用は難しいが、ホテルフロント業務では可能性あり。 外国人材の採用意向について 富山)外国人採用は一定数あるが、日本語能力が課題。 永田氏)外国人材は不可欠だが、特定技能・技能実習生が中心。今後の採用意向は在留資格別に把握すべき。 磯田)日本語能力が鍵。多様性による活性化効果に期待。 【人材育成に関するアンケート調査】 調査目的:令和4年度DX調査を踏襲し、AI活用設問を追加。外国人材採用意向・リスキリング実態も把握。 調査対象:IT・AIエンジニア科目群＝IT企業(情報サービス産業協会等) ITマーケティング科目群＝宿泊事業者、DMO事業者 宿泊事業者調査:在留資格別採用意向を把握できるよう工夫。 DMO調査:業務範囲が広いため、冒頭で主要業務内容を尋ねる設問を追加。 【業務効率化ツールの開発事例】 事務局より、AIを活用した時間割作成ツールを共有。講師希望・教室条件を考慮し、約5分で最適配置を生成。 外部講師依存の学校に有用で、今後は他校展開を検討。 今後のスケジュール アンケート調査実施:10月～11月末を予定。 次回日程:12月18日(木)。アンケート結果分析を予定。		

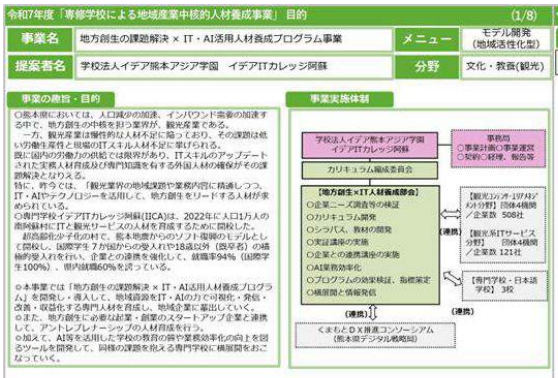
会議名	第2回　地域産業人材部会		
日時	令和7年12月18日(木)　14時00分～	場所	南阿蘇村 ICT 交流センター
出席者	リアル出席：井手 修身(イデアITカレッジ阿蘇)/◎前田 和則(熊本国際日本語学校)/◎磯田 淳(株式会社くまもとDMC)(◎謝金、交通費対象者、〇謝金対象者) オンライン出席：/〇永田 祐介(熊本県旅館生活衛生合同組合)/〇久保 尭之(一般社団法人みなみあそ観光局)/〇岩木 健(南阿蘇ITバレー協議会)/〇赤山 聖子(学校法人赤山学園)/廣岡 俊治(熊本県 デジタル戦略推進課) 欠席：村上 大輔(株式会社ぱるぷんて)/田中 旬一(学校法人せとうち日本ITビジネスカレッジ)/富山 孝治(熊本県情報サービス産業協会) 事務局：鈴木 俊良/菅 彰彦/廣瀬 実華/原口由衣		
議題	①人材育成アンケート調査報告 ②起業・創業のスタートアップの場と連携していく実証講座の報告 ③AI等を活用した学校の教育の質や業務効率化の途中報告 ④意見交換（人材養成プログラムの在り方、課題解決） ⑤今後のスケジュールと展開		
議事内容	【①人材育成アンケート調査報告】 アンケート調査は、地域課題解決×IT・AI活用教育カリキュラム作成を目的とし、宿泊・飲食・体験（観光コンテンツ）、DMO、IT企業群の3つの企業群を対象に実施された。当初目標60件に対し、現在53件の回答を得ている。 ◎IT企業群（IT・AIエンジニア科目群）調査報告 回答企業の約9割が請負開発を主軸としている。採用において重視されるスキルは、具体的なスキルよりも業務遂行力やスタンスである。AIは既に業務効率化ツールとして活用されており、今後、AI・クラウド人材への成長の鍵を求めている。回答企業の半数以上がAI人材の需要拡大を望んでおり、52%がその領域を拡大したいと回答している。 ◎宿泊事業群（ITマーケティング科目群）調査報告 宿泊事業者は「人手不足」と「DXの波」という二重の課題に直面。7割の施設がIT人材の必要性を認識し、現在求人中または今後確保したい意向がある。基礎的なIT導入（OT、SNS、宿泊管理システムなど）はほぼ100%達成済みである。77%がAIによる予約管理や需要予測に期待しており、導入意向は61.5%と高い。 求められる人材は、IT専門家よりも、現場を理解した上でITで改善できる人材（業務改善できる人材）である。2022年度の調査と比較し、リスキリングの動きが5倍に増加している。 ◎DMO・観光振興団体様 調査報告 78.9%が将来の中核スタッフを求めている。基本ツールの定着は見られるものの、AIの活用はまだ未開拓である。DXへの関心は高いが、実行フェーズにあるのは15.8%に留まる。求められるのは、高度な技術より、企画・分析・実行の基礎力であり、地域を俯瞰しデータで意思決定を支える複合型人材が理想像とされている。AIは専門職のツールではなく、既存業務を補完するツールとして位置づけられている。 【②起業・創業のスタートアップの場と連携していく実証講座の報告】 地域課題解決を目指す実証講座として、株式会社アークとの連携事業が報告された。 ◎地域商品開発（道の駅阿蘇との連携） 多様化するインバウンド客に対応するため、ヴィーガンメニューの開発を学生が授業の一環として実施した。最終的に「しいたけサンド」と「野菜の生春巻き」が道の駅阿蘇の審査に合格し、11月から販売開始となった。 ◎地域課題実践プロジェクト 国際学生が多く在籍する特性を活かし、地域交流イベント（1月開催予定）の企画を学生主体で進めている。これは、学園祭とは異なり、事業的・地域的な目的をもって企画を運営する経験を積ませることを目的としている。 【③AI等を活用した学校の教育の質や業務効率化の途中報告】 学校運営の課題解決をテーマに、AI活用による業務効率化の取り組みが報告された。		

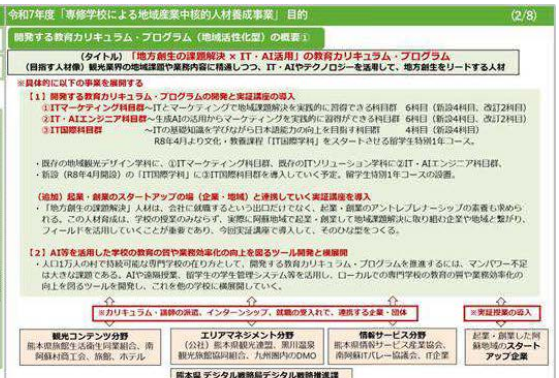
会議名	第2回　地域産業人材部会		
日時	令和7年12月18日(木)　14時00分～	場所	南阿蘇村 ICT 交流センター
出席者	リアル出席：井手 修身(イデアITカレッジ阿蘇)/◎前田 和則(熊本国際日本語学校)/◎磯田 淳(株式会社くまもとDMC)(◎謝金、交通費対象者、○謝金対象者) オンライン出席：/○永田 祐介(熊本県旅館生活衛生合同組合)/○久保 尭之(一般社団法人みなみあそ観光局)/○岩木 健(南阿蘇ITバレー協議会)/○赤山 聖子(学校法人赤山学園) /廣岡 俊治(熊本県 デジタル戦略推進課) 欠席：村上 大輔(株式会社ぱるぷんて)/田中 旬一(学校法人せとうち日本ITビジネスカレッジ)/富山 孝治(熊本県情報サービス産業協会) 事務局 ：鈴木 俊良/菅 彰彦/廣瀬 実華/原口由衣		
議題	①人材育成アンケート調査報告 ②起業・創業のスタートアップの場と連携していく実証講座の報告 ③AI等を活用した学校の教育の質や業務効率化の途中報告 ④意見交換（人材養成プログラムの在り方、課題解決） ⑤今後のスケジュールと展開		
議事内容	◎時間割生成システム 外部講師が9割以上を占める専門学校の特性から、講師の都合や限られた教室のキャパシティといった要素をAIが考慮し、時間割を生成するシステムを開発中である。現在約8割が完成し、来年度に向けて調整中である。 ◎入室管理システム カードタッチにより、学生の出欠・遅刻の時刻が記録され、AIが集計することで、成績とともに出席率が一覧で把握できるようになった。すぐにフィードバックが可能になり、学生の出席意識が向上した。 【④意見交換（人材養成プログラムの在り方、課題解決）】 久保）以前の調査でDXという言葉で質問していた時よりも、AIというワードが出てきた方が具体的な案が出てくるようになった。現実的なツールとして活用している。年齢的なギャップもあるように感じている。AIを使った方がいいという認識があるが、ルールが重要。外部システムに個人情報を入れ込むことにはコンプライアンス上の問題が大きな壁となり、AI活用が進まない現状がある。 磯田）外に出ない活動に関してAIを活用している。とりあえず使ってみようという感覚がDXよりもある。 永田）観光業界の人材ニーズについて以下のように言及した。 宿泊施設では、PMSを使わない手書き予約帳のような非効率な作業に人手を割けないため、DX化が進んだ。AI活用は、顧客からの簡易な質問事項へのチャットボット対応などからの活用になるだろう。IT活用やAI活用を担う人材は、宿泊施設の規模にもよるが、経営者や幹部職員、フロントの人間など、限られた人材になる。外国人材については、旅館・ホテルで人手が足りないのはサービスや清掃の現場であり、特定技能の採用が増えている傾向が強い。技術・人文知識・国際業務の在留資格（専門学校卒業生が該当）の子どもたちと、現場のニーズに乖離がある。マッチング強化策として、短期的なインターンシップを複数回繰り返し行うことが、企業と学生の相性を測る上で非常に重要である。 岩木）IT業界のニーズについて以下のように言及した。 IT企業では、数年でクラウドを使える人材のニーズが高まっている。従来の国家資格志向から、アジャイルやクラウド認定資格を目指す流れに変化している。ITはサービス組み合わせに近づいており、現場（フィールド）があるところで活動していく流れが進むだろう。 廣岡）実践的な研修の重要性について以下のように言及した。 AIは集客面で優れているが、実践的な研修が重要である。「どういう課題に対し、どうAIを使って、どう組織を動かすのか」という、企画・分析・実行につながる実践的な研修を県としても支援したい。 前田）技人国の更新も電話がかかってきて、業務内容を確認することもある。厳しくなっている傾向がある。内定から技人国に切り替える時に、通るかどうかも怪しい場合がある。 【⑤今後のスケジュールと展開】 地域観光デザイン学科は、地域人材ニーズのヒアリングを再度行い、IT・AI利活用スキルやビジネス要素を強化していく。ITソリューション学科は、IT企業の幅広さを踏まえ、就職先を意識したコアスキルセットの整備を進める。IT国際学科（新設）は、ITの基礎スキルと日本語レベルを磨き、その後の就職につなげることを目的としている。 次回の部会は2026年2月19日（木）とし、今回のアンケート結果を踏まえ、カリキュラム案を提示する。		

会議名	第3回　地域産業人材部会		
日時	令和8年2月19日(木)　14時00分～	場所	南阿蘇村 ICT 交流センター
出席者	リアル出席：井手 修身(イデアITカレッジ阿蘇)/〇村上 大輔(株式会社ばるぷんて)/◎前田 和則(熊本国際日本語学校)/◎磯田 淳(株式会社くまもとDMC)(◎謝金、交通費対象者、〇謝金対象者) オンライン出席：〇久保 尭之(一般社団法人みなみあそ観光局)/〇岩木 健(南阿蘇ITバレー協議会)/〇赤山 聖子(学校法人赤山学園)/〇富山 孝治(熊本県情報サービス産業協会)/廣岡 俊治(熊本県 デジタル戦略推進課) 欠席/田中 旬一(学校法人せとうち日本ITビジネスカレッジ)/永田 祐介(熊本県旅館生活衛生合同組合) 事務局：鈴木 俊良/菅 彰彦/廣瀬 実華/井上洋子/原口由衣/田代大一郎		
議題	①地方創生の課題解決×IT・AI活用人材養成プログラム事業(教育プログラムのシラバスの開発、一部、教材と実証授業/AI等を活用した学校の教育の質や業務効率化の報告/次年度の事業計画) ②意見交換(人材養成プログラムの在り方など)		
議事内容	【①地方創生の課題解決×IT・AI活用人材養成プログラム事業】 ◎企業向け人材ニーズ調査・社会人ニーズ調査の報告 ・IT事業者・観光事業者ニーズ：AI人材への需要が「準備・検討」段階から「現在の戦力(実装・成果創出)」へと明確に移行している。観光・宿泊業界でも基礎的なIT導入は完了しつつあり、今後は企画・調整・分析ができる「複合型人材(AI・IT推進担当)」が求められている。 ・先行事例調査：他校の事例として、農業や医療など「産業特化型」の教育による地元就職率の向上や、成果発表会でのダイレクト採用、ビジネスプランからベンチャー創業への支援事例が共有された。 ・社会人の学び(リカレント)ニーズ調査：AI活用への関心が圧倒的に高い。課題としては「時間の確保」と「費用負担」が挙げられ、リアルタイムではなくアーカイブを含めたオンライン学習環境へのニーズが強い。 IICA全体のカリキュラム構成について(鈴木・久保・岩木・前田より) 学校全体の学科再編とカリキュラムの方向性について説明や意見交換が行われた。 岩木)ITソリューション学科：プログラミング言語の習得中心から、AIをベースにした「システム開発スキル」と「ソリューション提案スキル」の強化へシフトする。AIを活用して開発効率を上げ、上流の設計力を高めるカリキュラム。 鈴木)ITビジネス学科(旧・地域観光デザイン学科)：地域マーケティングに加え、ノーコードツールやクリエイティブ制作などの「IT利活用スキル」、および「サービス接遇」などコミュニケーション系の科目を強化し、幅広い業界で即戦力となる人材を育成する。 久保)実践プロジェクトは道の駅阿蘇での「ヴィーガン弁当の開発・実証販売」や、学生主催の「地域イベント(阿蘇の朝飯会)の企画・運営」など、実地経験を通じたアントレプレナーシップ教育を実施している。 前田) IT国際学科(令和8年4月新設・留学生向け1年コース)：ITの基礎スキルと日本語能力を同時並行で磨き、本科への進学や就職に繋げる。ITや観光をテーマにした日本語学習も取り入れる予定。 次年度以降の展開・学校業務のAI活用について ・次年度は、開発したカリキュラム・教材を用いた実証講座を実施する。遠隔授業やeラーニングの実験的導入、スタートアップ企業や他校との連携も進める。 ・学校業務の効率化として、教員の「時間割生成AIシステム」や、学生の「入退出(出席)管理システム」を開発・導入し、教育の質向上と省力化を図る取り組みが紹介された。		

会議名	第3回　地域産業人材部会		
日時	令和8年2月19日(木)　14時00分～	場所	南阿蘇村 ICT 交流センター
出席者	リアル出席：井手 修身(イデアITカレッジ阿蘇)/〇村上 大輔(株式会社ばるぷんて)/◎前田 和則(熊本国際日本語学校)/◎磯田 淳(株式会社くまもとDMC)(◎謝金、交通費対象者、〇謝金対象者) オンライン出席：〇久保 尭之(一般社団法人みなみあそ観光局)/〇岩木 健(南阿蘇ITバレー協議会)/〇赤山 聖子(学校法人赤山学園)/〇富山 孝治(熊本県情報サービス産業協会)/廣岡 俊治(熊本県 デジタル戦略推進課) 欠席/田中 旬一(学校法人せとうち日本ITビジネスカレッジ)/永田 祐介(熊本県旅館生活衛生合同組合) 事務局：鈴木 俊良/菅 彰彦/廣瀬 実華/井上洋子/原口由衣/田代大一郎		
議題	①地方創生の課題解決×IT・AI活用人材養成プログラム事業(教育プログラムのシラバスの開発、一部、教材と実証授業/AI等を活用した学校の教育の質や業務効率化の報告/次年度の事業計画) ②意見交換(人材養成プログラムの在り方など)		
議事内容	【②意見交換】 赤山)AIの進化により、専門学校で教えるべきプログラミング教育の在り方が変わり、カリキュラム改定に悩んでいる。ぜひ今後も上手く情報交換もしていきたい。 磯田)ICAのリカレントコースに若手社員を参加させたが、学びだけでなく、参加者同士の繋がりや関係性が構築できたことが非常に有意義であった。そのような横のつながりを生むカリキュラムは観点としても大切。 富山)AIがコードを書く時代になっても、それが正しく動くかを「読み解く基礎力」は依然として重要。また、特定業界(観光など)の現場課題に入り込み、そこで得たAI活用のノウハウを横展開していくビジネスモデルに価値がある。 村上)現場で働く方がAIスキルを身につける「アドバンスド・エッセンシャルワーカー」の育成として、特定の旅館等の課題に絞り込み、現場で実際に使えるAIツールを作り上げるような実践的なカリキュラムが有効ではないか。		

【第１回部会】資料


令和7年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」目的 (1/8)
事業名 地方創生の課題解決 × IT・AI活用人材養成プログラム事業
メニュー モデル開発（地域活性化型）
提案者名 学校法人イデア熊本アジア学園 イデアITカレッジ阿蘇
分野 文化・教養（観光）
事業の趣旨・目的
事業実施体制
学校法人イデア熊本アジア学園 イデアITカレッジ阿蘇
事務局
○事業計画の事業運営
○契約に係る、報告等
カリキュラム編成委員会
【地方創生×IT人材養成部会】
○企業ニーズ調査等の検証
○カリキュラム開発
○シラバス、教材の開発
○実証講座の実施
○企業との連携講座の実施
○AI業務効率化
○プログラムの効果検証、振興策定
○横展開と情報発信
【観光コンテンツ分野】 5団体4機関 / 企業数 50社
【観光×ITサービス分野】 2団体4機関 / 企業数 121社
【専門学校・日本語学校】 3校
（連携）
くまもとDX推進コンソーシアム（熊本県デジタル戦略協）

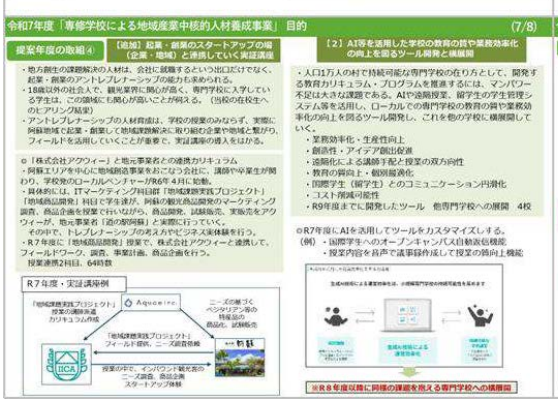

令和7年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」目的 (2/8)
開発する教育カリキュラム・プログラム（地域活性化型）の概要①
（タイトル）「地方創生の課題解決 × IT・AI活用」の教育カリキュラム・プログラム
（目指す人材像）観光業界の地域課題や業務内容に精通しつつ、IT・AIやテクノロジーを活用して、地方創生をリードする人材
※具体的に以下の事業を展開する
【1】開発する教育カリキュラム・プログラムの開発と実証講座の導入
①ITマーケティング科目群～ITとマーケティングで地域課題解決を実践的に習得できる科目群 6科目（新設4科目、改訂2科目）
②IT・AIエンジニア科目群～生成AIの活用からマーケティングを実践的に習得ができる科目群 6科目（新設4科目、改訂2科目）
③IT国際科目群 ～ITの基礎知識を学び社会から日本語能力の向上を目指す科目群 4科目（新設4科目）
R8年4月より文化・教養課程「IT国際学科」をスタートさせる留学生特別1年コース。
・既存の地域観光デザイン学科に、①ITマーケティング科目群、既存のITソリューション学科に②IT・AIエンジニア科目群、
・新設（R8年4月開設）の「IT国際学科」に③IT国際科目群を導入していく予定。留学生特別1年コースの設置。
（追加）起業・創業のスタートアップの場（企業・地域）と連携していく実証講座を導入
・「地方創生の課題解決」人材は、会社に就職するという出口だけでなく、起業・創業のアントレプレナーシップの素養も求められる。この人材育成は、学校の授業のみならず、実際に阿蘇地域で起業・創業して地域課題解決に取り組む企業や地域と繋がり、フィールドを活用していくことが重要であり、今回実証講座で導入して、そのひな型をつくる。
【2】AI等を活用した学校の教育の質や業務効率化の向上を図るツール開発と横展開
・人口1万人の村で持続可能な専門学校の在り方として、開発する教育カリキュラム・プログラムを普遍するには、マンパワー不足は大きな課題である。AIや遠隔授業、留学生の学生管理システム等を活用し、ローカルでの専門学校の教育の質や業務効率化の向上を図るツールを開発し、これを他の学校に横展開していく。
※カリキュラム・講師の派遣、インターンシップ、就職の受入れで、連携する企業・団体
※実証授業の導入
観光コンテンツ分野 熊本県阿蘇を活かした体験型観光、阿蘇村商工会、旅館、ホテル
エリアマネジメント分野 （公社）熊本県観光連盟、黒川温泉観光旅館協同組合、九州圏内のDMO
情報サービス分野 熊本県情報サービス産業協会、南阿蘇村ICT推進協会、IT企業
起業・創業した阿蘇地域の スタートアップ企業
熊本県 デジタル戦略局デジタル戦略推進課


令和7年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」目的 (3/8)
事業実施の年次計画
令和７年度
【1】地方創生×IT人材育成委員会の開催
本事業の進捗及び課題内容や次年度のカリキュラム、シラバス開発に関する助言の会議を開催する。3回
【2】地方創生×IT・AI活用 企業ニーズ調査
ターゲット分野の事業者の本教育への理解度、学生の採用に対して、企業ニーズの実態を把握する。60件
【3】地方創生×IT・AI活用 先行事例調査
既に実施のカリキュラムを実施している教育機関、行政機関、民間企業等について事例研究を行い7件
【4】18歳以外・社会人の学びニーズ調査
18歳以外・社会人で、観光業界に関心が薄い、専門学校で学び直したい方々を調査を行い、その実態を把握する。 100件
【5】教育プログラムのシラバス開発
一部、教材と実証授業の開発
本教育の具体的なカリキュラム、シラバスを開発する。また、実証授業の開催をする。
・シラバス開発 16科目、512時数
・実証授業の開催 4科目、128時数。
【6】スタートアップ企業との試験的な連携授業
試験的的にITマーケティング科目の授業と連携して、スタートアップ企業と地域観光業各づくり事業を行う。 授業連携2科目、64時数
【7】AIなを活用した教育の質や業務効率化
試験的的に生成AIを活用した業務効率化を作成・導入してみる。
・業務効率化・生産性向上 2ツール導入
令和８年度
【1】地方創生×IT人材育成委員会の開催
本事業の進捗及び本教育のカリキュラム、シラバス開発、及び講座実施に関する助言の会議を開催する。3回
【2】本教育プログラムの教材開発
前年度開発した3科目群の教材を開発する。
①ITマーケティング科目群2IT・AIエンジニア科目群3IT国際科目群 12科目、384時数。
【3】本教育プログラム 実証講座の実施
・開発した科目群の教材をもとに、本科生に実証授業を実施する。
3科目群 16科目、512時数。
受講学生 計70人。
・講座運営用マニュアルの作成
他学校への学校への講座開発に授業デザイン、マニュアルを作成する。
【4】スタートアップ企業との試験的な連携授業
IT・AIエンジニア科目の授業と連携してスタートアップ企業と地域課題やAI活用事業を行う。
授業連携2科目、64時数
【5】AIなを活用した教育の質や業務効率化
生成AIを活用した業務効率化を作成・導入していく。
・業務効率化・生産性向上 4ツール導入
【6】継続的連携組織と他学校への展開
専門学校と業界団体、企業等で、本事業の成果物が他の専門学校への展開したり、3分野の企業や団体に人材を輩出していくための組織を設置する。また、教育機関、企業・団体等に対して積極的に広報、情報発信していく。
・組織、パンフレット作成、他学校展開4校
令和９年度
【1】地方創生×IT人材育成委員会の開催
本事業の進捗及び本教育のカリキュラム、シラバス開発、及び講座実施に関する助言の会議を開催する。3回
【2】本教育プログラムの教材修正と新規開発
前年度の教材修正と新規科目開発を行う。
①ITマーケティング科目群2IT・AIエンジニア科目群3IT国際科目群 20科目、640時数。
【3】本教育プログラム 実証講座の実施
○開発した科目群の教材をもとに、本科生に実証授業を実施する。
3科目群 20科目、640時数。
受講学生 計100人。
・講座運営用マニュアルの作成
他学校への学校への講座開発に授業デザイン、マニュアルを作成する。
【4】スタートアップ企業との試験的な連携授業
IT・AIエンジニア科目の授業と連携してスタートアップ企業と地域課題やAI活用事業を行う。
授業連携2科目、64時数
【5】AIなを活用した教育の質や業務効率化
生成AIを活用した業務効率化を作成・導入していく。
・業務効率化・生産性向上 4ツール導入
【6】継続的連携組織と他学校への展開
専門学校と業界団体、企業等で、本事業の成果物が他の専門学校への展開したり、3分野の企業や団体に人材を輩出していくための組織を設置していく。また、教育機関、企業・団体等に対して積極的に広報、情報発信していく。
広報用紙作成、他学校展開4校


令和7年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」目的 (4/8)
提案年度の取組①
①「地方創生×IT・AI活用」教育・企業ニーズ調査
①ITマーケティング科目群（観光コンテンツ分野、エリアマネジメント分野）②IT・AIエンジニア科目群（情報サービス分野）の事業者が「地方創生の課題解決×IT・AI活用」教育への理解度、学生の採用に対して、企業ニーズの実態を把握する。
合わせて、外国人材の採用意向も把握する。
調査名 「地方創生×IT・AI活用」教育・企業ニーズ調査
調査目的 観光コンテンツ分野（宿泊、飲食、体験DMO）、エリアマネジメント分野（DMO・行政の観光担当）、情報サービス分野（情報サービス系の訂企業）の事業者が「地方創生の課題解決×IT・AI活用」教育への理解度、学生の採用に対して、企業ニーズの実態を把握する。合わせて、外国人材の採用意向も把握する。
調査対象 ①ITマーケティング科目群 ～宿泊事業者、飲食、体験DMO、観光協会、行政の観光担当等
②IT・AIエンジニア科目群 ～観光業界に関心がありITシステム開発、WEB制作等の事業者
③IT国際科目群については、①②の事業者へ外国人材の採用意向について同時に調査
調査手法 各分野の業界団体、イデアITカレッジ阿蘇のサポーター企業等を通じて、アンケート（WEBと郵送）調査を実施する。ニーズの高い事業者には、更にヒアリング調査を行う。
調査数 ①IT・マーケティング科目群 ～目収 30件
②IT・AIエンジニア科目群 ～目収 30件 合計 60件
調査項目 • 事業者の「地方創生の課題解決×IT・AI活用」教育（当該教育）への理解度
• 従業員のレベル（職種・経験・スキル）、理解度との要件について
• 当該教育のカリキュラム・プログラムの内容とレベル
• 当該教育を受けた専門学校学生の雇用ニーズ、職種、条件
• イデアITカレッジ阿蘇学生の採用可能性、外国人材（留学生）の採用意向。
分析内容（集計項目） • 当該教育のカリキュラム・プログラムの内容とレベル（専門知識、スキル、資格）
• 当該教育に求める人材像
• 入社時の社会人に求められる教育カリキュラム
開発するカリキュラムとどのように反映するか（活用手法） 各分野の企業・事業者が従業員に必要とする「地方創生の課題解決×IT・AI活用」教育の現状と意向度を明確化して、当該教育に必要なカリキュラム、シラバスに反映する。また、就職後に求められる教育カリキュラムについても把握する。外国人材（留学生）に必要な事業も把握する。


令和7年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」目的 (5/8)
提案年度の取組②
②「地方創生×IT・AI活用」先行事例調査
「地方創生の課題解決×IT・AI活用」教育において、同様のカリキュラムを実施している教育機関、行政機関、民間企業等について事例研究を行い、その実態を把握する。抽け合わせは少ないので、各テーマの事例とする。
調査名 「地方創生×IT・AI活用」先行事例調査
調査目的 「地方創生の課題解決×IT・AI活用」教育において、それぞれのテーマでカリキュラムを実施している教育機関、行政機関、民間企業等について事例研究を行い、その実態を把握する。
調査対象 ○「地方創生の課題解決」カリキュラム一大阪観光大学、和歌山大学、九州産業大学、鹿児島県観光人材養成講座。
②（IT・AI活用）カリキュラムへ一次ビジネス専門学校、北九州市立大学、宗建大学等
調査手法 教育機関、行政機関、企業へのアンケート調査、WEB調査と現地訪問によるヒアリングを実施する。
調査数 「地方創生の課題解決」 4件 「IT・AI活用」3件
調査項目 • 各テーマの教育ターゲットと人材像、カリキュラム、シラバス、
• 各テーマの教育の時期・時間、形態
• 各テーマの教育の受講生の属性
• 学生の就職先の業界や企業
分析内容（集計項目） • 「地方創生の課題解決×IT・AI活用」教育のターゲットと人材像、カリキュラム、シラバス、時期・時間、形態
• 学生の就職先の業界や企業
開発するカリキュラムへの反映 「地方創生の課題解決×IT・AI活用」教育の現状を明確化して、必要なカリキュラム、シラバス、時間、形態に反映する。
また、受講者の就職先の業界や企業明確化して、本事業に反映する。
②18歳以外・社会人の学びニーズ調査
18歳以外・社会人で、観光業界に関心が薄い方々への社会人の学び直し調査を行い、その実態を把握する。
専門学校への入学の意向と課題を検証する。
調査名 18歳以外・社会人の学びニーズ調査
調査目的 18歳以外・社会人で、観光業界に関心が薄い方々への社会人の学び直し調査を行い、その実態を把握する。
専門学校への入学の意向と課題を検証する。
調査対象 インターネット調査：観光業界に関心が薄い、18歳以外・社会人
調査手法 インターネット調査：観光業界に関心が薄い、学び直し、就職希望者を属性としてターゲティングして、WEBによるアンケート調査を行う。
調査数 100件
調査項目 • 「地方創生の課題解決×IT・AI活用」教育の関心度
• 観光業界で学びたい知識・技能・スキル
• 専門学校への入学の意向と課題
• 起業・創業のスタートアップへの関心
分析内容（集計項目） • 観光業界に関心が薄い、18歳以外・社会人（転職・就職希望者）の学び直しニーズ
• 専門学校への入学意向、専門学校の授業で学びたい知識・技能・スキル。
開発するカリキュラムへの反映 観光業界に関心が薄い、18歳以外・社会人の学びニーズ調査の現状を明確化して、当該教育に必要なカリキュラム、シラバス、時間、形態に反映する。また、専門学校への入学の意向と課題を検証する。


令和7年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」目的 (6/8)
提案年度の取組③
【1】開発する教育カリキュラム・プログラムの開発と実証講座の導入
○R7年度は、企業ニーズ調査、先行事例調査、18歳以外・社会人の学びニーズ調査を反映して、①ITマーケティング科目群、②IT・AIエンジニア科目群、③IT国際科目群のカリキュラム、シラバスを作成する。
全体 16科目（新規12科目/改訂4科目）、512時数。
※改訂版の4科目については、教材開発と実証講座をR7年度に実施する。 4科目 128時数
■地域産業人材部会 第1回・カリキュラム構成案
2025.10.16.
科目コース 科目名 教育のカリキュラム 科目の領域 新規/改訂 担当 科目概要 時間数 コンピュータ使用 実習 遠隔
①ITマーケティング科目群
1 地域課題実践プロジェクト ★ 専門力/実践スキル 地域創生ビジネス 改訂 久保 地域課題解決に向けた実践授業 32 8コマ程度 8コマ程度 8コマ程度
2 観光ビジネスDX～地域問題探究★ 専門力/ITリテラシー デジタルスキル 改訂 久保 観光分野におけるIT活用、DX事例を学ぶ 32 8コマ程度 8コマ程度 8コマ程度
3 地域創造実践プロジェクト 人間力/創造性 アントレプレナー 新規 鎌本 地域資源を活かした企画開発、運営 32 8コマ程度 8コマ程度 8コマ程度
地域観光デザイン学科に導入
4 地方創生入門 専門力/実践スキル 地域理解 新規 久保 地域の産業構造や現状の理解 32 8コマ程度 8コマ程度 8コマ程度
5 AIとWebデザイン 専門力/ITリテラシー 生成AIスキル 新規 鷹瀬 AIを活用したWebサイト制作 32 8コマ程度 8コマ程度 8コマ程度
6 Webライティングと SEO 専門力/ITリテラシー 情報発信 新規 鷹瀬 SEOを意識したWebでの発信スキル 32 8コマ程度 8コマ程度 8コマ程度
②IT・AIエンジニア科目群
ITソリューション学科に導入
1 地域課題×IT・AI 専門力/実践スキル 地域創生ビジネス 改訂 小山 デザインシンキング、ITソリューション 32 8コマ程度 8コマ程度 8コマ程度
2 IoTとデータ活用 専門力/ITリテラシー データ分析・IoT 改訂 西川 IoT基礎知識、データ分析スキル 32 8コマ程度 8コマ程度 8コマ程度
3 情報可視化とプレゼン 専門力/ITリテラシー データ分析・IoT 新規 岩本・村上 情報分析、情報可視化プレゼン技術 32 8コマ程度 8コマ程度 8コマ程度
4 業務効率化とソリューション 専門力/ITリテラシー 業務効率・効率化 新規 森田 業務効率化と、効率化ソリューション 32 8コマ程度 8コマ程度 8コマ程度
5 生成AI実践スキル ★ 専門力/ITリテラシー 生成AIスキル 新規 村上 AIを実際に使いこなすスキル 32 8コマ程度 8コマ程度 8コマ程度
6 生成AI開発 専門力/ITリテラシー 生成AIスキル 新規 岩本・村上 AI開発に必要な技術、活用方法を実践 32 8コマ程度 8コマ程度 8コマ程度
③IT国際科目群
IT国際学科に導入予定（3年4月開始）
1 プレゼンテーション実践 専門力/日本語力 専門的な日本語力 新規 鎌本 日本語の適切スキルの習得 32 8コマ程度 8コマ程度 8コマ程度
2 ITと観光実例の基礎 専門力/日本語力 専門的な日本語力 新規 鎌本 業界の理解や専門用語の習得 32 8コマ程度 8コマ程度 8コマ程度
3 ビジネスコミュニケーション 専門力/実践スキル ビジネススキル 新規 鎌本 インターンシップ時の実践スキルコミュニケーション 32 8コマ程度 8コマ程度 8コマ程度
4 インターネットと情報リテラシー 専門力/ITリテラシー ITスキル 新規 鎌本 IT主学点上での基礎となる知識の獲得 32 8コマ程度 8コマ程度 8コマ程度
16 科目 新規12科目/改訂4科目 512
★ この科目は、起業・創業のスタートアップの場（企業・地域）と連携していく実証講座を導入


令和7年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」目的 (7/8)
提案年度の取組④
（追加）起業・創業のスタートアップの場（企業・地域）と連携していく実証講座
・地方創生の課題解決の人材は、会社に就職するという出口だけでなく、起業・創業のアントレプレナーシップの素養も求められる。
・18歳以外の社会人や、観光業界に関心が薄い、専門学校に入学している学生は、この領域にも関心が高いことが伺える。（当校の在校生へのヒアリング結果）
・アントレプレナーシップの人材育成は、学校の授業のみならず、実際に阿蘇地域で起業・創業して地域課題解決に取り組む企業や地域と繋がり、フィールドを活用していくことが重要で、実証講座の導入をはかる。
○「株式会社アクウィード」と地元事業者との連携カリキュラム
・阿蘇エリアを中心に地域創造事業をおこなう会社に、講師や卒業生が関わり、学校外のローカルベンチャー分野6年 4月に始動。
・具体的には、ITマーケティング科目群「地域課題実践プロジェクト」「地域商品開発」科目で学生達が、阿蘇の観光商品開発のマーケティング調査、商品企画を授業でおいながら、商品開発、試験販売、実施売をアクウィーが、地元事業者（造の契約隣）と実際に行っていく。
その中で、トレプレナーシップの考え方やビジネス素材養を行う。
・R７年度に「地域商品開発」授業で、株式会社アクウィーと連携して、フィールドワーク、調査、事業計画、商品企画を行う。
授業連携2科目、64時数
R７年度・実証講座例
「地域課題実践プロジェクト」 Aqueエリア
ニーズに基づくペンタリアン等の特徴品の商品化、試験販売
「地域課題実践プロジェクト」 フィールド研究、ニーズ調査開発
授業の中で、インバウント観光者のニーズ調査、商品企画 スタートアップ体験
【2】AI等を活用した学校の教育の質や業務効率化の向上を図るツール開発と横展開
・人口1万人の村で持続可能な専門学校の在り方として、開発する教育カリキュラム・プログラムを普遍するには、マンパワー不足は大きな課題である。AIや遠隔授業、留学生の学生管理システム等を活用し、ローカルでの専門学校の教育の質や業務効率化の向上を図るツール開発し、これを他の学校に横展開していく。
・業務効率化・生産性向上
・創造性・アイデア発出促進
・遠隔化による講師手配と授業の双方向性
・教育の質向上・個別最適化
・国際学生（留学生）とのコミュニケーション円滑化
・ユスト削減の最低
・R9年度までに開発したツール 他専門学校への展開 4校
○R7年度にAIを活用してツールをカスタマイズしする。
（例）・国際学生へのオープンキャンパス自動案内機能
・授業内容を自声で通訳録作成して授業の時向上機能
※R8年度以降に同様の課題を抱える専門学校への横展開


令和7年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」目的 (8/8)
事業実施によって達成する成果及び測定指標
事業全体の成果として重要視する項目
事業のクオリティとして重要視する項目
番号 KPI（評価指標） 単位 目標値 令和7年度 令和8年度 令和9年度 当該KPIの測定方法
1 「地方創生×IT・AI活用」教育・企業ニーズ調査による必要性の割合増 % 65 — — ・企業ニーズ調査で、「地方創生×IT・AI活用」教育プログラムの必要性を5段階で評価した際、4以上の割合増で、企業ニーズを把握する。
2 18歳以外・社会人の学びニーズ調査による専門学校での学びの意向度 % 40 — — 18歳以外・社会人の学びニーズ調査による専門学校での学びの意向度を5段階で評価した際、4以上の割合度で、社会人の学び意欲度を把握する。
4 シラバスの教育科目数（時数） 科目数（時数） 16（512） R7年度を修正 4（128） 教育プログラムに必要なシラバスの科目数と時数。R7年度は開発の為、R8年は修正、R9年は開発。
5 教材の開発科目数（時数） 科目数（学生数） 4（128） 12（384） 4（128） 教育プログラムに必要な教材の科目数と時数。
6 実証講座の実施 科目数と学生数 科目数（学生数） 4（30） 16（50） 20（70） 実証講座の実施の結果、学生（受講者数）の評価を得るための定量的、定性的データ解析する。
7 学生の実証講座の理解度を5段階で評価した際、4以上の割合度 % 65 70 75 学生の実証講座の理解度を5段階で評価した際、4以上の割合度で、学生の講座への理解度を把握する。
8 学生のプログラムに対する学習意欲度を5段階で評価した際、4以上の割合度 % 65 70 75 学生のプログラムに対する学習意欲度を5段階で評価した際、4以上の割合度で、学生のDXへの意欲度を把握する。
9 本教育プログラム受講の学生が3分野へ就職した数及び採用企業数 就職者数 / 企業数 — 10 / 6 15 / 10 本教育プログラム受講の学生が3分野へ就職した数及び採用企業数、実績ベースで測定する。
10 卒業生の「教育プログラムで活用度を5段階4以上」の割合度。 % 卒業後の指標となる、70% 卒業生の卒業までの就職（1年）後、「教育プログラム活用度を卒業生自身に問い、5段階4以上」の割合度。
11 企業・団体へのカリキュラムへの評価満点、5段階4以上の割合度。 % — 60 70 企業・団体へのカリキュラムへの評価をアンケート調査でおいい、必要性、重要性を5段階4以上の割合度。
12 実証講座の横展開の導入の学校数 学校数 — 2 4 開発した科目の実証講座の横展開を得るための指標。導入した実績数。
13 業務効率化AIツールの横展開導入の学校数 学校数 — 2 4 開発した業務効率化AIツールの横展開を得るための指標。導入した実績数。

【第2回部会資料】

令和7年度 文部科学省委託事業
「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」
地方創生の課題解決 × IT・AI活用人材養成プログラム事業

【第2回地域産業人材部会】

令和7年12月18日

学校法人イデア熊本アジア学園
専門学校イデアITカレッジ阿蘇

地域産業中核的人材養成事業～目次 Page: 2

【1】①「地方創生 × IT・AI活用」教育・企業ニーズ調査 結果報告
②先行事例調査、③18歳以外・社会人の学びニーズ調査

【2】教育プログラムのシラバスの開発、一部、教材と実証授業の開催

【3】起業・創業のスタートアップの場（企業・地域）と連携していく実証講座

【4】AI等を活用した学校の教育の質や業務効率化のツール開発

・第3回目 R8年2月19日13時からを予定

地域産業中核的人材養成事業～事業概要 Page: 3

（タイトル）「地方創生の課題解決 × IT・AI活用」の教育カリキュラム・プログラム
（目指す人材像）観光業界の地域課題や業務内容に精通しつつ、
IT・AIやテクノロジーを活用して、地方創生をリードする人材

【1】開発する教育カリキュラム・プログラムの開発と実証講座の導入
①ITマーケティング科目群 ～ITとマーケティングで地域課題解決を実践的に習得できる科目群 6科目（新設4科目、改訂2科目）
②IT・AIエンジニア科目群 ～生成AIの活用からマーケティングを実践的に習得ができる科目群 6科目（新設4科目、改訂2科目）
③IT国際科目群 ～ITの基礎知識を学びながら日本語能力の向上を目指す科目群 4科目（新設4科目）
R8年4月より文化・教養課程「IT国際学科」をスタートさせる留学生特別1年コース。

・既存の地域観光デザイン学科に、①ITマーケティング科目群、既存のITソリューション学科に②IT・AIエンジニア科目群、
・新設（R8年4月開設）の「IT国際学科」に③IT国際科目群を導入していく予定。留学生特別1年コースの設置。

（追加）起業・創業のスタートアップの場（企業・地域）と連携していく実証講座を導入
・「地方創生の課題解決」人材は、会社に就職するという出口だけでなく、起業・創業のアントレプレナーシップの素養も求められる。この人材育成は、学校の授業のみならず、実際に阿蘇地域で起業・創業して地域課題解決に取り組む企業や地域と繋がり、フィールドを活用していくことが重要であり、今回実証講座で導入して、そのひな型をつくる。

【2】AI等を活用した学校の教育の質や業務効率化の向上を図るツール開発と横展開
・人口1万人の村で持続可能な専門学校の在り方として、開発する教育カリキュラム・プログラムを推進するには、マンパワー不足は大きな課題である。AIや遠隔授業、留学生の学生管理システム等を活用し、ローカルでの専門学校の教育の質や業務効率化の向上を図るツールを開発し、これを他の学校に横展開していく。

※カリキュラム・講師の派遣、インターンシップ、就職の受入れで、連携する企業・団体
※実証授業の導入

観光コンテンツ分野
熊本県旅館生活衛生同業組合、南阿蘇村商工会、旅館、ホテル

エリアマネジメント分野
（公社）熊本県観光連盟、黒川温泉観光旅館協同組合、九州圏内のDMO

情報サービス分野
熊本県情報サービス産業協会、南阿蘇ITバレー協議会、IT企業

起業・創業した阿蘇地域のスタートアップ企業

熊本県 デジタル戦略課 デジタル戦略推進課

①「地方創生 × IT・AI活用」教育・企業ニーズ調査 Page: 4

①ITマーケティング科目群（観光コンテンツ分野、エリアマネジメント分野）②「IT・AIエンジニア科目群（情報サービス分野）の事業者が「地方創生の課題解決 × IT・AI活用」教育への理解度、学生の採用に対して、企業ニーズの実態を把握する。合わせて、外国人材の採用意向も把握する。

調査名	「地方創生 × IT・AI活用」教育・企業ニーズ調査
調査目的	観光コンテンツ分野（宿泊、飲食、体験施設）、エリアマネジメント分野（ DMO・行政の観光担当）、情報サービス分野（情報サービス系の IT企業）の事業者が「地方創生の課題解決 × IT・AI活用」教育への理解度、学生の採用に対して、企業ニーズの実態を把握する。合わせて、外国人材の採用意向も把握する。
調査対象	①ITマーケティング科目群 ～宿泊事業者、飲食、体験 DMO、観光協会、行政の観光担当等 ②IT・AIエンジニア科目群 ～観光業界に関心がある ITシステム開発、Web制作等の事業者 ③IT国際科目群については、①②の事業者へ外国人材の採用意向について同時に調査
調査手法	各分野の業界団体、イデア ITカレッジ阿蘇のサポーター企業等を通じて、アンケート（ Web)と郵送）調査を実施する。ニーズの高い事業者には、更にヒアリング調査を行う。
調 査 数	①ITマーケティング科目群 ～宿泊 30件 ②IT・AIエンジニア科目群 ～宿泊 30件 合計 60件
調査項目	・事業者の「地方創生の課題解決 × IT・AI活用」教育（当該教育）への理解度 ・従業員のレベル（職種・経験・スキル）、理解度との必要性について ・当該教育のカリキュラム・プログラムの内容とレベル ・当該教育を受けた専門学校学生の採用ニーズ、職種、条件 ・イデアITカレッジ阿蘇学生の採用可能性、外国人材（留学生）の採用意向。
分析内容（集計項目）	・当該教育のカリキュラム・プログラムの内容とレベル（専門知識、スキル、資格） ・当該教育に求める人材像 ・入社時の社会人に求められる教育カリキュラム
開発するカリキュラムにどのように反映するか（活用手法）	各分野の企業・事業者が従業員に必要とする「地方創生の課題解決 × IT・AI活用」教育の現状と意向度を明確化して、当該教育に必要なカリキュラム、シラバスに反映する。また、就職後に求められる教育カリキュラムについても把握する。外国人材（留学生）に必要な素養も把握する。

①「地方創生 × IT・AI活用」教育・企業ニーズ調査 Page: 5

IT事業者 R7調査

IT企業の「今」と「未来」：中核人材ニーズ調査から見る成長戦略

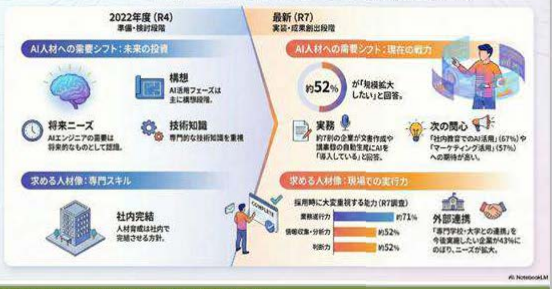
九州地方の中小IT企業21社へのアンケート結果を基に、現在の事業と人材ニーズ（現状）と、将来の成長に向けた人材・スキル・施策（未来）を対比。



①「地方創生 × IT・AI活用」教育・企業ニーズ調査 Page: 6

IT事業者 R7調査とR4調査比較

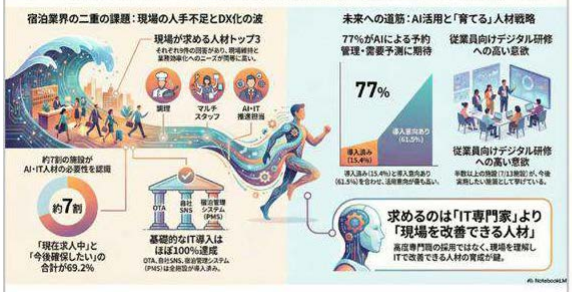
IT人材ニーズ最前線：AI時代に求められる変化（2022年度調査との比較）



①「地方創生 × IT・AI活用」教育・企業ニーズ調査 Page: 7

宿泊事業者 R7調査

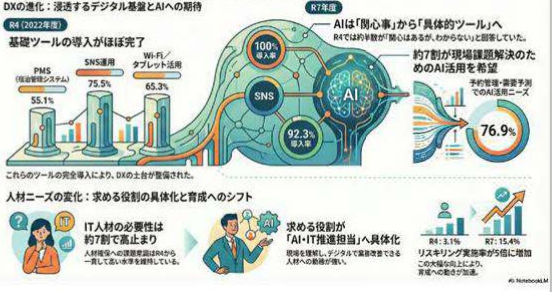
データで見る宿泊業界のDXと人材戦略：現場が求める「次世代の中核人材」とは？



①「地方創生 × IT・AI活用」教育・企業ニーズ調査 Page: 8

宿泊事業者 R7調査とR4調査比較

宿泊業のDX進化：基礎導入からAI活用へ



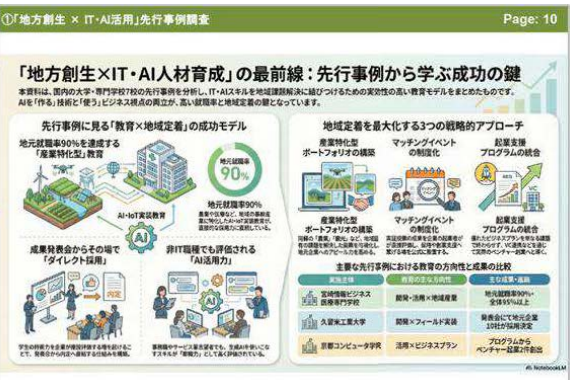
【第3回部会資料】

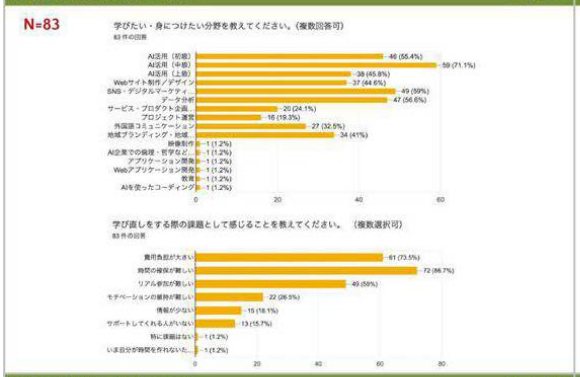
令和7年度 文部科学省委託事業
「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」
地方創生の課題解決 × IT・AI活用人材養成プログラム事業

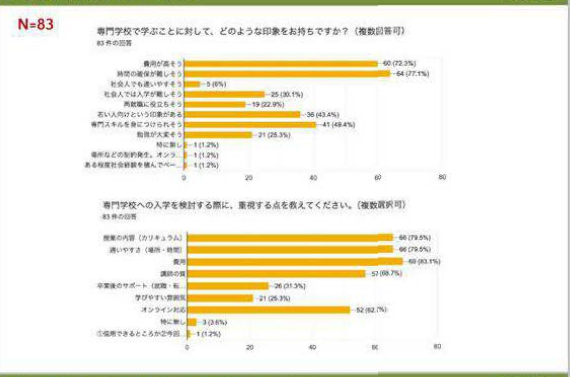
【第3回地域産業人材部会】

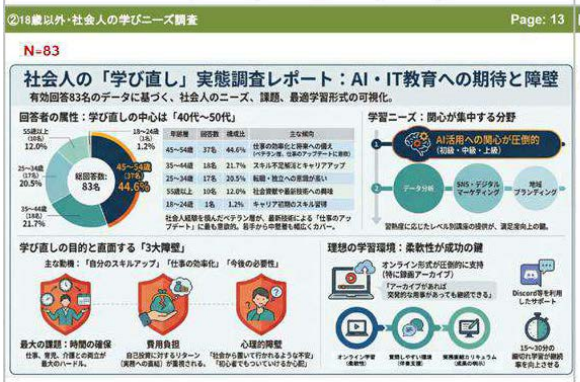
令和8年2月19日

学校法人イデア熊本アジア学園
専門学校イデアITカレッジ阿蘇

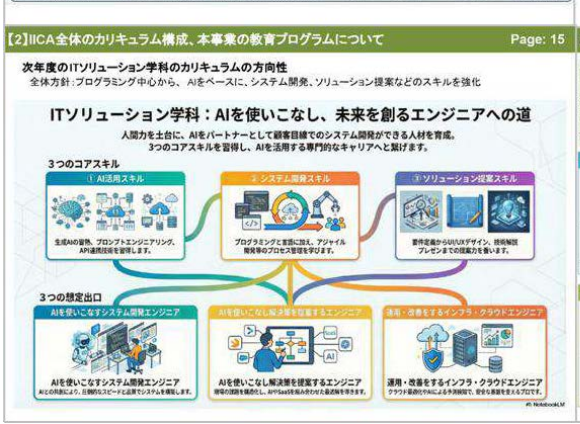








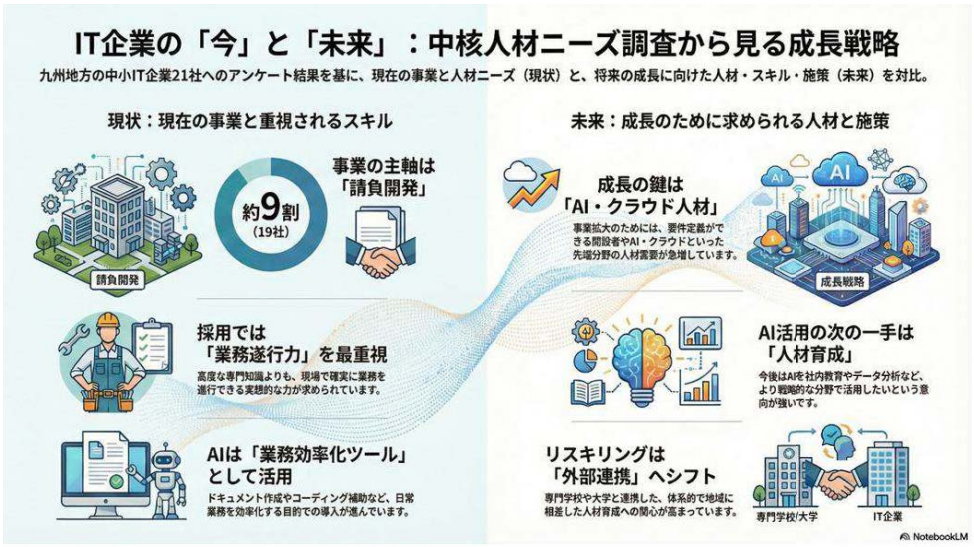


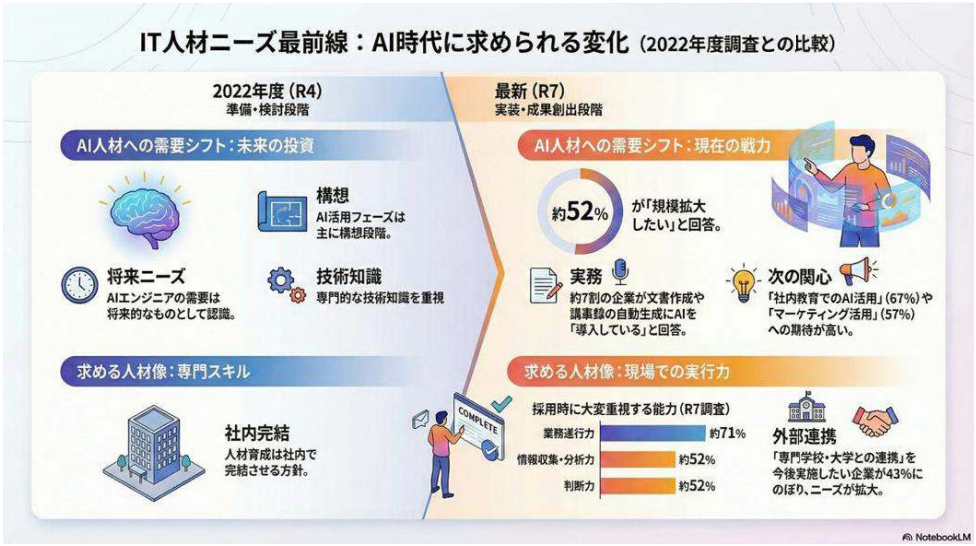


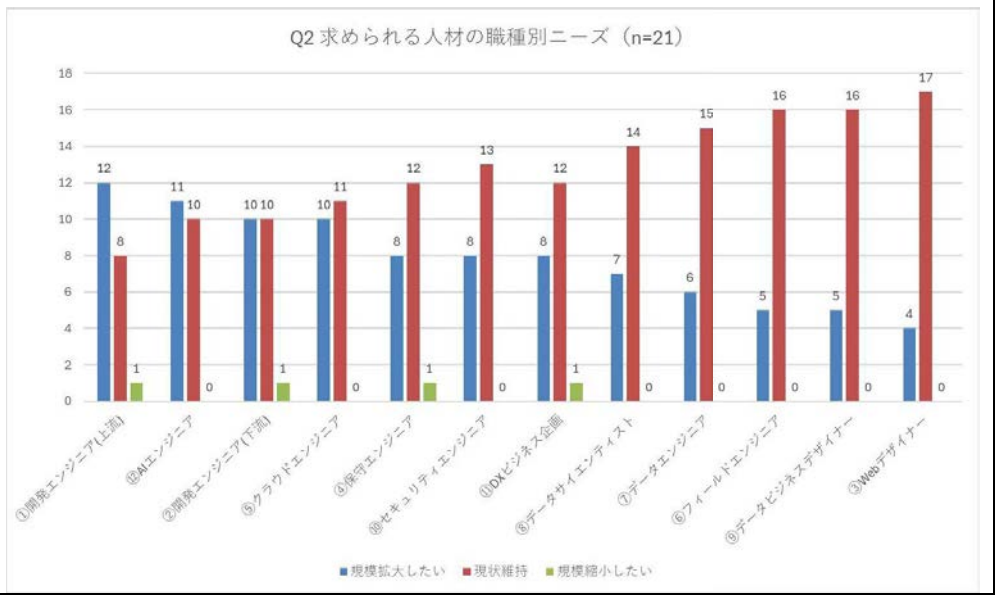


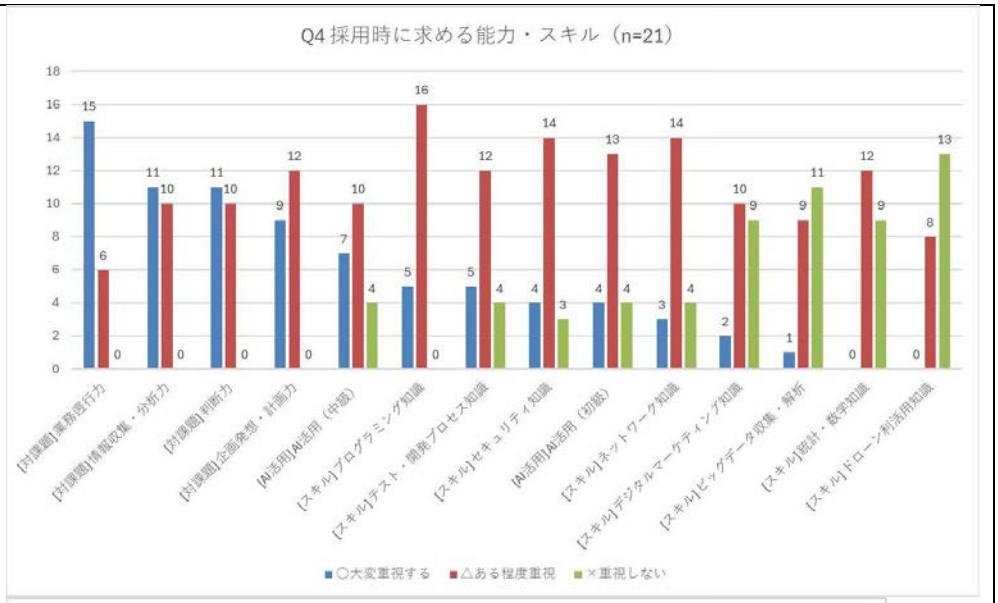
○事業を推進する上で実施した調査

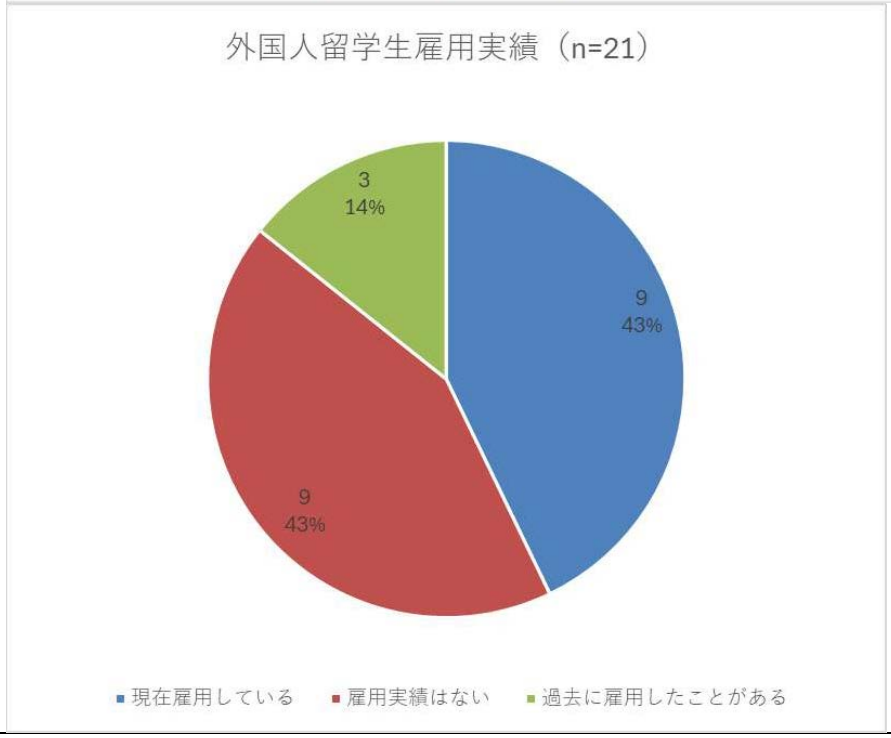
調査名	**①「地方創生 × IT・AI 活用」教育・企業ニーズ調査**
調査目的	観光コンテンツ分野（宿泊、飲食、体験施設）、エリアマネジメント分野（DMO・行政の観光担当）、情報サービス分野（情報サービス系の IT 企業）の事業者が「地方創生の課題解決 × IT・AI 活用」教育への理解度、学生の採用に対して、企業ニーズの実態を把握する。合わせて、外国人材の採用意向も把握する。
調査対象	①IT マーケティング科目群　～宿泊事業者、飲食、体験 DMO、観光協会、行政の観光担当等 ②IT・AI エンジニア科目群　～観光業界に関心がある IT システム開発、WEB 制作等の事業者 IT 国際科目群については、①②の事業者へ外国人材の採用意向について同時に調査する。
調査手法	各分野の業界団体、イデア IT カレッジ阿蘇のサポーター企業等を通じて、アンケート（WEB と郵送）調査を実施する。ニーズの高い事業者には、更にヒアリング調査を行う。合計　60 件
調査項目	＊事業者の「地方創生の課題解決 × IT・AI 活用」教育（当該教育）への理解度 ＊従業員のレベル（職種・経験・スキル）、理解度と必要性について ＊当該教育のカリキュラム・プログラムの内容とレベル ＊当該教育を受けた専門学校学生の採用ニーズ、職種、条件 ＊イデア IT カレッジ阿蘇学生の採用可能性、外国人材（留学生）の採用意向
分析内容（集計項目）	＊当該教育のカリキュラム・プログラムの内容とレベル（専門知識、スキル、資格） ＊当該教育に求める人材像 ＊入社時の社会人に求められる教育カリキュラム
調査結果	アンケート回収数 ・IT 事業者：21 件 ・DMO/観光振興団体：19 件 ・宿泊事業者：13 件 ⇒人材ニーズ・アンケート調査結果の詳細は、報告書末尾に添付。 ① IT 事業者 IT 業界では外部連携での教育が推進。AI 活用は戦力の重要ポイントへ。引き続き「業務遂行力」などの人間力は高く求められる。 採用ニーズにおいては、業務遂行力が 71%、情報収集・分析力が 52%、判断力が 52%とスキルよりも基本的な「人間力」の方が高く推移。 外国人留学生の雇用実績は 57%があり。採用意向に関しては、上限が合えば 33%が採用したい、今後検討したいが 29%となった。 リスキリングニーズは R4 年度と比べて、社内完結型から外部連携型への移行が見られた。

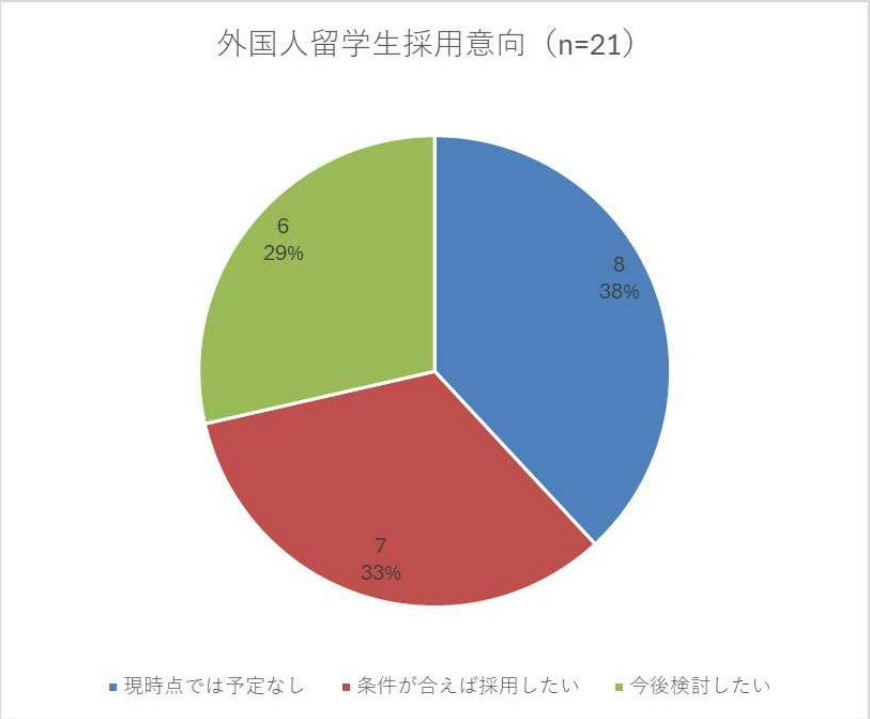

IT企業の「今」と「未来」：中核人材ニーズ調査から見る成長戦略
九州地方の中小IT企業21社へのアンケート結果を基に、現在の事業と人材ニーズ（現状）と、将来の成長に向けた人材・スキル・施策（未来）を対比。
現状：現在の事業と重視されるスキル
未来：成長のために求められる人材と施策
請負開発
約9割
(19社)
事業の主軸は
「請負開発」
採用では
「業務遂行力」を最重視
高度な専門知識よりも、現場で確実に業務を遂行できる実務的な力が求められています。
AIは「業務効率化ツール」
として活用
ドキュメント作成やコーディング補助など、日常業務を効率化する目的での導入が進んでいます。
成長の鍵は
「AI・クラウド人材」
事業拡大のためには、要件定義ができる開設者やAI・クラウドといった先端分野の人材需要が急増しています。
AI
成長戦略
AI活用の次の一手は
「人材育成」
今後はAIを社内教育やデータ分析など、より戦略的な分野で活用したいという意向が強いです。
リスキリングは
「外部連携」へシフト
専門学校や大学と連携した、体系的で地域に相差した人材育成への関心が高まっています。
専門学校/大学
IT企業
NotebookLM


IT人材ニーズ最前線：AI時代に求められる変化（2022年度調査との比較）
2022年度（R4）
準備・検討段階
最新（R7）
実装・成果創出段階
AI人材への需要シフト：未来の投資
構想
AI活用フェーズは主に構想段階。
将来ニーズ
AIエンジニアの需要は将来的なものとして認識。
技術知識
専門的な技術知識を重視
AI人材への需要シフト：現在の戦力
約52%
が「規模拡大したい」と回答。
実務
約7割の企業が文書作成や議事録の自動生成にAIを「導入している」と回答。
次の関心
「社内教育でのAI活用」(67%)や「マーケティング活用」(57%)への期待が高い。
求める人材像：専門スキル
社内完結
人材育成は社内で完結させる方針。
求める人材像：現場での実行力
採用時に大変重視する能力（R7調査）
業務遂行力 約71%
情報収集・分析力 約52%
判断力 約52%
外部連携
「専門学校・大学との連携」を今後実施したい企業が43%にのぼり、ニーズが拡大。
NotebookLM


Q2 求められる人材の職種別ニーズ（n=21）
18
16
14
12
10
8
6
4
2
0
12 8 1
11 10 0
10 10 1
10 11 0
8 12 1
8 13 0
8 12 1
7 14 0
6 15 0
5 16 0
5 16 0
4 17 0
①開発エンジニア(上流)
⑪AIエンジニア
②開発エンジニア(下流)
⑤クラウドエンジニア
④保守エンジニア
⑩セキュリティエンジニア
⑪DXビジネス企画
⑤データサイエンティスト
⑦データエンジニア
⑥フィールドエンジニア
⑨データビジネスデザイナー
③Webデザイナー
規模拡大したい
現状維持
規模縮小したい


Q4 採用時に求める能力・スキル（n=21）
18
16
14
12
10
8
6
4
2
0
15
6
0
11
10
0
11
10
0
9
12
0
7
10
4
5
16
0
5
12
4
4
14
3
4
13
4
3
14
4
2
10
9
1
9
11
0
12
9
0
8
13
【対課題】業務遂行力
【対課題】情報収集・分析力
【対課題】判断力
【対課題】企画発想・計画力
【AI活用】AI活用（中級）
【スキル】プログラミング知識
【スキル】テスト・開発プロセス知識
【スキル】セキュリティ知識
【AI活用】AI活用（初級）
【スキル】ネットワーク知識
【スキル】デジタルマーケティング知識
【スキル】ビッグデータ収集・解析
【スキル】統計・数学知識
【スキル】ドローン利活用知識
○大変重視する
△ある程度重視
×重視しない


外国人留学生雇用実績（n=21）
3
14%
9
43%
9
43%
現在雇用している
雇用実績はない
過去に雇用したことがある



② DMO/観光振興団体

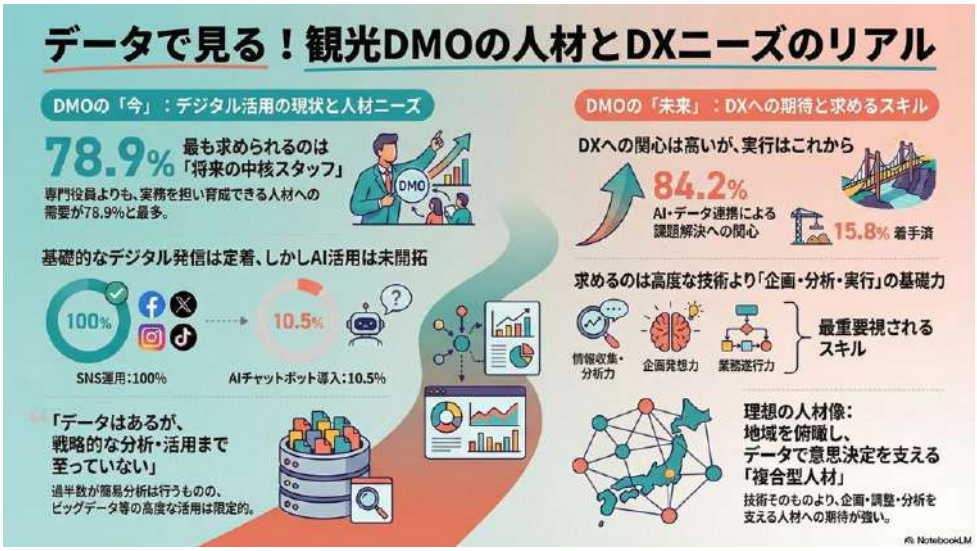
DMO/観光振興団体では、AI 出現によりより具体的なツールや手段が現実解として見えてきた。求める人材は実践できる企画・調整・分析できる人が求められる。

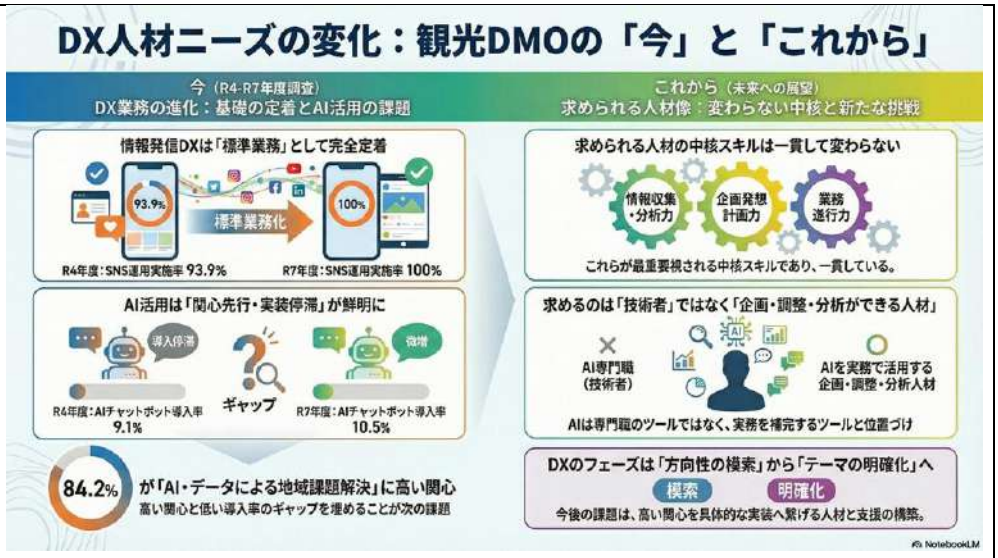
最も求められるのは、「将来の中核スタッフ」で 78.9%が回答。AI の活用の必要性を感じているのは 100%で、AI 活用人材は 58%の組織で育成したい・採用したいと回答されている。

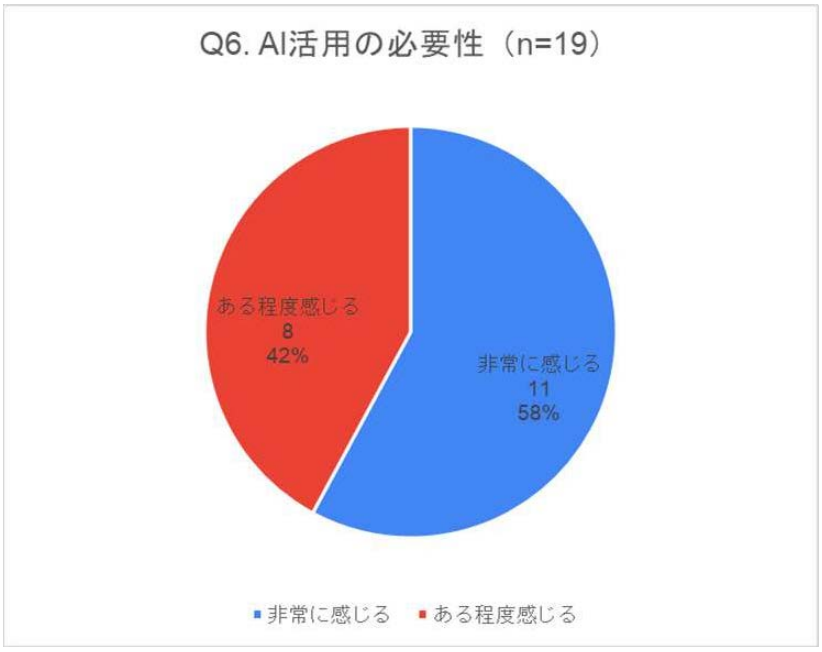
外国人人材の採用実績は、31%で、69%が採用実績なしとなる。

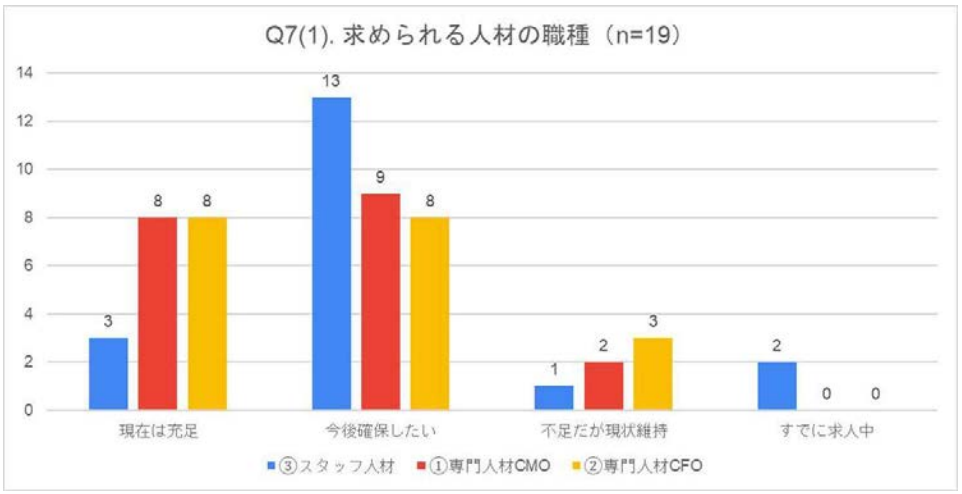
採用意向は採用したい・検討したい等ぽじてぃぐな回答が 79%となっており、インバウンド対応等含めニーズがあると言える。

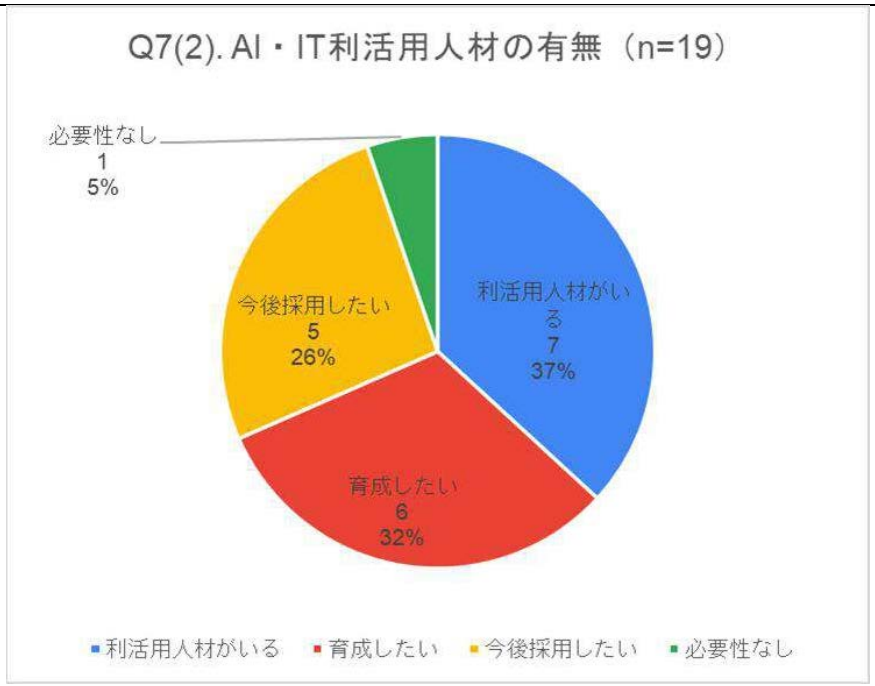
R4 年度と比べて、求められる中核スキルは、企画発想や業務遂行力などから変化はない。ただし、現場での AI 活用は関心ごとから実装検討のフェーズへ移行していることが分かった。

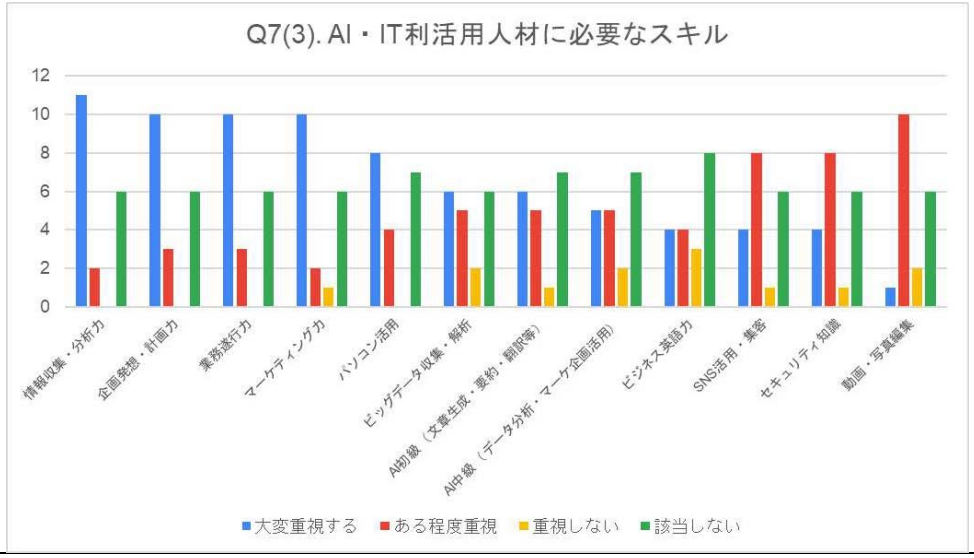


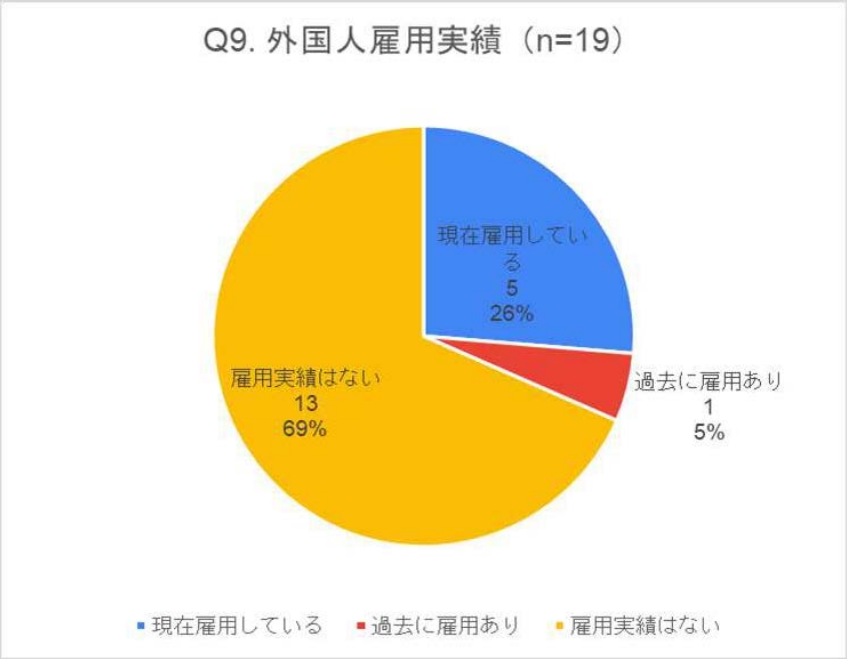

DX人材ニーズの変化：観光DMOの「今」と「これから」
今（R4-R7年度調査）
DX業務の進化：基礎の定着とAI活用の課題
これから（未来への展望）
求められる人材像：変わらない中核と新たな挑戦
情報発信DXは「標準業務」として完全定着
93.9%
標準業務化
100%
R4年度：SNS運用実施率 93.9%
R7年度：SNS運用実施率 100%
AI活用は「関心先行・実装停滞」が鮮明に
導入停滞
微増
R4年度：AIチャットボット導入率 9.1%
ギャップ
R7年度：AIチャットボット導入率 10.5%
84.2%
が「AI・データによる地域課題解決」に高い関心
高い関心と低い導入率のギャップを埋めることが次の課題
求められる人材の中核スキルは一貫して変わらない
情報収集・分析力
企画発想計画力
業務遂行力
これらが最重要視される中核スキルであり、一貫している。
求めるのは「技術者」ではなく「企画・調整・分析ができる人材」
AI専門職（技術者）
AIを実務で活用する企画・調整・分析人材
AIは専門職のツールではなく、実務を補完するツールと位置づけ
DXのフェーズは「方向性の模索」から「テーマの明確化」へ
模索
明確化
今後の課題は、高い関心を具体的な実装へ繋げる人材と支援の構築。
NotebookLM

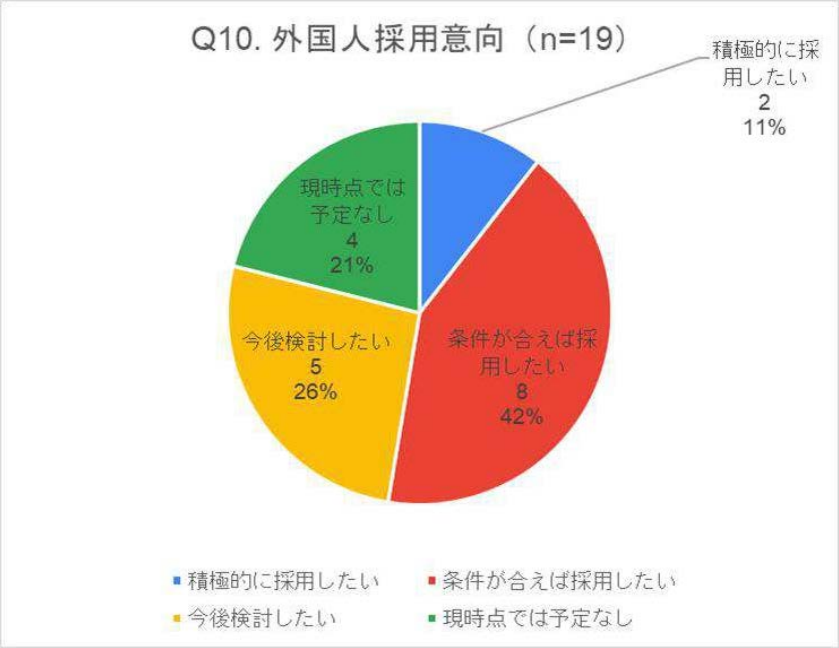

Q6. AI活用の必要性（n=19）
ある程度感じる
8
42%
非常に感じる
11
58%
非常に感じる
ある程度感じる


Q7(1). 求められる人材の職種（n=19）
14
12
10
8
6
4
2
0
3
8
8
13
9
8
1
2
3
2
0
0
現在は充足
今後確保したい
不足だが現状維持
すでに求人中
③スタッフ人材
①専門人材CMO
②専門人材CFO


Q7(2). AI・IT利活用人材の有無（n=19）
必要性なし
1
5%
今後採用したい
5
26%
利活用人材がいる
7
37%
育成したい
6
32%
利活用人材がいる
育成したい
今後採用したい
必要性なし


Q7(3). AI・IT利活用人材に必要なスキル
12
10
8
6
4
2
0
情報収集・分析力
企画発想・計画力
業務遂行力
マーケティング力
パソコン活用
ビッグデータ収集・解析
AI初級（文章生成・要約・翻訳等）
AI中級（データ分析・マーケ企画活用）
ビジネス英語力
SNS活用・集客
セキュリティ知識
動画・写真編集
大変重視する
ある程度重視
重視しない
該当しない





③ 宿泊事業者

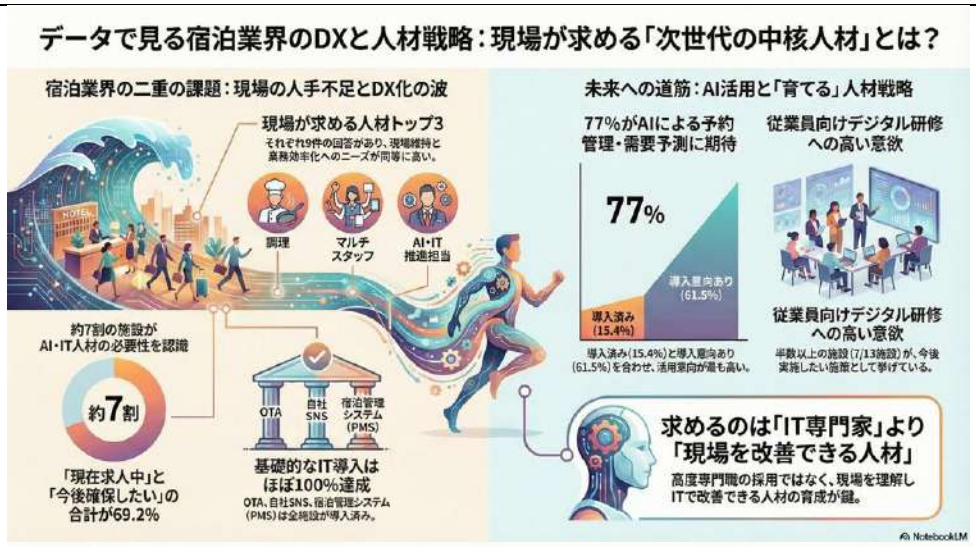
宿泊事業者では、慢性的な人手不足を AI やデジタル化で解決しようと動き始めている。現場目線で改善できる人が求められる。

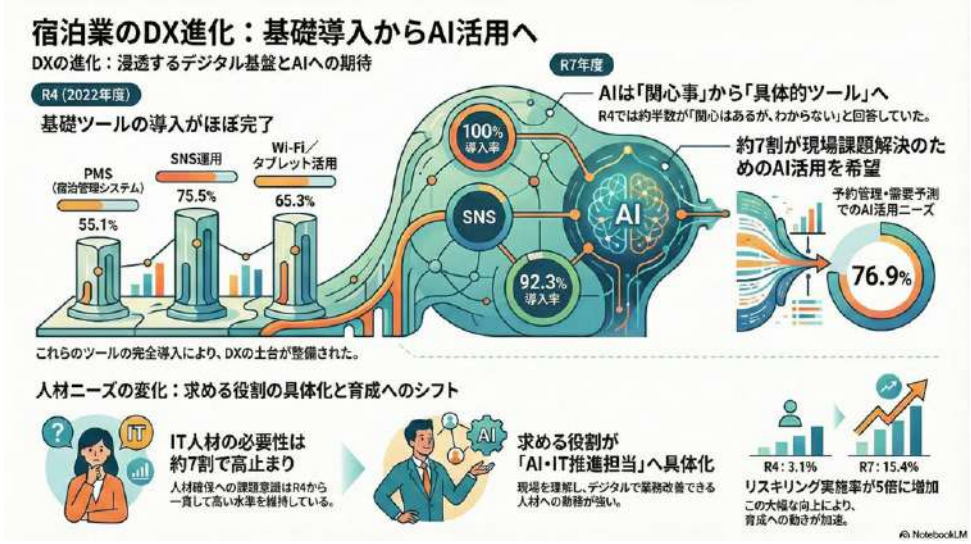
求められる人材の TOP3は、調理、マルチスタッフ、AI･IT 推進担当となる。業務での基本的な IT 導入はほぼ 100%達成されている（OTA など）。

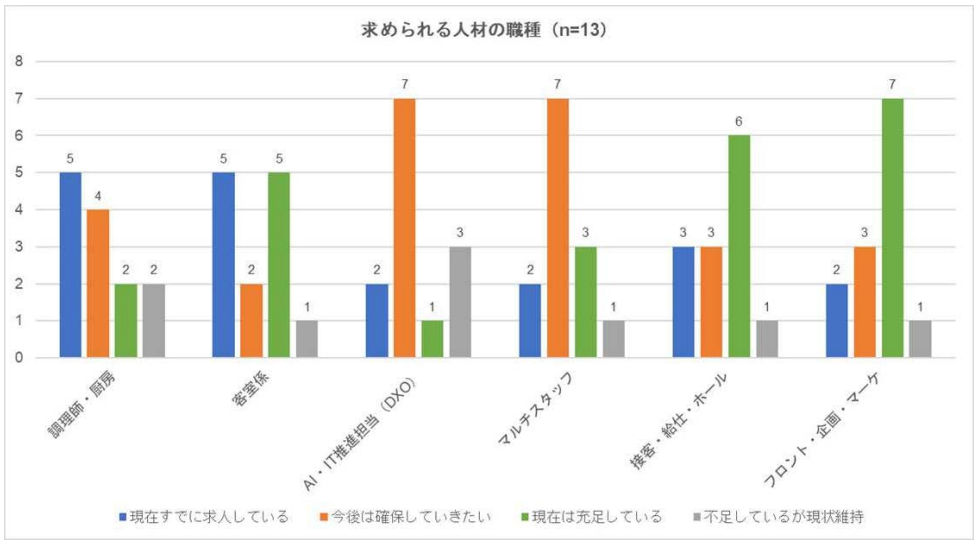
約 7 割が AI･IT 人材の必要性を認識している。

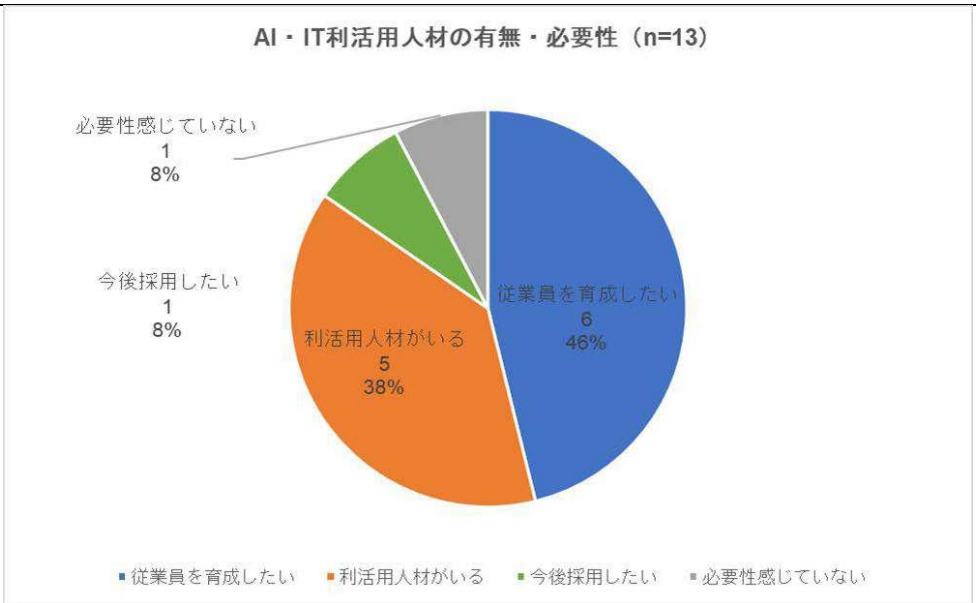
外国人人材の採用実績は、特定技能の採用実績が高い。技人国の採用は今後検討したいとの回答が比較的高く出た。

R4 年度と比べて、リスキリング実施率が 3.1%→15.4%と約 5 倍になっており、宿泊事業者における人材育成も徐々に進みだしていることが分かる。

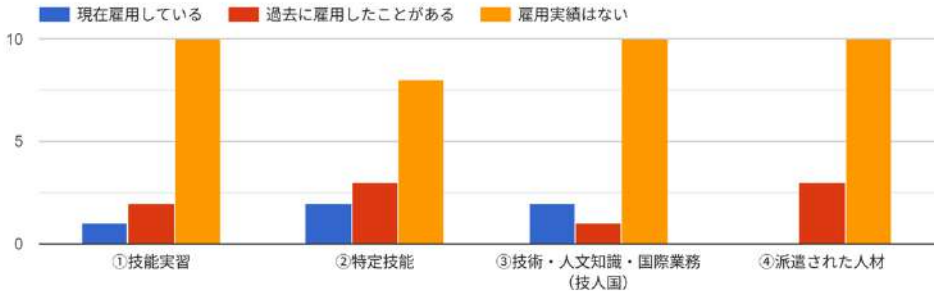

データで見る宿泊業界のDXと人材戦略：現場が求める「次世代の中核人材」とは？
宿泊業界の二重の課題：現場の人手不足とDX化の波
現場が求める人材トップ3
それぞれ9件の回答があり、現場維持と業務効率化へのニーズが同等に高い。
調理
マルチスタッフ
AI・IT推進担当
約7割の施設がAI・IT人材の必要性を認識
約7割
「現在求人中」と「今後確保したい」の合計が69.2%
OTA
自社SNS
宿泊管理システム（PMS）
基礎的なIT導入はほぼ100%達成
OTA、自社SNS、宿泊管理システム（PMS）は全施設が導入済み。
未来への道筋：AI活用と「育てる」人材戦略
77%がAIによる予約管理・需要予測に期待
77%
導入意向あり（61.5%）
導入済み（15.4%）
導入済み（15.4%）と導入意向あり（61.5%）を合わせ、活用意向が最も高い。
従業員向けデジタル研修への高い意欲
従業員向けデジタル研修への高い意欲
半数以上の施設（7/13施設）が、今後実施したい施策として挙げている。
求めるのは「IT専門家」より「現場を改善できる人材」
高度専門職の採用ではなく、現場を理解しITで改善できる人材の育成が鍵。
NotebookLM


宿泊業のDX進化：基礎導入からAI活用へ
DXの進化：浸透するデジタル基盤とAIへの期待
R4（2022年度）
基礎ツールの導入がほぼ完了
PMS（宿泊管理システム）
55.1%
SNS運用
75.5%
Wi-Fi／タブレット活用
65.3%
R7年度
AIは「関心事」から「具体的ツール」へ
R4では約半数が「関心はあるが、わからない」と回答していた。
100%導入率
SNS
AI
92.3%導入率
約7割が現場課題解決のためのAI活用を希望
予約管理・需要予測でのAI活用ニーズ
76.9%
これらのツールの完全導入により、DXの土台が整備された。
人材ニーズの変化：求める役割の具体化と育成へのシフト
IT
IT人材の必要性は約7割で高止まり
人材確保への課題意識はR4から一貫して高い水準を維持している。
AI
求める役割が「AI・IT推進担当」へ具体化
現場を理解し、デジタルで業務改善できる人材への期待が強い。
R4：3.1%
R7：15.4%
リスキリング実施率が5倍に増加
この大幅な向上により、育成への動きが加速。
NotebookLM

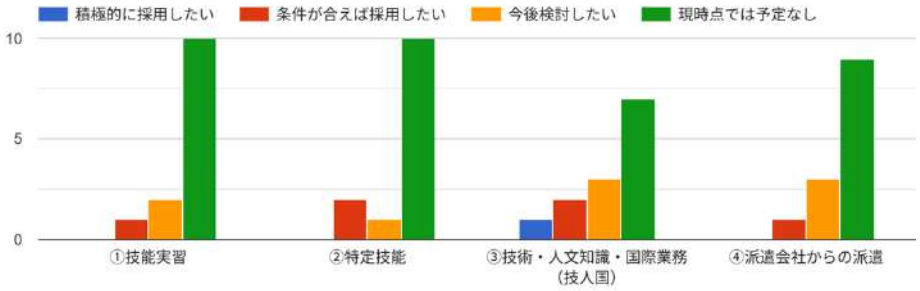

求められる人材の職種（n=13）
8
7
6
5
4
3
2
1
0
5
4
2
2
5
2
5
1
2
7
1
3
2
7
3
1
3
3
6
1
2
3
7
1
調理師・厨房
客室係
AI・IT推進担当（DXO）
マルチスタッフ
接客・給仕・ホール
フロント・企画・マーケ
現在すでに求人している
今後は確保していきたい
現在は充足している
不足しているが現状維持



Q6
外国人の雇用実績　御宿泊施設の現在、外国人の...します。 各項目で該当するものをお答えください。



Q7
外国人の採用意向　御宿泊施設の現在、外国人の...します。 各項目で該当するものをお答えください。



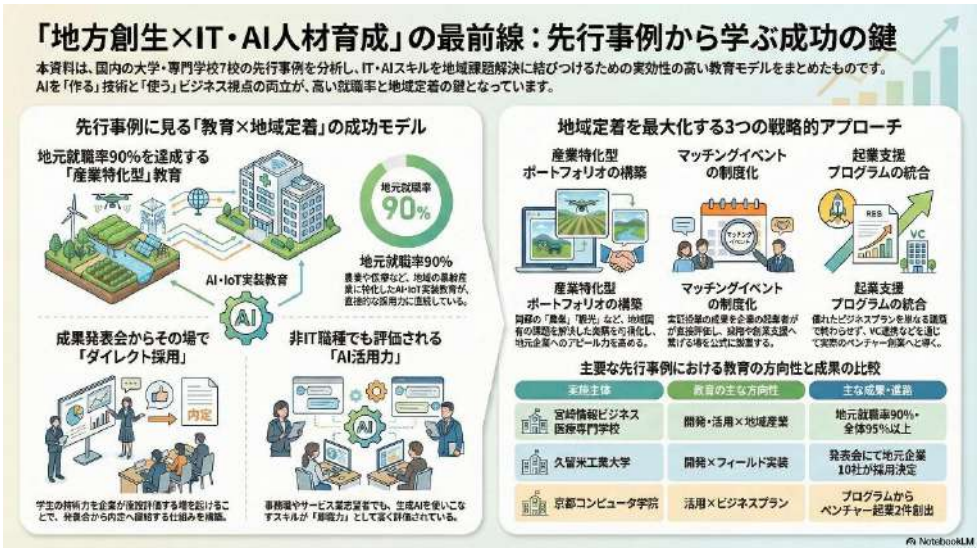
開発するカリキュラム・プログラム／今後実施する調査研究にどのように反映するか（活用手法）	これらの人材ニーズ・アンケート調査結果から、人材の育成や採用に関する、業界別のニーズ、また経年での変化を把握した。 求める職種とスキル、知識との関係性、また留学生採用ニーズも明らかとなった。 今後協力可能企業のピックアップを行っており、カリキュラム開発や採用連携を図っていく。

調査名	**②「地方創生 × IT・AI 活用」先行事例調査**
調査目的	地方創生 ×IT・ AI 活用人材育成（当該教育)への理解度、学生の採用に対して、企業ニーズの実態を把握する（外国人採用ニーズ含む）
調査対象	京都コンピュータ学院 FSG カレッジリーグ 宮崎情報ビジネス医療専門学校 日本工学院八王子専門学校 学校法人麻生塾 久留米工業大学 北海道大学
調査手法	教育機関、行政機関、企業の活動内容の WEB 調査・分析。 合計 7 件
調査項目	＊各テーマの教育ターゲットと人材像、カリキュラム、シラバス、 ＊各テーマの教育の時期・時間、形態 ＊各テーマの教育の受講生の属性 ＊学生の就職先の業界や企業
分析内容（集計項目）	＊「地方創生の課題解決 × IT・AI 活用」教育のターゲットと 人材像、カリキュラム、シラバス、時期・時間、形態 ＊学生の就職先の業界や企業

調査結果

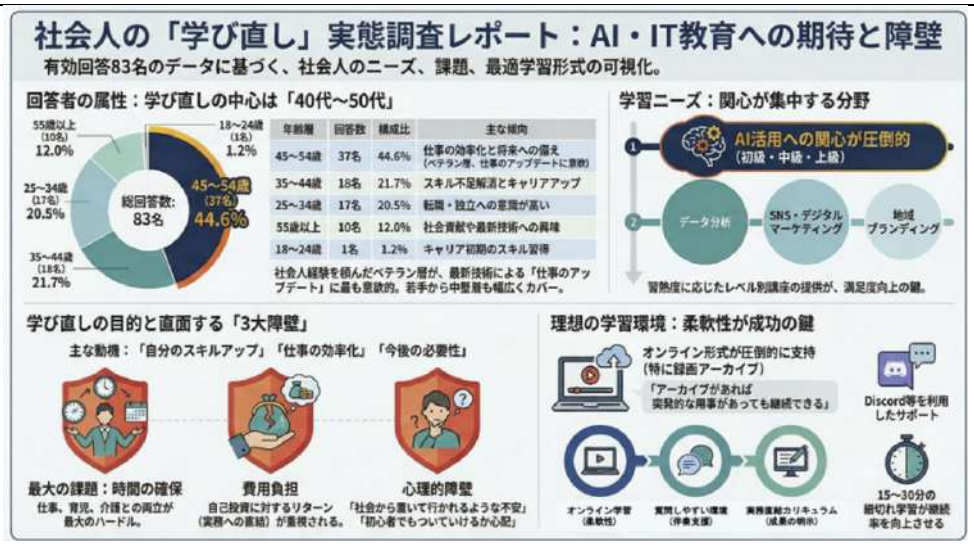
実施主体	教育種別	教育の主な方向性	成果・就職実績の傾向	連携企業・団体
京都コンピュータ学院	専門学校	活用×ビジネスプラン	ベンチャー起業2件創出	地元清掃・住宅メーカー
FSGカレッジリーグ	専門学校	活用×事務・サービス	全学生の就職率向上	株式会社dott、地域IT企業
宮崎情報ビジネス医療専門学校	専門学校	開発・活用×地域産業	地元就職率90%・全体95%以上	JA宮崎、県内病院
日本工学院八王子専門学校	専門学校	開発×地域連携PBL	ポートフォリオ活用でIT企業採用	八王子市、地元企業
学校法人麻生塾	専門学校	活用×業務改革支援	AI関連職種への高い内定率	ITスタートアップ(dott等)
久留米工業大学	大学	開発×フィールド実装	発表会で地元企業10社採用決定	広川町、JA、建設業者
北海道大学	大学	活用×行政・政策(EBPM)	連携企業への内定5名	NEC、北海道庁、札幌市

各事例の詳細分析（就職・進路実績）
① 京都コンピュータ学院（専門学校：活用×ビジネス設計）
カリキュラム詳細: AI ビジネスプランニングから ROI 分析までを段階的に学習。
就職・進路実績:
起業支援: プログラムを通じてベンチャー企業が 2 件誕生。ビジネスコンテスト形式の評価が直接創業につながっている。
主な進路: 既存の IT 企業のみならず、デジタル化を推進する住宅メーカーや物流企業の DX 担当として採用されるケースが目立つ。
② FSG カレッジリーグ（専門学校：全学科 AI 活用）
カリキュラム詳細: 福島県内 5 校の全学科学生（約 900 名）への生成 AI 活用教育を標準化。
就職・進路実績:
就職率の底上げ: サービス業や事務職志望の学生が「AI を使いこなせる事務職」として評価され、就職率が向上。
インターン連携: 地域の IT 企業との強力なパイプを活かし、東北地方の DX 人材として地元企業への採用実績を伸ばしている。
③ 宮崎情報ビジネス医療専門学校（専門学校：産業特化型実装）
カリキュラム詳細: 医療・農業に特化したデジタル化。IoT・AI の現場実装までを網羅。
就職・進路実績:
驚異的な地元定着率: 地元就職率 90%、全体就職率 95%以上を達成。
主な進路: JA 宮崎関連組織、県内基幹病院のシステム部門、地元 IT ベンダー。産業に特化したスキルが、そのまま地域内での採用力に直結している。
④ 日本工学院八王子専門学校（専門学校：AI システム開発）

	カリキュラム詳細: AI アルゴリズム実装能力に加え、地域課題解決の「プロデュース力」を養成。 就職・進路実績: 成果物による採用: 連携プロジェクトで作成したチャットボットや可視化ツールをポートフォリオとして活用。 主な進路: 大手 SIer、都内・多摩地域の IT 企業。外部企業連携演習でのプレゼンが評価され、そのままスカウトにつながる事例も。 ⑤ 学校法人麻生塾（専門学校：実務改革モデル） カリキュラム詳細: IT スタートアップと連携した最新 AI 技術の実務適用教育。 就職・進路実績: 即戦力評価: AI プロンプト最適化や RPA 導入などのスキルが評価され、AI 関連職種への内定が加速。 地域貢献: 福岡・九州を中心とした企業の DX 推進枠での採用実績が豊富。 ⑥ 久留米工業大学（大学：開発×フィールド実装） カリキュラム詳細: AI 応用研究所を中心に、いちご仕分け AI 等の地域プロジェクトを実施。 就職・進路実績: ダイレクト採用: 年次成果発表会において、学生の技術力を見た地元企業 10 社からその場で採用意欲が示され、内定に直結。 主な進路: 自動車関連メーカー、JA、地元建設業、システム開発会社。 ⑦ 北海道大学（大学：活用×データ駆動型行政） カリキュラム詳細: NEC の「因果分析 AI」を活用した行政課題解決。 就職・進路実績: 産学連携内定: プログラムに参画した学生 5 名が、連携パートナー企業（NEC 等）への内定を獲得。 主な進路: コンサルティングファーム、IT 企業、公務員。EBPM スキルの習得が、高度専門職への道を開いている。 

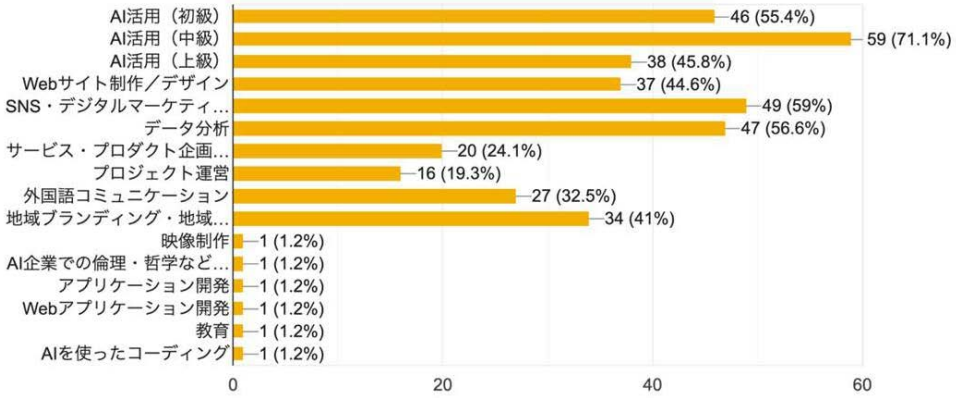
開発するカリキュラム・プログラム／今後実施する調査研究にどのように反映するか（活用手法）	阿蘇地域でのプログラム開発への検討を行う。 ・「マッチングイベント」の制度化: 久留米工大のように、実証授業の成果発表会を企業の採用担当者・経営者が直接評価する場とし、そのまま就職・創業支援へと繋げる。 ・地域定着のための「産業特化型ポートフォリオ」: 宮崎情報ビジネスの例を参考に、阿蘇の「農業」「観光」に特化したデジタル実績を学生に持たせることで、地元企業への採用メリットを最大化する。 ・起業支援プログラムの統合: 京都コンピュータ学院のように、実証プロジェクトがそのまま「創業」につながるよう、ビジネスプランのブラッシュアップやベンチャーキャピタル等との連携も視野に入れる。

調査名	**③18 歳以上・社会人の学びニーズ調査**
調査目的	18 歳以上・社会人で、観光業界に関心が高い方々への社会人の学び直し調査を行い、その実態を把握する。 専門学校への入学の意向と課題を検証する。
調査対象	インターネット調査：観光業界に関心が高い、18 歳以上・社会人
調査手法	インターネット調査：観光業界に関心が高い、学び直し・就職希望者を属性としてターゲティングして、WEB によるアンケート調査を実施。100 件
調査項目	＊「地方創生の課題解決 × IT・AI 活用」教育の関心度 ＊観光業界で学びたい知識・技能・スキル ＊専門学校への入学の意向と課題 ＊起業・創業のスタートアップへの関心
分析内容（集計項目）	＊観光業界に関心が高い、18 歳以上・社会人（転職・就職希望者）の学び直しニーズ ＊専門学校への入学意向、専門学校の授業で学びたい知識・技能・スキル。
調査結果	回答数　83 件 回答者属性は 35～54 歳が多く 65%を占める。 学習ニーズは AI 活用の関心が圧倒的で、次点としてデータ分析、SNS・デジタルマーケティング、地域ブランディングが続いた。 学び直しの目的と直面する障壁が 3 つ見えてきており、①時間確保 86.7%、②費用負担 73.5%、③モチベーション維持 26.5%となっている。 理想の学習環境としてはオンライン形式が圧倒的支持となった。 専門学校での学び直しも、費用が高そう 72.3%、時間の確保が難しそう 77.1%の他、社会人では入学が難しそう 30.1%となっている。 通いやすさや、時間の融通などが論点と言える。



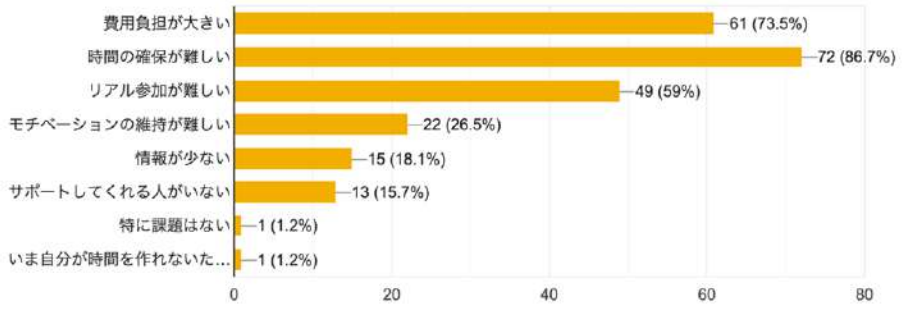
学びたい・身につけたい分野を教えてください。（複数回答可）

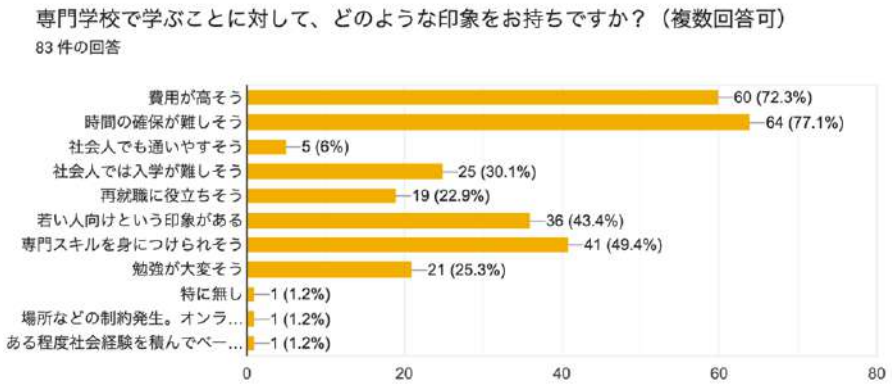
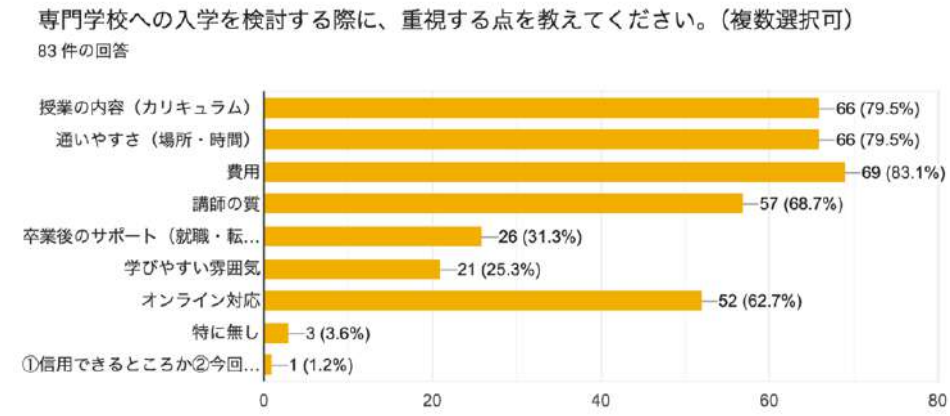
83 件の回答



学び直しをする際の課題として感じることを教えてください。 （複数選択可）

83 件の回答



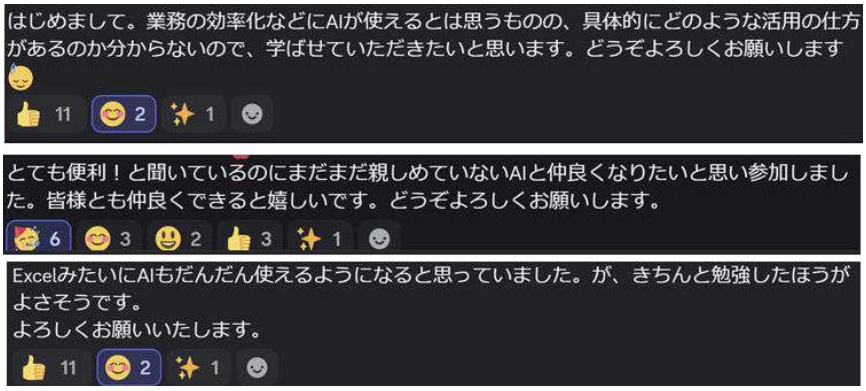
	 
開発するカリキュラム・プログラム／今後実施する調査研究にどのように反映するか（活用手法）	本アンケート結果から、AI 活用への関心が高く、デジタルツール活用関連の興味も高いことが明らかとなった。また、障壁は時間・費用・マインド維持が挙げられた。専門学校での学び直しもオンライン対応可能かなどが焦点となってくるため、カリキュラム・教材開発の際に反映を検討していく。

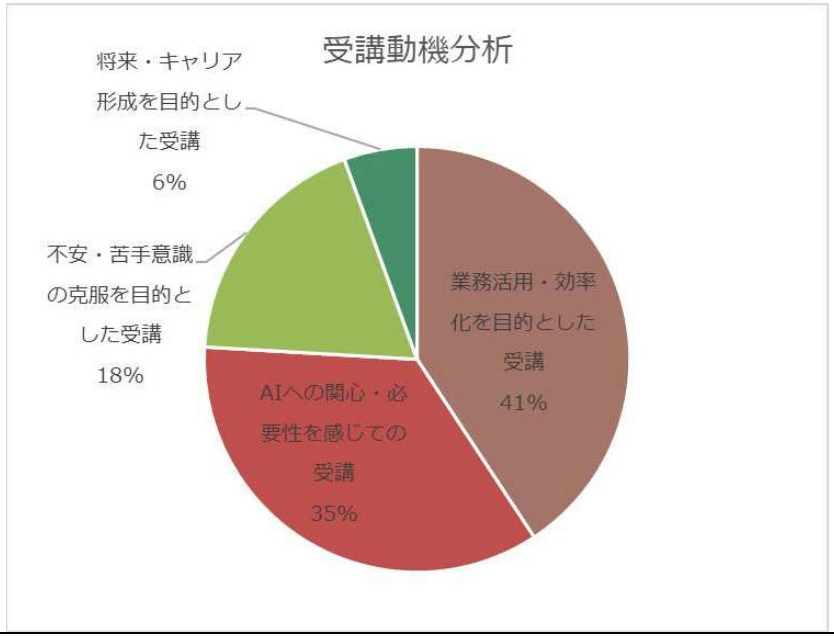
調査名	**④企業ヒアリング調査**
調査目的	アンケートだけでは見えてこない、リアルな企業の採用ニーズを把握することを目的とする。
調査対象	観光・宿泊、製造、IT、小売等の地域企業　5 社

調査手法	対面・オンラインによるヒアリング
調査項目	採用動向、求める人物像、日本語力・在留資格、即戦力度、教育連携の可能性
分析内容（集計項目）	新卒採用ニーズの他、調査項目に準ずる。
調査結果	企業は**「育てたいが余力がない」**というジレンマを抱えていることが明らかとなった。教育機関がその間を埋める存在として、実務に近い学習機会と現実的な就職導線を設計することが、地域人材循環の鍵となる。  1. 採用市場全体の傾向 1-1. 新卒採用環境 日本人新卒は極端な売り手市場であり、中小企業では応募自体が集まらないケースが多い 給与・休日条件を引き上げなければ、高卒・専門卒の母集団形成が困難 大企業・都市部企業への流出が顕著 1-2. 外国人材採用の現実 外国人材採用は拡大傾向だが、「日本語能力」と「在留資格」が最大の制約要因 多くの企業が N2 を理想としつつ、現実的には N3 で妥協している 技人国は業務範囲制限が厳しく、特定技能の方が現場適応力は高い 2. 業種別に見る採用ニーズ 2-1. 観光・宿泊業 人手不足は慢性的で、特に現場運営・接客人材が不足 IT・マーケティング人材への期待はあるが、即戦力前提の中途採用が中心 新卒にはマルチタスク適応力と基礎的接遇力が求められる

	2-2. 製造業・技能職 技能職は外国人材（特定技能）ニーズが高い 専門知識よりも、素直さ・自主性・安全意識が重視される 事務・広報・マーケティング系の間接部門人材が不足 2-3. IT・デジタル関連職 新卒より即戦力中途採用が中心 新卒に求める場合でも、基礎スキルと学習意欲が必須 外国人材はハードルが高く、試験通過率も低い 3. 企業が共通して求める人物像 日本語での実務コミュニケーション力（電話・メール・対面） 主体性・協調性・素直さ 「若くて元気」よりも「現場で育つ姿勢」 自分の言葉で考え、話せる力 4. 教育とのギャップと課題 企業は「理想像」より「採れる現実」から話を始めている マーケティングや IT の概念理解が抽象的なまま終わっている学生が多い 在留資格と学科・科目の整合性に対する理解不足 5. 教育連携における可能性 授業内課題提供、PBL 型授業への参画ニーズは高い インターンシップは「労働力化」への懸念が強く、設計が重要 課題提供型・短期実証型の連携が現実的 6. カリキュラム設計への示唆 日本語×実務コミュニケーションの体系的強化 在留資格を前提とした職種・科目設計 マーケティング・IT の“使える形”での可視化 現場理解を深めるフィールドワーク重視
開発するカリキュラム・プログラム／今後実施する調査研究にどのように反映するか（活用手法）	リアルな採用基準や企業ごとの求める人材像から、具体的なカリキュラム教材などへの落とし込みを行っていく。 また、ヒアリング協力企業には継続的なアプローチや協働による採用連携も提案・検討していく。

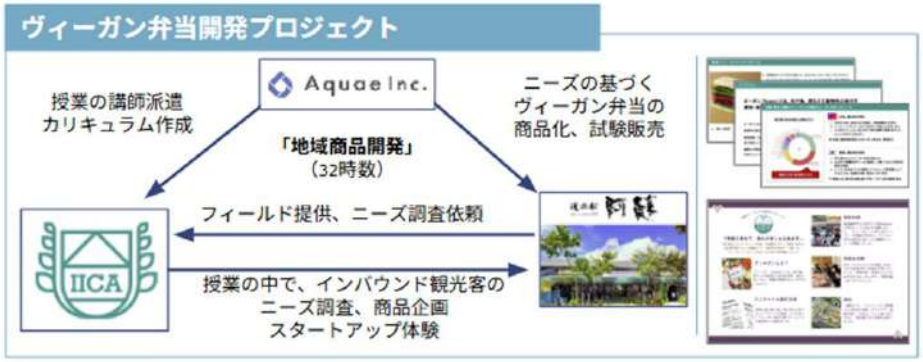
調査名	**⑤リカレント受講生の受講動機調査**

調査目的	実際に本校主催のリカレント講座を受講している社会人の学び直しニーズの把握。
調査対象	本校主催リカレントコース（AI キャリアアップコース）受講生　54 名
調査手法	限定コミュニティ内で発せられた「受講動機」をピックアップし分析。
調査項目	リカレントコースの受講動機
分析内容 （集計項目）	調査項目に準ずる。 「受講動機」「学びたい理由」に関する記述を抽出・分類し、傾向を整理。
調査結果	主な受講理由カテゴリ ①業務への活用・効率化を目的とした受講 ・日常業務や仕事の効率化に AI を活かしたい ・「便利だと聞くが、具体的な使い方が分からないため学びたい」 ・実務に直結する形での AI 活用を期待している層 ②AI に対する不安・苦手意識の克服 ・AI や IT に不慣れで「ついていけるか不安」 ・初心者であることを自覚したうえで、基礎から学びたいという動機 ・「苦手」「疎い」という表現が複数見られる ③将来に備えたスキル習得・自己研鑽 ・今後の社会や仕事の変化を見据え、「今のうちに学んでおきたい」 ・キャリアアップ・リスキリングの一環としての受講 ・長期的視点で AI リテラシー向上を目指す層 ④漠然とした関心・必要性認識からの参加 ・AI の重要性は感じているが、具体的なイメージはまだ持てていない ・「まずは触れてみたい」「知るところから始めたい」というスタンス ▼コメント例  分類結果（件数・比率） 傾向：業務活用・効率化を目的とした受講が最も多く、全体の約 4 割を占めている。一方で、「具体的な活用以前に、まず AI を知りたい」「必要性

	は感じている」という段階の受講生も約 3 割強存在しており、実務直結層と導入初期層が混在している構成である。また、不安や苦手意識の克服を明示的に挙げている受講生も約 2 割にのぼり、リカレント受講生全体としては「高度な専門スキル習得」よりも、「心理的ハードルを下げながら使えるようになりたい」というニーズが強いことがうかがえる。 ・業務活用・効率化を目的とした受講　22 件（40.7%） ・AI への関心・必要性を感じての受講　19 件（35.2%） ・不安・苦手意識の克服を目的とした受講　10 件（18.5%） ・将来・キャリア形成を目的とした受講　3 件（5.6%） 合計：54 件（100%） 
開発するカリキュラム・プログラム／今後実施する調査研究にどのように反映するか（活用手法）	本コースにおけるリカレント・学び直しのニーズは、 「専門性の獲得」よりも、 「分からない状態から抜け出し、社会や仕事の変化に対応できるという安心感を得ること」 に主眼が置かれていると整理できる。 上記内容を学び直しニーズ調査と合わせ、18 歳以外の社会人ニーズをカリキュラム検討や運営に際し、再度検討する。

○開発に際して実施した実証講座の概要　※検証結果については、下記検証項目に記載

実証講座の対象者	イデア IT カレッジ阿蘇の本科生　1，2 年生
期間（日数・コマ数）	R7 年 10 月から R8 年 2 月　改訂版の 4 科目⇒5 科目 ・地域商品開発　32 時数

	・地域課題実践プロジェクト　32 時数 ・地域課題×IT・AI　32 時数 ・IoT とデータ活用Ⅰ　32 時数 ・IoT とデータ活用Ⅱ　32 時数　合計 160 時数　80 コマ
実施手法	・企業ニーズ調査、先行事例調査、18 歳以外・社会人の学びニーズ調査を反映して、 〇IT マーケティング科目群を「地域観光デザイン学科」に導入 ・地域課題実践プロジェクト、・観光ビジネス DX の 2 科目を実施する。〇IT・AI エンジニア科目群を「IT ソリューション学科に導入」に導入 ・地域課題×IT・AI、IoT とデータ活用Ⅰ/Ⅱの3科目を実施する。
実証結果	IT マーケティング科目**※スタートアップ企業との連携授業** ① 地域商品開発　16 コマ（32 時数）　4 名 ② 地域課題解決プロジェクト　16 コマ（32 時数）　9 名 **→ともに、プロジェクト企画型の授業で、各企業が求める業務遂行力や情報収集・分析力などの基礎となる人間力の構築に大きく関与する科目として改変を実施。また、スタートアップ企業との連携授業として、企画段階から AI 等も使用しながら進行。** IT・AI エンジニア科目 ③ 地域課題×IT　16 コマ（32 時数）　23 名 **→本科目も、地場事業者の課題抽出から企画提案を含めたストーリーを学ぶ流れとなっており、IT スキルを活かしながら、DX による活性化を学べるカリキュラムとして改修。** ④IoT とデータ活用Ⅰ　16 コマ（32 時数）　23 名 ④ IoT とデータ活用Ⅱ　16 コマ（32 時数）　7 名 **→IT 企業でも強く求められる情報収集・分析、社会人学び直しでも 56.6%の方がデータ分析を学びたいと答えられており、身近なデータ収集の HOW からそのデータ活用までを座学から演習を通して、深く学べるように再編。** **① 地域商品開発　16 コマ（32 時数）　4 名**  ・連携先: アクウィー、道の駅阿蘇、地域の飲食店「Italiasso」（西内シェフ） ・プロジェクトの背景と目的: 阿蘇地域を訪れる外国人観光客（インバウンド）が急増する中、ベジタリアンやヴィーガンといった多様な食文化への対応が課題となっていた。本プロジェクトは、この「食の空白」を埋めるべく、阿蘇産の豊かな野菜や食材を活用した「ヴィーガン弁当」を産学連携

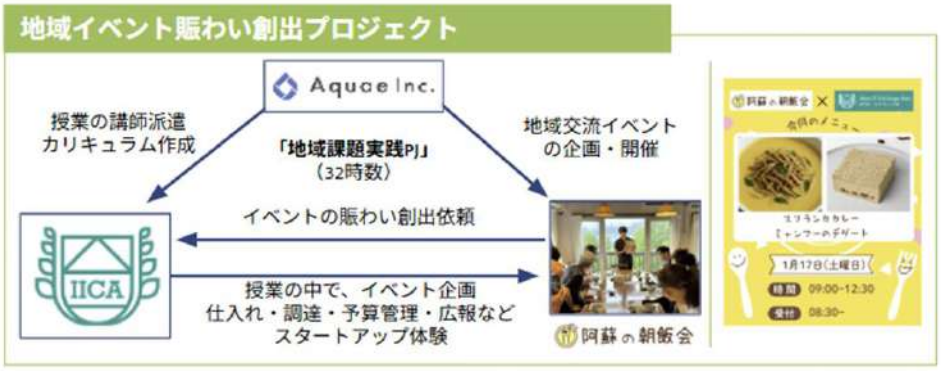
で開発・販売する実践的な取り組み。マーケティング視点（4P）を取り入れ、企画から製造依頼、パッケージデザイン、テスト販売までを学生主体で実施。
·開発商品: 当初の幕の内弁当形式から、製造の実現可能性や手軽さを考慮し、以下のワンハンドメニューなどに絞り込んで開発。

週	フェーズ	主な実施内容
第1週	準備①	企画書振り返り、ターゲット整理、連携先（Italiasso）への依頼内容検討・打ち合わせ
第2週	試作①	レシピ検討、原価計算・数量設定、Italiassoと連携した試作品づくり
第3週	フィードバック①	学内試食会（学生・教員対象）の実施、アンケート収集と改善点の洗い出し
第4週	改善準備	改善レシピの検討、パッケージ・POPデザインの制作、販売オペレーション確認
第5週	プレスリリース	テスト販売に向けたリリース作成（コンセプト・特徴告知）、広報用SNS準備
第6週	最終準備	パッケージ等の最終調整、販売に向けた最終確認
第7週	テスト販売	道の駅阿蘇での販売実習（接客・調査）、アンケート回収、売上記録
第8週	振り返り	データ整理、結果分析、プロジェクト全体の振り返りと改善点整理

▼実施風景



④ 地域課題解決プロジェクト　16 コマ（32 時数）　9 名



・連携先:アクウィー、阿蘇の朝飯会
・プロジェクトの背景と目的: 南阿蘇地域における「多文化共生の遅れ」「通過型観光（観光客の偏り）」「少子高齢化」といった地域課題に対して、学生独自の視点から解決策を模索するプロジェクト。「阿蘇の魅力を世界に伝えて、地域と世界の人が交流できる仕組みを作る」ことをゴールに設定し、食（朝食）を媒介とした交流イベントをゼロから企画・運営。
・実施内容（企画の骨格）:
　・WHO（ターゲット）: 地域住民、阿蘇に興味を持つ外国人、Z 世代の学生（目標集客数:17 名）
　・WHAT（提供価値）: 阿蘇の食材を使った多国籍な朝食（スリランカカレーなど）、異文化交流クイズ
　・WHY（目的）: 南阿蘇（長陽エリア等）の魅力再発見、地域住民と外国人が自然に交流できる場の創出
　・HOW（手法）: 学生主体のプレゼンテーションと食事会、ミャンマー・スリランカ・阿蘇をテーマにしたクイズ大会

時期	フェーズ	主な実施内容
2025年10月	イントロダクション	地域課題の洗い出し、「International Breakfast Project」のテーマ設定と役割分担の検討
11月	企画・段取り	4P（WHO/WHAT/WHY/HOW）フレームワークを用いた企画の精査、予算管理、提供メニューの決定
12月	準備・集客	ターゲット（17名）に向けた告知戦略（チラシ作成、SNS発信、フォーム作成）、コンテンツ準備（クイズ・プレゼン資料作成）
2026年1月	イベント本番	International Breakfast Project 実施 （8:30受付 / 9:00食事・プレゼン / 10:30交流クイズ / 12:30終了）
1月21日	振り返り	振り返りワークショップの実施（自己採点、成果と反省、チームワークの評価、次へのアクション設定）

▼当日の様子









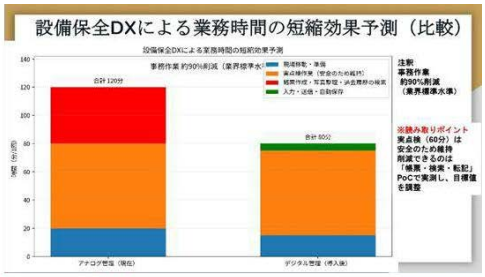
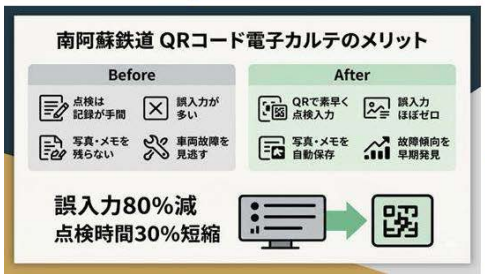
⑤ 地域課題×IT　16 コマ（32 時数）　23 名

期間：R7 年 10 月～R8 年 1 月

概要：地域課題のいくつかについて取り上げ、その現状分析と IT を活用した課題解決方法を学びます。事例紹介を通じてデザインシンキングやストーリーテリングの基礎を理解し、仮説検証モデルを構築。

フィールドワークで現場の課題を再認識し、効果のあるデータ収集・分析方法についても考えながら、課題解決のストーリーを作成。

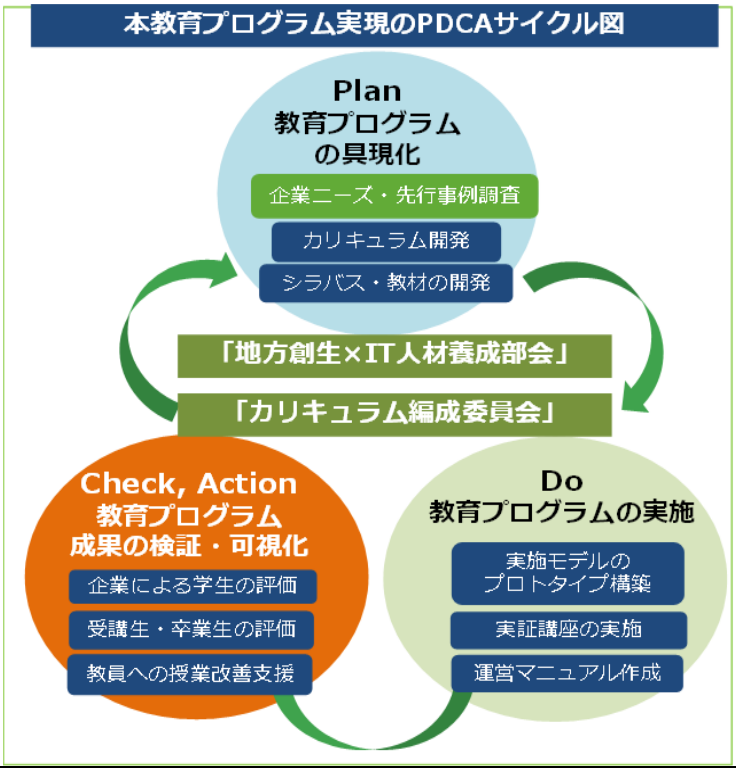
地元鉄道会社の課題解決案などを検討するなどの実践あり。

	▼地元事業者への学生の提案資料     ④IoT とデータ活用Ⅰ　16 コマ（32 時数）　23 名 期間：R7 年 10 月～R8 年 1 月　16 コマ 概要：IoT およびデータ概要および IoT データ収集演習（土壌センサー、画像センサー）やデータ分析前提知識（統計、数学、Excel）およびデータ分析基礎を学んだ。 ※教材等は後述。 ⑤IoT とデータ活用Ⅱ　16 コマ（32 時数）　7 名 期間：R7 年 10 月～R8 年 1 月　16 コマ 概要：IoT 収集データを用いたデータ分析演習を行い、IoT およびデータの概念の理解およびデータ分析に必要な基本的知識の修得、データ分析の演習を行うことによる分析基本スキルの修得、外部公開データおよび IoT 収集データを用いてデータ分析実践を行うことによる分析応用スキルの修得を目標に実施。 ※教材等は後述。
受講者数	66 人 （うち正規課程在学者 66 人、 社会人 0 人）

ⅲ）開発した教育カリキュラム・プログラム／調査研究結果の検証

◎本教育プログラム（地域活性化型）の検証体制
・本事業では、学校、企業関係者で既に設置している「カリキュラム編成委員会」において、本事業のカリキュラム、シラバス、教材の開発を行っていく。
・そこで開発されたものを本事業で「地方創生×IT 人材養成部会」を新たに設置して、学校、企業、団体、行政のメンバーで構成して、カリキュラム、シラバス、講座実施に関する進捗と助言、評価、検証を行っていく。

◎本教育プログラム（地域活性化型）の検証方法
⑴実証講座の受講生からの評価
・受講後直ぐと1年後アンケート調査で測定。講座の理解度と職場での活用度を 5 段階で評価した際、4以上の割合度で比較測定する。
・講座後の後追い調査の結果、受講者が対象とする観光業界に就職したかを定量的データで確保する。
⑵企業・業界団体等からの評価
・企業・団体への本教育プログラムへの評価をアンケート調査で行い、必要性、重要性を 5 段階4以上の割合度。
・本教育プログラム受講の卒業生について、受講後1年、3 年目の活躍状況について、受講生と企業からそれぞれレポートをもらう仕組みを設ける。
⑶教員への授業改善支援
・⑴⑵の評価を元に、本教育プログラムの授業を担う教員への改善支援を行う。



（5）事業実施に伴うアウトプット（成果物）

No.	取組事項	成果物	年度	成果内容
1	実績報告	実績報告書	R7 ~R9	事業計画（ワード）に基づいた実績を報告
2	「地方創生 × IT・AI活用」教育・企業ニーズ調査	「地方創生 × IT・AI活用」教育・企業ニーズ調査結果と分析　53件 **【追加】R4年度調査比較、企業ヒアリング内容分析　5件**	R7	①ITマーケティング科目群、②IT・AIエンジニア科目群　回収60⇒**53事業者**。 当該教育のカリキュラム・プログラムに求めるレベル（専門知識、スキル、資格）、人材像、 専門学校生の採用ニーズ及び外国人材の採用意向等を定量、定性で把握する。 **R4年度DX人材調査との比較での経年変化の分析** **企業ヒアリング内容の分析　5件⇒リアルな採用条件や求める人材像を把握する。**
3	「地方創生 × IT・AI活用」先行事例調査	「地方創生 × IT・AI活用」先行事例調査結果と分析　7件	R7	先行する教育機関、行政機関、企業での「地方創生の課題解決 × IT・AI活用」教育プログラムで、ターゲットと人材像、カリキュラム、シラバス、時期・時間、形態を把握。**7事業者**
4	18歳以外・社会人の学びニーズ調査	18歳以外・社会人の学びニーズ調査結果と分析　83件 **【追加】リカレント受講者受講動機分析54件**	R7	観光業界に関心が高い、18歳以外・社会人（転職・就職希望者）の学び直しニーズと専門学校への入学意向、専門学校の授業で学びたい知識・技能・スキル。100件⇒**83件** **リカレント受講生の動機コメントの分析　54件**
5	本教育のシラバス、教材の開発	シラバス、教材の開発 3科目群：20科目：640時数	R7 ~R9	①ITマーケティング科目群、②IT・AIエンジニア科目群、③IT国際科目群　20科目：640時数 ●シラバス：[R7,8年度]16科目⇒**17科目**（新規12科目/改訂5科目）、[R9年度]4科目（新規4科目） 科目名、コマ数、担当、学習目標、科目内容、学習単位、授業方式、評価方法等の記載 ●教材：[R7年度]4科目⇒**5科目**、[R8年度]12科目、[R9年度]4科目
6	実証講座の実施	実証講座の実施 20科目、学生数　延150人、 授業デザイン、マニュアル作成	R7 ~R9	●実証講座の実施　20科目、 [R7年度]4科目、学生30人⇒**5科目、学生66人**、[R8年度]16科目、学生50人、[R9年度]20科目、学生70人、 受講後の学生アンケート満足度、講師の満足度を分析する。 ●他学校への学校への横展開用　授業デザイン、マニュアルを作成する。
7	ｽﾀｰﾄｱｯﾌﾟ企業との連携講座の実施	企業連携講座の実施 2科目、企業3社、学生数　延50人、 地域課題解決のプロジェクト案件 4件、	R7 ~R9	●企業連携講座の実施 [R7年度]1科目、企業　1社、学生10人⇒**2科目、企業　3社、学生13人** [R8年度] 2科目、企業　2社、学生20人、 [R9年度]2科目、企業　3社、学生20人、 地域課題解決のプロジェクト案件 4件
8	AI等を活用した学校の業務効率化	生成AI活用の業務効率化・生産性向上 4ツール　カスタマイズ導入	R7 ~R9	●生成AI活用の業務効率化・生産性向上 [R7年度]**2ツール**、[R8年度] 2ツール、[R9年度]2ツール 生成AIツールを活用して、学校の業務にカスタマイズして導入する。
9	継続的連携組織と他学校への展開	他学校への展開 開発した科目の実証講座　他2校 カスタマイズした生成AIツール　他4校	R8~R9	●専門学校と業界団体、企業等で連携組織を設立、本事業の成果物が横展開で利活用される。 [R8,9年度] 2開発した科目の実証講座　他2校、カスタマイズした生成AIツール　他4校

〇カリキュラム一覧
※次年度単位制移行のため、時数→回数（コマ数）へ変更
17 科目 406 コマ

科目コース		科目名	教育の力/ポリシー	科目の領域	新規/改訂	科目概要	授業回数
①ITマーケティング科目群 地域観光デザイン学科およびITビジネス学科に導入	1	地域課題実践プロジェクト	専門力/実践スキル	地域創生ビジネス	改訂	地域課題解決に向けた商品開発	16
	2	観光ビジネスDX⇒地域商品開発	専門力/ITリテラシー	デジタルスキル	改訂	観光分野におけるIT活用、DX事例を学習	16
	3	マーケティングと企画立案	専門力/ビジネススキル	マーケティング	新規	マーケティングのフレームワークの習得	20
	4	SNSとデザイン実践	専門力/実践スキル	クリエイティブ	新規	SNSや販促に活用する制作物の作成	30
	5	AIとWebデザイン	専門力/ITリテラシー	生成AIスキル	新規	AIを活用したWebサイト制作	20
	6	WebライティングとAIO	専門力/AIリテラシー	情報発信	新規	AIOを意識したWebでの発信スキル	16
②IT・AIエンジニア科目群 ITソリューション学科に導入	1	地域課題×IT	専門力/実践スキル	地域創生ビジネス	改訂	デザインシンキング、ITソリューション	16
	2・3	IoTとデータ活用Ⅰ・Ⅱ ※対象学年が別のため2科目実施	専門力/ITリテラシー	データ分析・IoT	改訂	IoT基礎知識、データ分析スキル	32
	4	データ分析とノーコード開発	専門力/AIリテラシー	データ分析・BI	新規	情報分析、情報可視化フレーム習得	30
	5	業務アーキテクチャ設計	専門力/システム設計	業務分析・効率化	新規	実務を可視化し、最適な仕組みを設計	15
	6	生成AI利活用スキル	専門力/AIリテラシー	生成AIスキル	新規	AIを活用した業務効率実践	30
	7	生成AIソリューション	専門力/AIリテラシー	生成AIスキル	新規	AIを活用したシステム開発とソリューション提案	15
③IT国際科目群 IT国際学科に導入予定（R8年4月開設）	1	プレゼンテーション実習	専門力/日本語力	専門的な日本語力	新規	日本語の運用スキルの習得	30
	2	ITと観光業界の基礎	専門力/日本語力	専門的な日本語力	新規	業界の理解や専門用語の習得	30
	3	ビジネスコミュニケーション	専門力/実践スキル	ビジネススキル	新規	インターンシップや就労を見据えたコミュニケーション	30
	4	インターネットと情報リテラシー	専門力/ITリテラシー	ITスキル	新規	ITを学ぶ上での基礎となる知識の獲得	60
	17				新規12科目/改訂5科目		406

以降シラバス 17 科目

専門学校イデアITカレッジ阿蘇

学習支援計画書（シラバス）

授業科目名：地域課題実践プロジェクトⅠ	講師名（企業名）：久保竜之
地域観光デザイン学科　専門・必修・学科別	1年次　後期　16コマ(32時数,2単位)

◆授業形態

・5_△講義○演習
・教材（購入は要事前相談）：講師にて作成

◆概要

地方創生の現場では、大小さまざまなイベントを企画し、運営するスキルが求められる。そこで、本科目では地域課題の分析を行い、そのステークホルダーと実際に協議・調整を行い、課題解決に資するイベントを自ら企画し、段取りを行い、実際に実践するまでの一連の流れに取り組む。また、その成果を適切に評価する手法を学ぶ。
※1年、2年の合同実施科目。1年生は手法を学び、2年生はリーダーシップを発揮して主体的にマネジメントすることを目指す。

◆到達目標

・イベントの企画立案、オペレーション設計、マニュアル作成、実際の運営までが滞りなくできること
・学外の方々を巻き込む適切なコミュニケーションや段取り調整が行えること
・CSV（Creating Shared Value）の発想に基づき、イベントの賑わいと地域課題解決の両立を図ること

◆授業計画

ｺﾏ	ｵﾝﾗｲﾝ受講	ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ	授業内容
1	×不可	×No	イントロダクション
2	×不可	×No	地域課題の分析
3	×不可	×No	地域イベントのコンセプト設計・企画立案
4	×不可	×No	地域イベントのコンセプト設計・企画立案
5	×不可	×No	地域イベント運営マニュアルの作成
6	×不可	×No	地域イベント運営マニュアルの作成
7	×不可	×No	広報プロモーション
8	×不可	×No	広報プロモーション
9	×不可	×No	地域イベントの準備
10	×不可	×No	地域イベントの準備
11	×不可	×No	地域イベントの実施
12	×不可	×No	地域イベントの実施
13	×不可	×No	地域イベントの実施
14	×不可	×No	地域イベントの実施
15	×不可	×No	振り返りとまとめ
16	×不可	×No	振り返りとまとめ

学校法人イデア熊本アジア学園

専門学校イデアITカレッジ阿蘇

学習支援計画書（シラバス）

授業科目名：地域商品開発	講師名（企業名）：久保尭之
地域観光デザイン学科　専門・必修・学科別	2年次　後期　16コマ(32時数,2単位)

◆授業形態

・7_△講義〇実習・実技
・教材（購入は要事前相談）：講師にて作成

◆概要

本授業では、地域資源を活かした商品開発の基礎知識を学びながら、実際に道の駅で販売可能なご当地商品を企画・試作・提案することを目指す。地域の素材や文化、顧客ニーズを踏まえて発想力を高め、売れる商品を作るための視点やスキルを実践的に習得する。

◆到達目標

・地域資源や市場ニーズを踏まえた商品アイデアを発想できるようにする。
・商品の企画から試作、パッケージ、価格設計までを一貫して構想できるようにする。
・地域の関係者に向けた企画発表・提案ができるようにする。

◆授業計画

コマ	オンライン受講	フィールドワーク	授業内容
1	×不可	×No	イントロダクション：ご当地商品とは
2	×不可	×No	開発課題の整理・既存調査結果の共有と深掘り
3	×不可	×No	商品コンセプトシート・クリエイティブプランの作成
4	×不可	×No	商品コンセプトシート・クリエイティブプランの作成
5	×不可	×No	試作①：素材の選定・形状や味の検討・簡易サンプルづくり
6	×不可	×No	試作①：素材の選定・形状や味の検討・簡易サンプルづくり
7	×不可	×No	試作②：試作・改善点の洗い出しと再試作準備
8	×不可	×No	試作②：試作・改善点の洗い出しと再試作準備
9	×不可	×No	試作③：改良版試作品の制作・パッケージ案の検討・POP設計
10	×不可	×No	試作③：改良版試作品の制作・パッケージ案の検討・POP設計
11	×不可	×No	テスト販売の準備
12	×不可	×No	テスト販売の準備
13	×不可	×No	テスト販売の改善
14	×不可	×No	テスト販売の改善
15	×不可	×No	結果のまとめ・改善提案と振り返り
16	×不可	×No	結果のまとめ・改善提案と振り返り

成績評価基準	出席率_20% 授業態度_20% レポート・提出物_20% 小テスト・実技評価_40% ※中間試験_0% ・期末試験_0% ※通期科目は必ず前/後期それぞれで評価を行う事。

専門学校イデアITカレッジ阿蘇

学習支援計画書（シラバス）

作成日：2026年02月20日

授業科目名	マーケティングと企画立案	授業コード	

講師名	久保 堯之	授業形態	対面	単位数	2
対象学科	ITビジネス学科 専門科目	学年・時期	1年次 後期		

◆概要

マーケティングの基礎やフレームワークを学び、事業の企画立案をおこなう。予算書の作成などもおこない、数字を意識した企画やビジネスの立案ができることを目指す。

◆到達目標

1. マーケティングの基礎知識とフレームワークの理解
2. 事業企画立案に必要な思考プロセスと実践スキルの習得
3. 数字に基づいた予算作成とビジネス計画の策定能力の獲得

◆授業計画

コマ	授業内容
1	ガイダンスと科目概要、学習目標共有
2	マーケティングの基本概念と重要性
3	市場の外部環境分析（PEST分析）
4	内部環境分析（SWOT分析）と戦略
5	顧客理解、セグメンテーションとターゲティング
6	製品・サービスのポジショニング戦略
7	マーケティングミックス4P、製品戦略
8	価格戦略とプロモーション戦略の基礎
9	流通戦略、サービスマーケティング7P
10	ビジネスモデルキャンバスによる事業設計
11	企画のアイデア発想法と実践演習
12	事業企画書の構成と作成ポイント
13	予算作成の基礎、収益と費用、利益
14	損益分岐点分析、事業性の数値化
15	グループによる事業企画立案開始
16	企画内容の検討と具体的な予算計画
17	企画書の作成とプレゼン資料準備
18	企画書とプレゼンの最終調整
19	事業企画発表会（プレゼンテーション）
20	総合フィードバック、質疑応答と振り返り

◆成績評価基準

出席率50%／授業態度10%／レポート・提出物40%／小テスト評価0%／中間期末試験なし

◆使用する教科書・教材

◆受講生へのメッセージ/注意事項

出席率が3分の2に満たない場合、成績がつかない（不合格）となる可能性があります。

専門学校イデアITカレッジ阿蘇

学習支援計画書（シラバス）

作成日：2026年02月16日

授業科目名	**SNS**とデザイン実践	授業コード	

講師名	廣瀬 実華	授業形態	対面	単位数	3
対象学科	ITビジネス学科 専門科目	学年・時期	1年次 通年		

◆概要

SNSマーケティングの基本的な知識から学び、Canvaなどのデザイン制作ツールの活用方法について学ぶ。SNSに投稿する画像などクリエイティブの作成スキルから販促に活用するチラシやPOPなどの制作までおこなう。

◆到達目標

1. SNSマーケティングの基本概念と戦略立案手法の理解
2. Canva等のデザインツールを用いたクリエイティブ制作技術の習得
3. SNS投稿用画像、販促用チラシ、POP等のデザイン実践能力の確立

◆授業計画

コマ	授業内容
1	オリエンテーションと本講義の目的
2	SNSとは何か、その役割と種類
3	SNSマーケティングの基礎概念
4	SNSの活用事例と成功要因
5	Canvaの基本操作とインターフェース
6	デザインの基本原則：レイアウトと構成
7	デザインの基本原則：色とフォントの選び方
8	写真・画像の素材活用と著作権
9	SNS投稿用画像作成の実践1：基本構成
10	SNS投稿用画像作成の実践2：テキストと装飾
11	Instagram向けクリエイティブ制作
12	X（旧Twitter）向けクリエイティブ制作
13	Facebook向けクリエイティブ制作
14	ストーリー・リール動画の作成基礎
15	動画編集の基本操作とエフェクト
16	効果的な見出しとキャッチコピーの工夫
17	ターゲット層に響くデザイン戦略
18	デザイン制作におけるブランドイメージ統一
19	データの読み方とデザイン改善の基礎
20	デザインポートフォリオ制作の準備
21	販促用チラシ作成の実践1：構成と情報整理
22	販促用チラシ作成の実践2：デザインと配置
23	POP制作の実践1：アイキャッチデザイン
24	POP制作の実践2：情報伝達の工夫
25	プレゼンテーション資料のデザイン基礎
26	SNSキャンペーン企画とデザイン制作
27	総合課題：実践的なデザイン制作プロジェクト
28	総合課題：デザイン制作プロジェクト発表準備
29	総合課題発表とフィードバック
30	学習内容の総括と今後の展望

◆成績評価基準

出席率50%／授業態度10%／レポート・提出物40%／小テスト評価0%／中間期末試験なし

◆使用する教科書・教材

◆受講生へのメッセージ/注意事項

出席率が3分の2に満たない場合、成績がつかない（不合格）となる可能性があります。

専門学校イデアITカレッジ阿蘇

学習支援計画書(シラバス)

作成日:2026年02月16日

授業科目名	**Web**ライティングと**AIO**	授業コード	

講師名	廣瀬 実華	授業形態	対面	単位数	2
対象学科	地域観光デザイン学科 専門科目	学年・時期	2年次 通年		

◆概要

主にホームページ上における情報発信を念頭に、AI Optimization(AIO)を意識したライティングスキルを学ぶ。AIを活用しながら、実際にインタビューをおこない、記事の執筆までおこなう。

◆到達目標

1. Webにおける情報発信の基礎とAI Optimization (AIO) の概念を理解すること
2. AIツールを活用した効果的なWebライティングスキルを習得すること
3. インタビューを通じた記事企画から執筆、公開までの一連のプロセスを実践すること

◆授業計画

コマ	授業内容
1	Webライティングの基礎と役割の理解
2	AI Optimization (AIO) の基本概念学習
3	読者ターゲット設定と情報収集方法の習得
4	AIライティングツールの種類と基本操作
5	読者を惹きつける記事構成の企画と作成
6	AIを活用した効果的な文章生成演習
7	情報の信頼性確保とファクトチェック技術
8	インタビュー準備と質問作成の基礎
9	インタビューの実践とロールプレイング
10	インタビュー内容のテキスト化と要約技術
11	インタビュー記事の執筆と構成調整
12	AIによる記事の推敲および校正支援
13	Webサイトへの記事公開プロセス学習
14	著作権、倫理規範と情報発信の責任
15	最終記事の発表準備と相互評価
16	記事の発表と振り返り、質疑応答

◆成績評価基準

出席率50%／授業態度10%／レポート・提出物40%／小テスト評価0%／中間期末試験なし

◆使用する教科書・教材

◆受講生へのメッセージ/注意事項

出席率が3分の2に満たない場合、成績がつかない(不合格)となる可能性があります。

専門学校イデアITカレッジ阿蘇

学習支援計画書(シラバス)

作成日:2026年02月20日

授業科目名	AIとWebデザイン	授業コード	

講師名	廣瀬 実華	授業形態	対面	単位数	2
対象学科	ITビジネス学科 専門科目	学年・時期	1年次 後期		

◆概要

Webサイト制作においても広く活用されるようになったAI。ノーコードWebサイト開発ツール「Studio」を使用し、AIを活用しながら各自のポートフォリオサイトの制作をおこなう。

◆到達目標

1. AIを活用したWebデザインの基礎知識と原則の理解
2. ノーコードWebサイト制作ツールStudioの操作方法習得
3. AI支援による自身のポートフォリオサイトの企画・制作・発表

◆授業計画

コマ	授業内容
1	Webデザイン概要と本授業の目標理解
2	AIとWebデザインの関連性および可能性
3	ノーコードツールStudioの基本操作習得
4	Studioを用いたページ構成とレイアウト作成
5	Webデザインの基本原則と視覚要素の調整
6	ワイヤーフレーム作成とAIによるデザイン補助
7	AIデザインツールの活用とデザインシステム
8	テキスト要素の最適化とフォント選定
9	画像・動画素材の選定と配置、AI編集
10	アニメーションとインタラクションの基礎
11	レスポンシブデザインの考え方と実装
12	Studioでのモバイル対応と表示調整
13	ポートフォリオサイトの企画と構成立案
14	AIを活用したコンテンツ生成とライティング
15	AIによるデザイン提案とサイト全体の調整
16	Webサイトの公開準備とドメイン設定
17	アクセシビリティとユーザビリティの確認
18	AIO対策の基礎とAIによる改善提案
19	ポートフォリオサイト発表と相互評価
20	制作物の振り返りと今後の学習計画策定

◆成績評価基準

出席率50%／授業態度10%／レポート・提出物40%／小テスト評価0%／中間期末試験なし

◆使用する教科書・教材

◆受講生へのメッセージ/注意事項

出席率が3分の2に満たない場合、成績がつかない(不合格)となる可能性があります。

専門学校イデアITカレッジ阿蘇

学習支援計画書（シラバス）

授業科目名：地域課題×IT	講師名（企業名）：小山　善文
ITソリューション学科専門・必修・学科別	1,2年次後期16コマ(32時数,2単位)

◆授業形態

・7_△講義○実習・実技
・教材（購入は要事前相談）：オリジナル

◆概要

本科目では、地域課題のいくつかについて取り上げ、その現状分析とITを活用した課題解決方法を学びます。事例紹介を通じてデザインシンキングやストーリーテリングの基礎を理解し、仮説検証モデルを構築します。

フィールドワークで現場の課題を再認識し、効果のあるデータ収集・分析方法についても考えながら、課題解決のストーリーを
作成します。発表準備を通じて仮説とその検証方法をプレゼンテーションするスキルを磨きます。

◆到達目標

・地域課題×ITの検討の現状について、1年生に説明できる
・現状の課題をもとに、仮説・検証モデルをつくる
・解決にむけたストーリーを作成し、資料としてまとめる
・発表をおこない、フィードバックを得る

◆授業計画

ｺﾏ	ｵﾝﾗｲﾝ受講	ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ	授業内容
1	×No	×No	オリエンテーションと目的設定
2	×No	×No	地域課題×ITの現状分析と課題
3	×No	○Yes	事例紹介
4	×No	×No	事例における課題発見とアイデア創出(1)
5	×No	×No	事例における課題発見とアイデア創出(2)
6	×No	×No	仮説とその検証モデルづくり(1)
7	×No	×No	仮説とその検証モデルづくり(2)
8	○Yes	×No	ストーリーテリングの基本
9	×No	○Yes	フィールドワーク
10	×No	×No	仮説とその検証モデルの見直し(1)
11	×No	×No	仮説とその検証モデルの見直し(2)
12	×No	×No	ストーリー作成(1)
13	×No	×No	ストーリー作成(2)、データ収集・分析方法の整理
14	×No	×No	発表準備(1)
15	×No	×No	発表準備(2)
16	×No	×No	成果発表とフィードバック

成績評価基準	出席率_10%授業態度_10%レポート・提出物_80%小テスト・実技評価_0% ※中間試験_0%※期末試験_0% **※通期科目は必ず前/後期それぞれで評価を行う事。**

専門学校イデアITカレッジ阿蘇

学習支援計画書（シラバス）

授業科目名：IoTとデータ活用　I	講師名（企業名）：西川　徹
ITソリューション学科専門・必修・学科別	1年次後期16コマ(32時数,2単位)

◆授業形態

・4_○講義△演習

・教材（購入は要事前相談）：講義に関しては自作教材、機材に関しては1年時もしくは2年次後期に必要となる可能性あり

◆概要

IoTとデータ活用Ⅰ（1年次後期）

・IoTおよびデータ概要およびIoTデータ収集演習（土壌センサー、画像センサー）

・データ分析前提知識（統計、数学、Excel）およびデータ分析基礎

◆到達目標

・IoTおよびデータの概念の理解およびデータ分析に必要な基本的知識の修得

・データ分析の演習を行うことによる分析基本スキルの修得

・外部公開データおよびIoT収集データを用いてデータ分析実践を行うことによる分析応用スキルの修得

◆授業計画

ｺﾏ	ｵﾝﾗｲﾝ受講	ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ	授業内容
1	○Yes	×No	【AI・IoT技術の基礎】科目の目的、概要、および全体の授業計画についての説明。
2	○Yes	×No	【データの概念】IoTにおけるデータ、データの扱い方
3	○Yes	×No	【IoTシステム構築①】 サーバー基礎
4	○Yes	×No	【IoTシステム構築②】 ネットワーク基礎
5	○Yes	×No	【IoTシステム構築③】 土壌データ基礎　土壌センサー
6	○Yes	×No	【IoTシステム構築④】 画像データ基礎　画像センサー
7	○Yes	×No	【データ分析基礎①】 データ分析概要
8	○Yes	×No	【データ分析基礎②】 データ分析のための基礎知識
9	○Yes	×No	【データ分析基礎③】 データ分析のための基礎演習
10	○Yes	×No	【データ分析基礎④】 回帰分析①　単回帰分析
11	○Yes	×No	【データ分析基礎⑤】 回帰分析②　単回帰分析演習
12	○Yes	×No	【データ分析基礎⑥】 回帰分析③　重回帰分析
13	○Yes	×No	【データ分析基礎⑥】 回帰分析④　重回帰分析　各種近似
14	○Yes	×No	【データ分析基礎⑦】 回帰分析⑤　重回帰分析演習
15	○Yes	×No	【まとめ1】 データ分析基礎まとめ　課題説明
16	○Yes	×No	【まとめ2】 課題発表

成績評価基準	出席率_50%授業態度_20%レポート・提出物_20%小テスト・実技評価_10%

※17～32 コマが本事業対象コマ

専門学校イデアITカレッジ阿蘇

学習支援計画書（シラバス）

2025年3月31日

授業科目名：IoTとデータ活用 Ⅱ	講師名（企業名）：西川 徹
ITソリューション学科専門・必修・学科別	2年次通期32コマ(64時数,4単位)

◆授業形態

・4_○講義△演習

・教材（購入は要事前相談）：講義に関しては自作教材、機材に関しては1年時もしくは2年次後期に必要となる可能性あり

◆概要

IoTとデータ活用Ⅱ（2年次）

・外部公開データを用いたデータ分析演習（前期）

・IoT収集データを用いたデータ分析演習（後期）

◆到達目標

・IoTおよびデータの概念の理解およびデータ分析に必要な基本的知識の修得

・データ分析の演習を行うことによる分析基本スキルの修得

・外部公開データおよびIoT収集データを用いてデータ分析実践を行うことによる分析応用スキルの修得

◆授業計画

コマ	オンライン受講	フィールドワーク	授業内容
1	○Yes	×No	【導入】科目の目標、内容、評価方法説明
2	○Yes	×No	【業界知識①】 農産物市場の基礎
3	○Yes	×No	【業界知識②】 株式市場の基礎、気象データの基礎
4	○Yes	×No	【データ分析の基礎 復習】 データの種類と特性および代表的な分析手法
5	○Yes	×No	【時系列データ】 時系列データ分析①
6	○Yes	×No	【時系列データ】 時系列データ分析②
7	○Yes	×No	【気象データ分析】 温暖化予測
8	○Yes	×No	【気象データ分析演習】 熊本地方の温暖化予測と今後の農産物の植生変化
9	○Yes	×No	【株価データ分析】 株価予測
10	○Yes	×No	【株価データ分析演習】 短期的株価予測、長期的株価予測
11	○Yes	×No	【農産物データ分析】 農産物の収穫量予測
12	○Yes	×No	【農産物データ分析演習】 農産物の収穫量予測①
13	○Yes	×No	【農産物データ分析演習】 農産物の収穫量予測②
14	○Yes	×No	【まとめ1】 データ分析まとめ 課題説明
15	○Yes	×No	【まとめ2】 課題実施
16	○Yes	×No	【まとめ3】 課題発表
17	○Yes	×No	【導入】科目の目標、内容、評価方法説明
18	○Yes	×No	【IoT収集データ活用】 IoT収集データ分析例
19	○Yes	×No	【プロジェクト説明】プロジェクト目的と期待される効果
20	○Yes	×No	【プロジェクト1-①】データ分析方法、システム検討
21	○Yes	×No	【プロジェクト1-②】システム構築
22	○Yes	×No	【プロジェクト1-③】データ収集
23	○Yes	×No	【プロジェクト1-④】データ分析
24	○Yes	×No	【プロジェクト1-⑤】データ分析まとめ
25	○Yes	×No	【プロジェクト2-①】データ分析方法、システム検討
26	○Yes	×No	【プロジェクト2-②】システム構築
27	○Yes	×No	【プロジェクト2-③】データ収集
28	○Yes	×No	【プロジェクト2-④】データ分析
29	○Yes	×No	【プロジェクト2-⑤】データ分析まとめ
30	○Yes	×No	【まとめ1】 各プロジェクトの取り組み内容の整理、課題説明
31	○Yes	×No	【まとめ2】 課題実施
32	○Yes	×No	【まとめ3】 課題発表

成績評価基準	出席率_50%授業態度_20%レポート・提出物_20%小テスト・実技評価_10% ※中間試験_0%※期末試験_0% **※通期科目は必ず前/後期それぞれで評価を行う事。**

専門学校イデアITカレッジ阿蘇

学習支援計画書(シラバス)

作成日:2026年02月19日

授業科目名	データ分析とノーコード開発	授業コード	

講師名	小山 純市	授業形態	対面	単位数	2
対象学科	ITソリューション学科 専門科目	学年・時期	1年次 後期		

◆概要

データ分析とテーブル設計とノーコードCRUDをメインテーマとし、ノーコードでのシステム開発をおこなう。

◆到達目標

1. データ分析の基礎概念とデータ活用方法を理解する。 2. データベースのテーブル設計原則を習得し、実践に適用できる。 3. ノーコード開発ツールを用いてCRUDシステムを開発できる。

◆授業計画

コマ	授業内容
1	オリエンテーションと科目概要の説明
2	データと情報、データ分析の意義を理解する
3	データ収集の方法と情報の扱い方
4	収集データの整理と加工、基礎演習
5	データ可視化の基本とグラフの利用
6	データベースの基礎知識と種類
7	リレーショナルデータベースの概念とテーブル
8	テーブル設計の基本、正規化の概念
9	ER図を用いたテーブル設計実践
10	ノーコード開発の概要とメリット、ツール選定
11	CRUDの概念理解とシステム開発への適用
12	ノーコードツールでのテーブル作成、データ型設定
13	UI/UXの基礎とノーコードでの画面設計
14	データの登録(Create)機能の実装
15	データの表示(Read)機能の実装
16	データの更新(Update)機能の実装
17	データの削除(Delete)機能の実装
18	複数テーブルのリレーションシップ設定
19	フォーム入力とデータのバリデーション
20	ノーコードでの簡易な自動化とワークフロー
21	プロジェクト要件定義とシステム設計
22	チーム開発の基礎と役割分担
23	プロジェクト計画と進捗管理
24	データ分析結果に基づくシステム改善
25	ノーコードでの認証・認可機能の実装
26	デバッグとシステムテストの実施
27	ノーコードシステム構築演習(前半)
28	ノーコードシステム構築演習(後半)
29	プロジェクト成果発表会の実施
30	学習内容の総まとめと振り返り

◆成績評価基準

出席率50%／授業態度10%／レポート・提出物40%／小テスト評価0%／中間期末試験なし

◆使用する教科書・教材

◆受講生へのメッセージ/注意事項

出席率が3分の2に満たない場合、成績がつかない(不合格)となる可能性があります。

専門学校イデアITカレッジ阿蘇

学習支援計画書（シラバス）

作成日：2026年02月19日

授業科目名	業務アーキテクチャ設計	授業コード	

講師名	森田 典子	授業形態	対面	単位数	1
対象学科	ITソリューション学科 専門科目	学年・時期	1年次 後期		

◆概要

実務を可視化し、最適な仕組みを設計するアーキテクチャ設計を学ぶ。

◆到達目標

1. 業務の現状分析と課題特定能力の習得。
2. 業務要件に基づく効率的なシステムおよびプロセス設計知識の理解。
3. 業務アーキテクチャ設計手法とツールの実践的活用。

◆授業計画

コマ	授業内容
1	業務アーキテクチャ設計の概要と目的を学ぶ。
2	業務プロセスと現状フローの把握手法を学ぶ。
3	業務課題特定と要求定義の基本を理解する。
4	業務モデリングの目的とUMLの基礎を学ぶ。
5	ER図を用いたデータモデリングを実践する。
6	BPMNを用いたプロセスモデリングを実践する。
7	ユースケースによる機能要件設計を演習する。
8	非機能要件の定義と評価方法を理解する。
9	代表的なアーキテクチャスタイルを比較検討する。
10	システム構成要素の設計とインターフェースを学ぶ。
11	情報セキュリティ設計の基礎を理解する。
12	アーキテクチャ評価と改善の手法を学ぶ。
13	総合設計プロジェクトの計画と初期設計。
14	総合設計プロジェクトの詳細化と成果物作成。
15	プロジェクト成果発表と学習内容の振り返り。

◆成績評価基準

出席率50%／授業態度10%／レポート・提出物40%／小テスト評価0%／中間期末試験なし

◆使用する教科書・教材

◆受講生へのメッセージ/注意事項

出席率が3分の2に満たない場合、成績がつかない（不合格）となる可能性があります。

専門学校イデアITカレッジ阿蘇

学習支援計画書(シラバス)

作成日:2026年02月16日

授業科目名	生成AI利活用スキル	授業コード	

講師名	村上 大輔	授業形態	対面	単位数	1
対象学科	共通 専門科目	学年・時期	1年次 通年		

◆概要

生成AIの仕組みや基礎から学び、様々な生成AIツールに触れ、活用方法を学ぶ。授業の後半では、生成AIを活用した業務効率化についても学ぶ。

◆到達目標

1. 生成AIの基本的な仕組みや機能を理解すること
2. 主要な生成AIツールを状況に応じて適切に活用できること
3. 生成AIを活用した業務効率化の手法を実践すること

◆授業計画

コマ	授業内容
1	生成AIの概要と歴史、その可能性を理解
2	生成AIの基本的な仕組みと種類を学習
3	大規模言語モデル(LLM)の基礎知識と応用
4	テキスト生成AIツールの基本操作と特徴
5	効果的なプロンプトの書き方:基本原則
6	プロンプト作成演習:情報収集と要約
7	プロンプト作成演習:文章生成と校正
8	生成AI利用の倫理、著作権、留意点
9	情報の真偽確認とファクトチェックの重要性
10	生成AIのセキュリティとデータ保護の基礎
11	画像生成AIツールの概要と操作方法
12	画像生成プロンプトの作成と実践演習
13	生成画像の加工と調整の基礎技術
14	動画・音声生成AIの基本と活用事例
15	プロンプト応用技法:ペルソナ設定と役割付与
16	プロンプト応用技法:思考の具体化と制約設定
17	マルチモーダルAIの活用事例と応用
18	Web検索連携AIの機能と利用法を習得
19	生成AIツールの連携と自動化の基礎
20	RAG(検索拡張生成)の概念と応用
21	企画書、プレゼン資料作成への応用
22	議事録作成、メール文面作成の効率化
23	プログラミングコード生成とデバッグ補助
24	データ分析、レポート作成補助の実践
25	業務効率化シナリオの検討と設計
26	生成AI活用プロジェクトの企画立案
27	生成AI活用プロジェクトの実施と検証
28	生成AI活用による業務改善提案
29	生成AI活用プロジェクト発表会
30	学習内容の総括と今後の展望

◆成績評価基準

出席率50%／授業態度10%／レポート・提出物40%／小テスト評価0%／中間期末試験なし

◆使用する教科書・教材

◆受講生へのメッセージ/注意事項

出席率が3分の2に満たない場合、成績がつかない(不合格)となる可能性があります。

専門学校イデアITカレッジ阿蘇

学習支援計画書(シラバス)

作成日:2026年02月18日

授業科目名	生成AIソリューション	授業コード	

講師名	岩木 健・村上 大輔	授業形態	対面	単位数	1
対象学科	ITソリューション学科 専門科目	学年・時期	1年次 後期		

◆概要

AIを活用したシステム開発の手法と実際にソリューションの提案をおこなう。

◆到達目標

1. 生成AIの基礎知識と活用原理を理解すること
2. 生成AIを用いたシステム開発の一連の手法を習得すること
3. AIソリューションの企画、設計、提案ができること

◆授業計画

コマ	授業内容
1	生成AIの概要と基本概念の理解
2	生成AIの種類とそれぞれの特徴、活用例
3	生成AIがもたらす社会への影響と倫理
4	プロンプトエンジニアリングの基礎と実践
5	生成AIシステム開発のプロセス概論
6	大規模言語モデル(LLM)の活用手法
7	画像生成AIの活用と具体的な実践
8	生成AIとAPI連携によるシステム構築
9	既存のAIソリューション事例分析
10	課題特定とAIソリューションの要件定義
11	AIソリューションの企画立案とテーマ決定
12	ソリューションの設計と開発計画の策定
13	プロトタイプ開発と機能検証の実施
14	成果発表準備とプレゼンテーション技法
15	AIソリューション発表とフィードバック

◆成績評価基準

出席率50%／授業態度10%／レポート・提出物40%／小テスト評価0%／中間期末試験なし

◆使用する教科書・教材

◆受講生へのメッセージ/注意事項

出席率が3分の2に満たない場合、成績がつかない(不合格)となる可能性があります。

専門学校イデアITカレッジ阿蘇

学習支援計画書（シラバス）

作成日：2026年02月13日

授業科目名	プレゼンテーション実習	授業コード	

講師名	松永 祐一	授業形態	対面	単位数	2
対象学科	IT国際学科科目	学年・時期	IT国際学科 全員 通年		

◆概要

専門学校や企業で不可欠な日本語でのプレゼンテーション（発表）能力を養います。内容の論理的な構成と明瞭なスピーキングに焦点を当て、繰り返し実践します。また、Google Slideを使用したスライド作成の基本操作を習得します。授業を通して、聴衆に内容を正確に伝える会話力と発表準備のスキルを統合的に向上させます。

◆到達目標

1. 論理的な構成に基づいたプレゼンテーションの企画・設計能力を習得すること。
2. Google Slideを用いた視覚的に効果的なスライド作成能力を習得すること。
3. 聴衆へ内容を正確に伝える明瞭なスピーキングと質疑応答の技能を養うこと。

◆授業計画

コマ	授業内容
1	授業概要の説明とプレゼンテーションの基礎理解
2	効果的なプレゼンテーションの要素と事例分析
3	発表の目的設定と聴衆分析の重要性
4	プレゼンテーションの基本的な構成（序論・本論・結論）
5	論理的思考、発表内容の組み立て方
6	Google Slideの基本操作とアカウント設定
7	テキストと図形の挿入、書式設定の基礎
8	画像や動画の挿入と効果的な配置
9	スライドデザインの原則、視覚効果の活用
10	データやグラフの効果的な見せ方
11	スライドマスターとテーマの活用方法
12	アニメーションと画面切り替え効果の適用
13	発表原稿作成の基本、キーワード利用
14	発声練習、話し方の基本、明瞭な発音
15	視線とジェスチャー、アイコンタクトの重要性
16	短時間プレゼンテーション実践（自己紹介）
17	短時間プレゼンテーション実践（テーマ発表）
18	発表へのフィードバックと改善、表現力向上
19	質疑応答の心構え、対応策の検討
20	プレゼンテーション計画作成演習
21	中間発表課題の説明と準備開始
22	発表構成の検討とスライド骨子の作成
23	スライド内容の詳細化、デザイン調整
24	発表原稿の完成とリハーサルの実施
25	中間発表会（個人発表）
26	中間発表の振り返りと課題分析
27	応用プレゼンテーション技術、グループ発表の導入
28	最終発表課題の説明と準備、質疑応答練習
29	最終発表会（総合プレゼンテーション）
30	授業全体の振り返りと学習成果の評価

◆成績評価基準

出席率60%／授業態度10%／レポート・提出物30%／小テスト評価0%／中間期末試験なし

◆使用する教科書・教材

◆受講生へのメッセージ/注意事項

出席率が3分の2に満たない場合、成績がつかない（不合格）となる可能性があります。

専門学校イデアITカレッジ阿蘇

学習支援計画書(シラバス)

作成日:2026年02月13日

授業科目名	ITと観光業界の基礎	授業コード	

講師名	前田 和則	授業形態	対面	単位数	2
対象学科	IT国際学科科目	学年・時期	IT国際学科 全員 通年		

◆概要

時事ニュースなどを題材にIT業界や観光業界、ビジネス全般に対する理解を深め、専門用語についても学ぶ。

◆到達目標

1. IT業界および観光業界の基本的な構造と現状を理解すること。
2. 両業界に関連する主要な専門用語とその意味を習得すること。
3. 時事ニュースを通じ、ITと観光がビジネスに与える影響を多角的に考察する視点の獲得。

◆授業計画

コマ	授業内容
1	授業オリエンテーション、本学での学び方
2	ITとは何か、ITの基本概念理解
3	IT業界の歴史と主な発展経緯
4	主要なIT企業と提供サービス概要
5	観光とは何か、観光の定義と多様性
6	観光業界の構造と主な事業者紹介
7	ビジネス基礎、経済ニュースの読み方
8	ビジネス関連用語と時事ニュース解説
9	ITと観光の連携、その可能性概要
10	ITと観光の専門用語基礎学習
11	デジタル変革(DX)が観光に与える影響
12	AI(人工知能)技術の観光分野への応用
13	IoT(モノのインターネット)による観光体験
14	VR/AR技術による仮想・拡張体験の創出
15	ビッグデータの活用と観光マーケティング
16	ブロックチェーン技術の観光への活用検討
17	オンライン旅行代理店(OTA)の役割とビジネスモデル
18	スマートツーリズムの概念と実現技術
19	モビリティ・アズ・ア・サービス(MaaS)と観光
20	SNSを活用した観光情報発信戦略
21	体験型観光の企画とITの役割
22	サステナブルツーリズムとITによる貢献
23	観光産業における課題とIT解決策検討
24	国際観光市場の動向とITの役割理解
25	地域活性化に向けたITと観光の連携事例
26	ITと観光の成功事例分析、考察
27	ITと観光の失敗事例分析、改善提案
28	グループワーク課題発表に向けた準備
29	グループワーク成果発表会、質疑応答
30	科目全体のまとめ、学習の振り返り

◆成績評価基準

出席率60%／授業態度10%／レポート・提出物30%／小テスト評価0%／中間期末試験なし

◆使用する教科書・教材

◆受講生へのメッセージ/注意事項

出席率が3分の2に満たない場合、成績がつかない(不合格)となる可能性があります。

専門学校イデアITカレッジ阿蘇

学習支援計画書(シラバス)

作成日:2026年02月13日

授業科目名	ビジネスコミュニケーション	授業コード	

講師名	松永 祐一	授業形態	対面	単位数	2
対象学科	IT国際学科科目	学年・時期	IT国際学科 全員 通年		

◆概要

企業でのインターンシップ参加や卒業後の就労を見据えて、ビジネスシーンにおける日本語や日本の商習慣、ビジネスマナーについて学ぶ。

◆到達目標

1. ビジネスシーンで必要な日本語表現と語彙の習得
2. 日本の商習慣と基本的なビジネスマナーの理解と実践
3. 多様な状況に応じた円滑なビジネスコミュニケーションの実践能力

◆授業計画

コマ	授業内容
1	ビジネスコミュニケーションの基礎概念
2	自己紹介と他己紹介の基本
3	敬語の基本原則と種類
4	正しい敬語の使い方と練習
5	報告・連絡・相談(報連相)の基本
6	身だしなみと清潔感の重要性
7	ビジネスシーンでの挨拶と表情
8	名刺交換の正しい方法
9	来客応対の基本動作
10	電話応対の基本フレーズ
11	電話応対の実践練習
12	ビジネスメール作成の基本
13	ビジネスメールの実践演習
14	スケジュール調整の基本
15	会議での発言と傾聴の技術
16	議事録作成のポイント
17	指示の受け方と確認
18	指示の出し方と依頼
19	訪問時のマナーと準備
20	お礼と感謝の表現
21	プレゼンテーション資料作成の基本
22	プレゼンテーション発表の技術
23	交渉の基本と戦略
24	クレーム対応の基本と心構え
25	チームでの協調と協力
26	プロジェクト推進のコミュニケーション
27	顧客との良好な関係構築
28	総合的なビジネスシーン実践演習
29	ビジネスコミュニケーション成果発表
30	学習の振り返りと自己評価

◆成績評価基準

出席率60%／授業態度10%／レポート・提出物30%／小テスト評価0%／中間期末試験なし

◆使用する教科書・教材

◆受講生へのメッセージ/注意事項

出席率が3分の2に満たない場合、成績がつかない(不合格)となる可能性があります。

専門学校イデアITカレッジ阿蘇

学習支援計画書（シラバス）

作成日：2026年02月13日

授業科目名	インターネットと情報リテラシー	授業コード	

講師名	松永 祐一	授業形態	対面	単位数	4
対象学科	IT国際学科科目	学年・時期	IT国際学科 全員 通年		

◆概要

専門学校の専門課程においてITやビジネスの専門科目を学ぶための基礎となるインターネットやIT全般における知識を学び、パソコンの操作やタイピング、ドキュメントの作成などの習得を目指す。Google Classroomも積極的に使用し、Google環境のアプリの使用を習得する。

◆到達目標

1. IT学習の基礎となるインターネットと情報技術の基本知識を理解すること。
2. パソコンの基本操作、タイピング、基本的なドキュメント作成スキルを習得すること。
3. Google Classroomをはじめとするgoogle環境のアプリケーションを効果的に活用すること。

◆授業計画

コマ	授業内容
1	授業ガイダンスと学習目標の理解
2	コンピュータの構成と基本操作の習得
3	OSとファイル・フォルダ管理の基礎
4	キーボードとマウス操作の習熟、タイピング基礎
5	インターネットの仕組みと歴史の理解
6	Webブラウザの種類と基本操作
7	検索エンジンの活用と情報探索
8	Webサイトの構成とURLの理解
9	電子メールの仕組みと利用方法
10	ネットワークの基本と種類を学ぶ
11	情報セキュリティの重要性と基本原則
12	著作権と情報倫理の基礎知識
13	デジタルデータの種類と特徴の理解
14	クラウドサービスの概念と利用価値
15	情報リテラシーの定義と重要性
16	Googleアカウントの作成と管理
17	Google Driveの基本とファイル管理
18	Google Docsでの文書作成と共同編集
19	Google Docs応用：書式設定と画像挿入
20	Google Sheetsでの表計算基礎
21	Google Sheets応用：グラフ作成とデータ整理
22	Google Slidesでのプレゼンテーション作成
23	Google Slides応用：効果的なスライド構成
24	Gmailの機能とメールマナーの理解
25	Google Calendarでのスケジュール管理
26	Google Meetでのオンライン会議参加
27	Google Formsでのアンケート作成
28	オンラインでの情報収集と評価方法
29	フェイクニュースと情報の信頼性判断
30	パスワード管理と多要素認証の利用

31	プライバシー保護と個人情報管理
32	デジタルデトックスと情報過多への対応
33	オンラインコミュニケーションのルール
34	ネットいじめとSNS利用の注意点
35	情報活用のための思考法を学ぶ
36	Google検索の応用テクニック習得
37	Googleマップの活用と情報探索
38	YouTubeの教育的利用とコンテンツ評価
39	タイピング練習と速度向上への取り組み
40	ドキュメント作成総合演習と発表
41	Google Classroomへの参加と利用方法
42	Google Classroomでの課題提出と管理
43	チームでのドキュメント共同編集の実践
44	Google Workspaceを活用したプロジェクト演習1
45	Google Workspaceを活用したプロジェクト演習2
46	プレゼンテーション資料作成と発表準備
47	プレゼンテーション実践とフィードバック
48	データ収集とGoogle Sheetsでの簡易分析
49	Webサイト情報の評価と引用方法の習得
50	情報発信の倫理と責任の理解
51	ITトラブルシューティングの基礎知識
52	バックアップとデータ復旧の概念
53	ポートフォリオ作成と自己アピール
54	最新のITトレンドと社会への影響
55	学習成果の振り返りと自己評価
56	総合演習：課題解決プロジェクト発表準備
57	総合演習：課題解決プロジェクト発表準備
58	総合演習：課題解決プロジェクト発表
59	総合筆記試験と実技試験の実施
60	学習のふりかえり

◆成績評価基準

出席率60%／授業態度10%／レポート・提出物30%／小テスト評価0%／中間期末試験なし

◆使用する教科書・教材

◆受講生へのメッセージ/注意事項

出席率が3分の2に満たない場合、成績がつかない（不合格）となる可能性があります。

教材 4 科目

① 地域商品開発

地域商品開発（阿蘇プロジェクト）

2年生 専門科目

阿蘇ビーガン弁当 開発・販売プロジェクト

地元の料理店と連携し、「道の駅阿蘇」で販売する持続可能な地域商品の企画をスタートします。

背景：食の多様化への対応

世界的なビーガン需要の拡大

- **インバウンドの回復:** 阿蘇を訪れる外国人観光客の急増。
- **食文化の壁:** ベジタリアンやビーガン層が「食べるものがない」という課題。
- **阿蘇の資源:** 豊かな阿蘇の野菜は、ビーガン料理に最適。



データで見る阿蘇の需要

30%

訪日外国人のうち
ベジタリアン等の食習慣を
持つ人の潜在的比率

「食の空白」を埋める

道の駅阿蘇における現在の弁当ラインナップは、肉・卵・乳製品を使用したものが中心です。

思考ポイント：
なぜ、これまでビーガン弁当が普及しなかったのでしょうか？

開発のパートナーシップ

地元料理店 × IICA × 道の駅阿蘇



学生の役割: 市場調査、コンセプト立案、パッケージデザイン、販促企画。

料理店の役割: レシピの具体化、調理、保健所対応、安定供給。

道の駅の役割: 販売場所の提供、売上データのフィードバック。

阿蘇ならではの価値（USP）

阿蘇の旬野菜	阿蘇の湧水	景観とのリンク
寒暖差が育む濃厚な味わい	清らかな水で炊き上げる地元産米	草原を守る農業を食で応援する物語

ワークポイント：
阿蘇を象徴する野菜（あか牛以外）を3つ挙げ、どう料理に活かせるか考えてみよう。

メニュー構成案の検討

ビーガン構成の基本

カテゴリー	具体案（例）	阿蘇らしさのポイント
主食	古代米入り阿蘇産米のご飯	色鮮やかな視覚効果
メイン	阿蘇豆腐のステーキ	高タンパクで満足感大
副菜	高森産つるの子芋の煮物	伝統野菜の使用
彩り	阿蘇産パプリカのマリネ	海外観光客好みの味付け

販売場所：道の駅阿蘇

ターゲット顧客の動線

- **早朝層:** 登山・ドライブ客（テイクアウト需要）。
- **昼時層:** 家族連れ、団体観光客。
- **夕方層:** キャンプ場宿泊客。

※特に「キャンプ場で夜に食べる」ニーズへの訴求も検討余地あり。



価格設定と利益構造

販売価格 1,200円（税込）の場合の構成例



ワークポイント：
パッケージや割り箸に「プラスチック」を使わない場合、コストはどう変わるでしょうか？

② 地域課題解決実践プロジェクト

Introduction Workshop

地域課題解決実践PJ
イントロダクション

企画から実践まで、ゼロから創り上げるプロジェクトワーク

Course: 地域観光デザイン学科 専門科目
Mission: 地域の課題を発見し、解決策を「形」にする

Mission & Approach

プロジェクトの目的とアプローチ

1. 地域課題（Issue）
- 少子高齢化・過疎化
- 観光客の偏り・通過型観光
- 多文化共生の遅れ・人材不足

これらを「学生の視点」でどう捉え直すか？

2. 解決アプローチ（Solution）
- **イベント：**交流の場を創出する
- **商品開発：**地域の資源を再編集する
- **情報発信：**魅力を言語化して届ける

実行可能な「企画」に落とし込む。

Q. あなたが今、一番解決したい「南阿蘇の課題」は何ですか？（直感でOK）

Planning Framework

企画の骨格を作る「4つの要素」

WHO (Target)	WHAT (Value)	WHY (Purpose)	HOW (Method)
誰に来てほしい？ 年齢・属性・ 興味関心	何を提供する？ 食・体験・ 学び・交流	なぜやるのか？ 社会的意義・変化 のゴール	どう実現する？ 具体的な手法・運営 ・演出

Q. その企画に参加した後、参加者の心や行動はどう変化していますか？

DISCUSSION POINT
Resource Management

実現可能性の検証（リソース管理）

素晴らしいアイデアも、リソース（資源）がなければ実現しません。制約の中で最大効果を出すことがプロの仕事です。

- **ヒト（Manpower）：**
  運営メンバーは何人必要？役割分担は？
- **モノ（Materials）：**
  会場、機材、食材、装飾、備品は揃うか？
- **カネ（Budget）：**
  予算内で収まるか？収支計画（原価・売価）は？
- **時間（Time）：**
  当日までの準備期間は十分か？



Project Roadmap

プロジェクト進行ロードマップ

① 企画・調査	② 広報・集客	③ 準備・リハ	④ 実施・評価
課題の深堀り コンセプト決定 企画書作成	チラシ・SNS作成 ターゲットへの周知 申込受付管理	物品調達・制作 会場シミュレーション リスク対策	当日の運営 アンケート集計 収支報告・振り返り

Q.「告知」はイベントの命です。誰が、いつ、どうやって集客しますか？

DISCUSSION POINT
Risk Management

リスク管理：安全と信頼を守るために



- ⚠ **食品衛生・アレルギー：**
  食中毒対策、アレルゲン表示、保存方法。
- ⚠ **怪我・事故：**
  火気の取り扱い、動線の確保、保険加入。
- ⚠ **トラブル対応：**
  クレーム対応、悪天候時の判断基準。
- ⚠ **法令遵守：**
  道路使用許可、著作権、肖像権の確認。

Today's Goal

本日のワークショップゴール

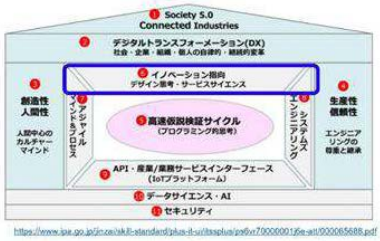
チーム編成	テーマ仮決定
役割分担とリーダー決定	誰に・何を・なぜやるか？

Action:「内容検討シート」の記入を開始してください。

③ 地域課題×IT

本科目の ITSS+（ITスキル標準+）における位置づけ

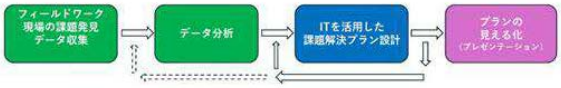
Society 5.0 時代に必要なデジタル人材の"スキルとマインド"の全体地図（経産省が整理した全体像）
～技術力だけでなく、創造性・柔軟性・対話力まで含めて、どんな人材がこれからの社会で活躍できるのか～



https://www.ipa.go.jp/jinzu/skill-standard/plus-it-ui/itssplus/pa6vr700000015je-att/000065688.pdf

科目の概要

本科目では、地域課題のいくつかについて取り上げ、その現状分析とITを活用した課題解決方法を学ぶ。
事例紹介を通じてデザインシンキングやストーリーテリングの基礎を理解し、仮説検証モデルを構築する。



１年次の【地域課題×ＩＴⅠ】、２年次の【地域課題×ＩＴⅡ】 連続授業

成績：年次ごとに授業態度と発表資料で評価する

科目の目標

目標

✓現場の課題について理解できる
✓課題を構成する要素を分析できる
✓分析した内容から課題を解決するプランを設計できる
✓設計したプランをITで実現できる＊１
✓プランを見える化（プレゼンテーション＊２）できる

＊１実現手段：モデル、設計図、アルゴリズム、プログラム、シミュレーションなど
＊２プレゼンテーション：資料、発表、説明

キーワード

1. プランニングとデータエンジニアリングの基礎（座学）
2. フィールドワーク（現場調査）
3. グループワーク
4. プレゼンテーション

地域課題×ITの基礎

地域課題×ITに必要な能力

技術的な価値は一生懸命追求するが，それを経済的な価値に持っていく技術と経営とをつなぐトータルな視点が，経営者にも技術者にも必要．

新製品開発，投資効率，環境問題，ハイテク・マーケティングなど技術以外の分野など技術を多角的な視点で経営（マネジメント）が必要とされる．

顧客第一主義の技術者育成
社会に通用する技術者育成

地域課題×ITの基礎

地域社会の問題をITで解決するには



地域課題×ITの基礎

ナレッジ・エンジニアリング　暗黙知 (Tacit knowledge) を知る！



地域課題×ITの基礎

データを深く考える

① 取り扱うデータの種類
② そのデータの形
③ そのデータの大きさ
④ そのデータの扱い方は？　取り込み、保存、更新